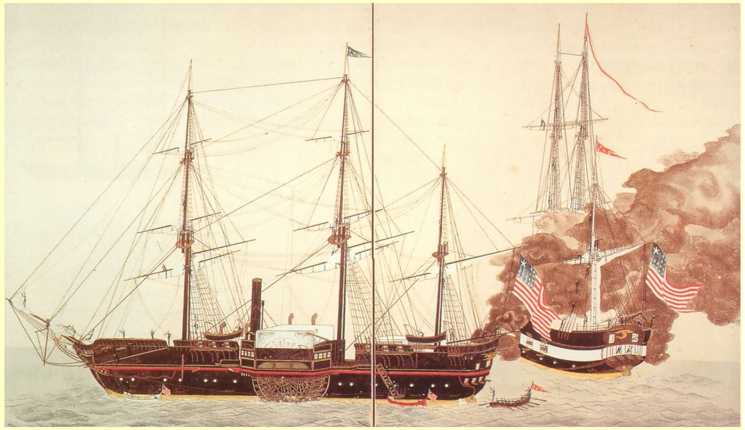
龍馬と船と黒船の威力

ポスター.doc

野澤和男　海事研究家、工博、(元)大阪大学



§１龍馬の生きた時代

内憂外患/龍馬の生きた時代/
高知城下の龍馬/江戸剣術修行

§２ペリー来航と黒船の威力

黒船とは/幕府は知っていた/尊皇攘夷・開国派

§３龍馬の成長と世界観

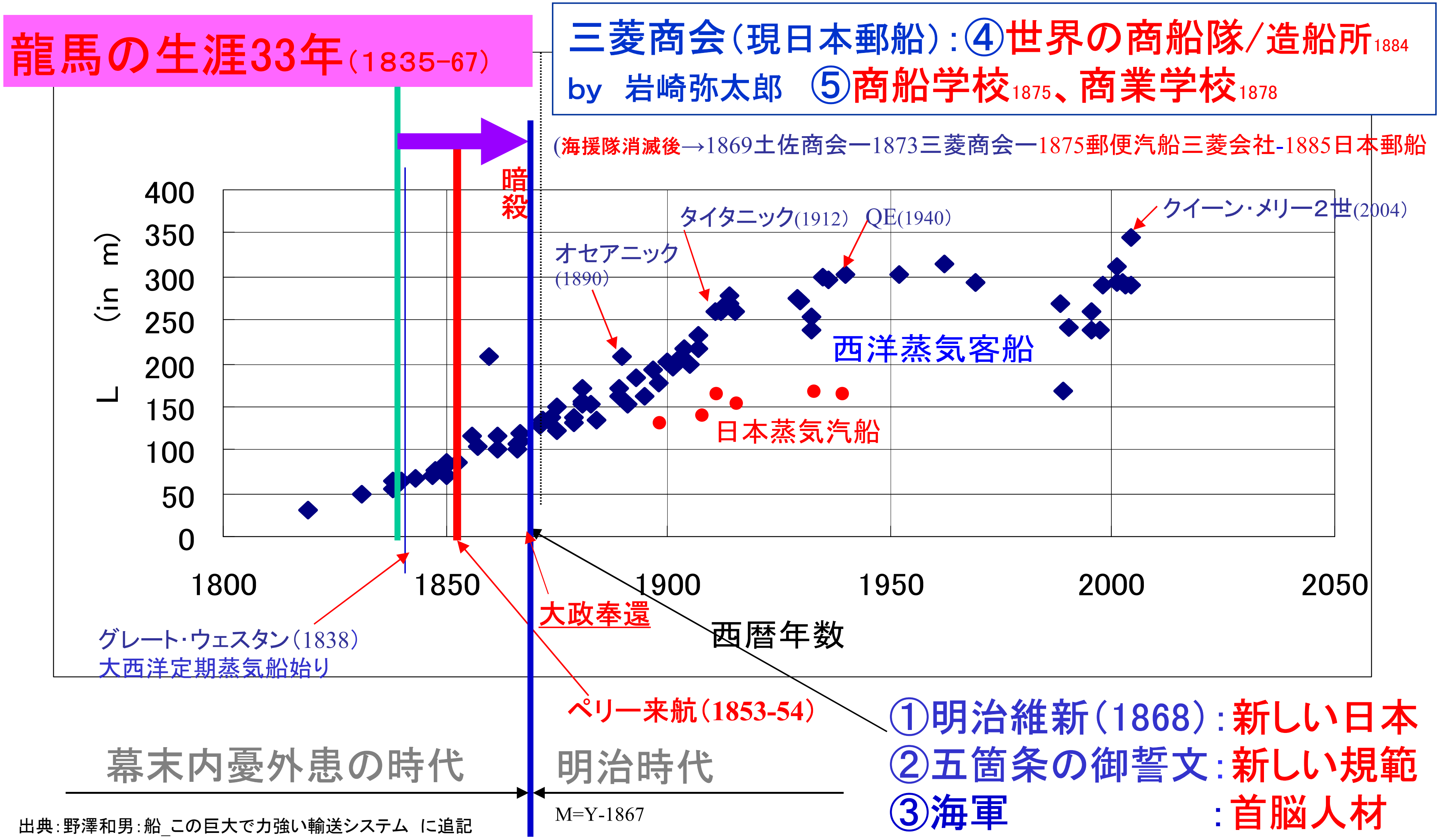
不即不離/勝海舟/神戸海軍操練所/龍馬と船と海

§４新しい日本へ:日本を今一度せんたくいたし申候

幕末主要発生事件/龍馬の線表/薩長同盟/海援隊/
船中八策/薩土盟約/大政奉還/五箇条の御誓文そしてロマン

提供:ポーハタン号(ペリー渡来絵図貼交屏風):東京大学史料編纂所(上)、 龍馬肖像立居写真: 高知県立坂本龍馬記念館(下) より

龍馬の大いなるロマンは達成されたのでしょうか？



出典：野澤和男：船_この巨大で力強い輸送システム に追記

この写真を見て何を感じるでしょうか？

1）質素

2）穏やか、やさしさ、無欲

3）刀を持たない（権力を誇示しない）

↓だから、龍馬はあれだけの偉業を成し遂げられたのではないだろうか。

●龍馬は“とてつもない”人物　空前絶後
●龍馬研究：
偉業を為した彼の人間性、向上心、世界観、実行力、説得力は一体、どこから、どのようにして生まれてきたのか、その因果関係は？

龍馬立居写真 （1867年1月頃長崎　上野彦馬撮影）

注） 龍馬伝の中にはいくつか諸説が存在するものがある。以下の解説は著者の私的見解に基づくものである。

§1龍馬の生きた時代

1.1　内憂外患の時代：T4

継続年数
265年

徳川幕府の歴史的変遷と坂本龍馬の生きた時代

継続年数	西暦	将軍	内容	
25	1603	家康 秀忠	**開幕～幕藩体制整備** 豊臣滅亡/家康征夷大将軍/外交・経済・農民統制の基礎固め/キリスト教廃止	T1
110	1630	家光 家綱 綱吉 家宣 家継	**幕藩体制成立から安定** 鎖国政策・大船建造禁止令/参勤交代制確立/清・オランダ通交 /商業資本の発展/享保の改革	T2
100	1740	吉宗 家重 家治 家斉	**幕藩体制の揺らぎ** 経済不安定(天明の大飢饉・米価騰貴・農民一揆)/田沼時代/寛政の改革	T3
30	1840 1868	家慶 家定 家茂 慶喜	**幕藩体制改革と異国船接近～崩壊　→内憂外患の時代** 西欧列強異国船来航・示威とペリーの黒船来航　龍馬 ①経済問題深刻化 ②西欧列強異国船来航・示威と黒船来航	T4

龍馬の生きた時代

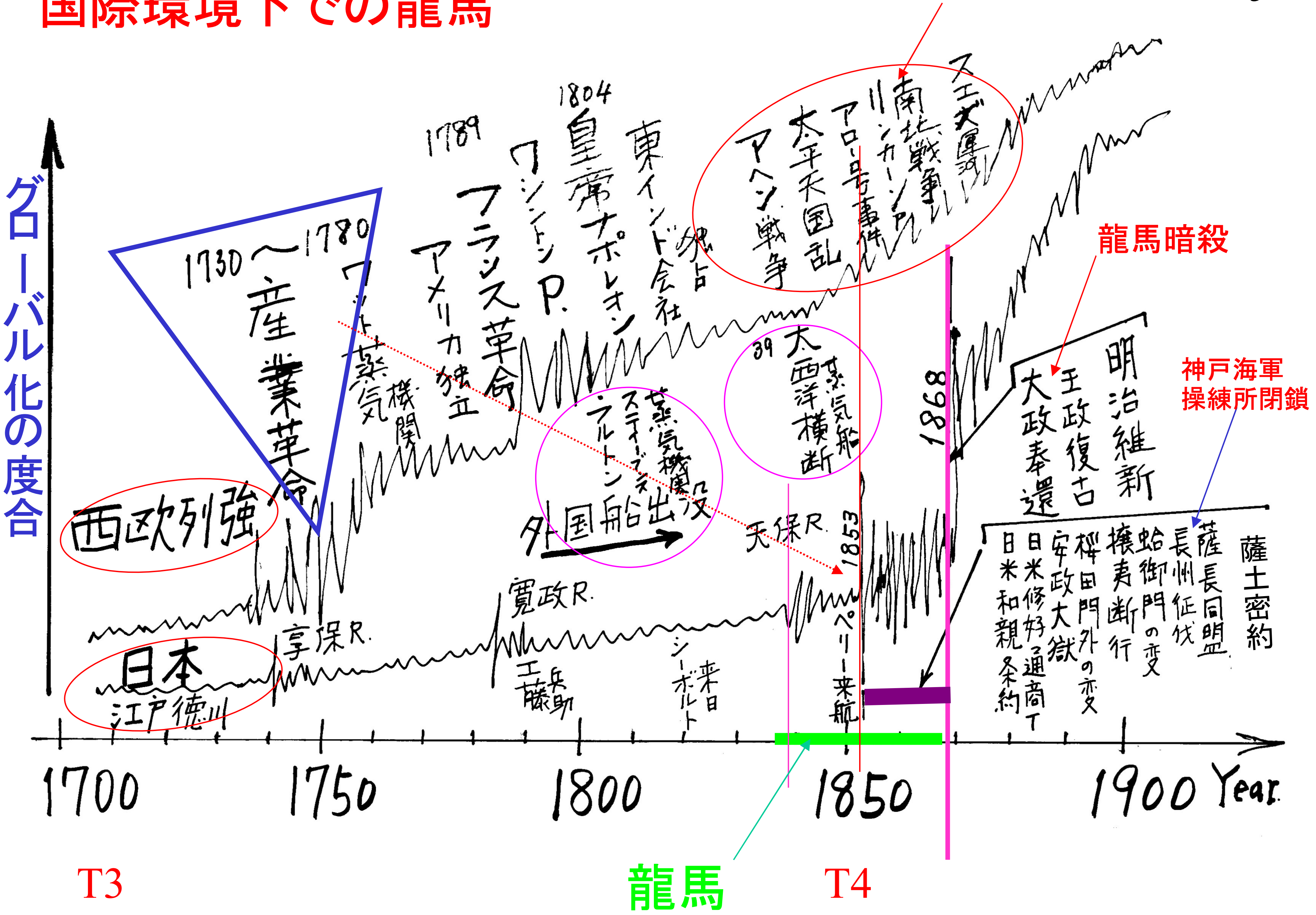
徳川家康

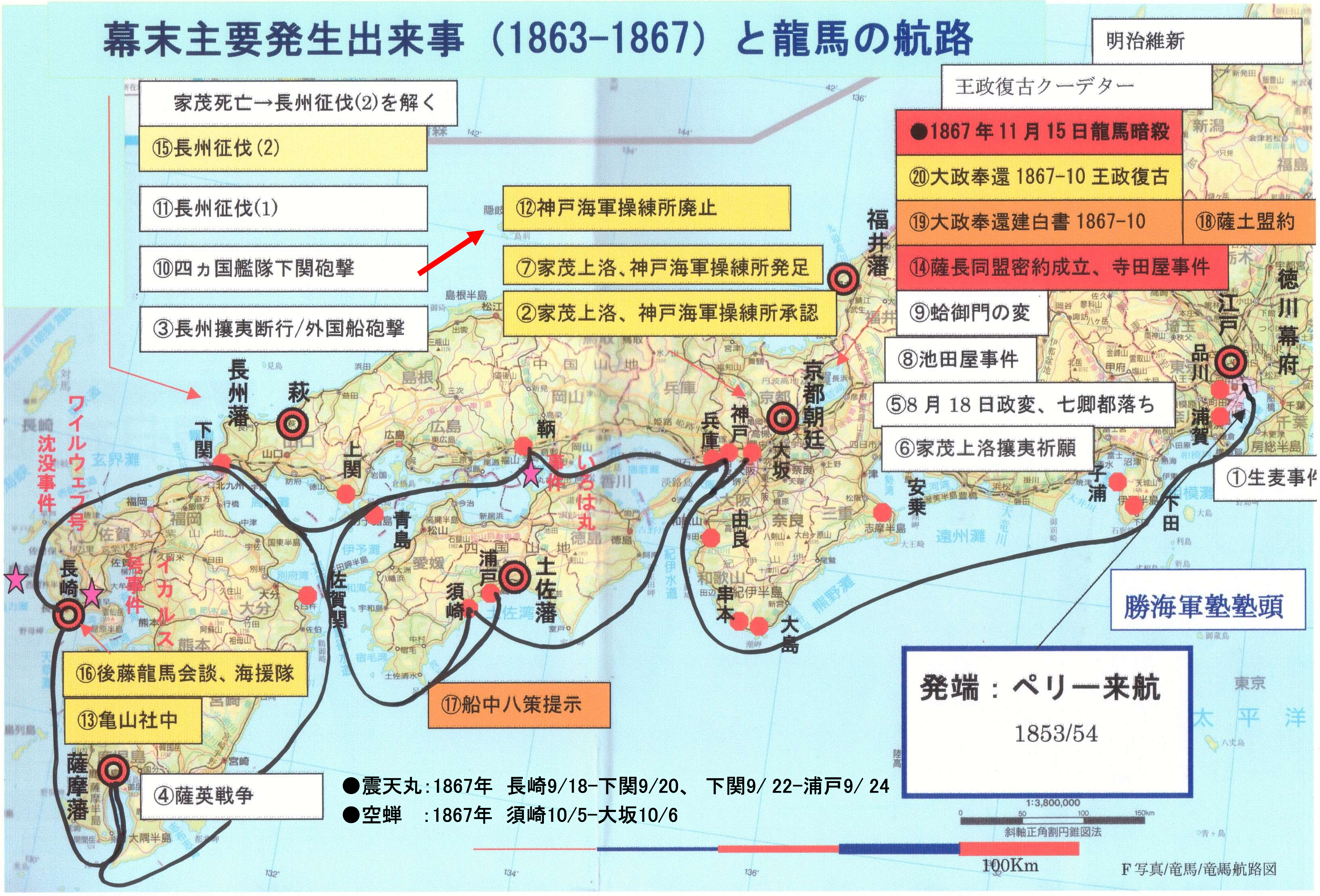
徳川慶喜

偉業：
- 薩長同盟
- 船中八策
- 薩土密約
- 大政奉還
- 明治維新
- 五箇条の御誓文

●徳川幕府は、なぜ、倒幕、討幕されなければならなかったのか？

国際環境下での龍馬


グローバル化の度合
1730〜1780
産業革命
西欧列強
日本
江戸徳川
ワット蒸気機関
アメリカ独立
1789
フランス革命
ワシントンP.
1804
皇帝ナポレオン
東インド会社
独占
アヘン戦争
太平天国乱
アロー号事件
リンカーン
南北戦争
スエズ運河
フルトン・スティーブンス蒸気機関
外国船出没
39 太西洋横断 蒸気船
天保R.
1853
ペリー来航
享保R.
寛政R.
工藤平助
シーボルト来日
1868
大政奉還
王政復古
明治維新
龍馬暗殺
神戸海軍操練所閉鎖
日米和親条約
日米修好通商T
安政大獄
桜田門外の変
攘夷断行
蛤御門の変
長州征伐
薩長同盟
薩土密約
1700
1750
1800
1850
1900 Year
T3
龍馬
T4


幕末主要発生出来事（1863-1867）と龍馬の航路
明治維新
王政復古クーデター
●1867年11月15日龍馬暗殺
⑳大政奉還 1867-10 王政復古
⑲大政奉還建白書 1867-10
⑱薩土盟約
⑭薩長同盟密約成立、寺田屋事件
⑨蛤御門の変
⑧池田屋事件
⑤8月18日政変、七卿都落ち
⑥家茂上洛攘夷祈願
①生麦事件
家茂死亡→長州征伐(2)を解く
⑮長州征伐(2)
⑪長州征伐(1)
⑫神戸海軍操練所廃止
⑩四ヵ国艦隊下関砲撃
⑦家茂上洛、神戸海軍操練所発足
②家茂上洛、神戸海軍操練所承認
③長州攘夷断行/外国船砲撃
⑯後藤龍馬会談、海援隊
⑬亀山社中
④薩英戦争
⑰船中八策提示
勝海軍塾塾頭
発端：ペリー来航
1853/54
福井藩
京都朝廷
徳川幕府
江戸
品川
浦賀
下田
子浦
安乗
大坂
神戸
兵庫
由良
串本
大島
長州藩
萩
下関
上関
鞆
いろは丸事件
青島
佐賀関
浦戸
須崎
土佐藩
長崎
ワイルウェフ号沈没事件
イカルス号事件
薩摩藩
●震天丸:1867年 長崎9/18-下関9/20、 下関9/22-浦戸9/24
●空蝉 :1867年 須崎10/5-大坂10/6
1:3,800,000
斜軸正角割円錐図法
100Km
F写真/竜馬/竜馬航路図

1.2 龍馬33年の生涯:3つの時期(Ⅰ～Ⅲ)

西暦	将軍	出来事一般	歳	龍馬33年の生涯 3つの時期 年表	期	
1835	↓	冷害凶作飢饉継続 異国船来航	1	龍馬生まれる。坂本八平直足次男		
36	家慶	米価高騰 米モリソン号事件	2	(本家:高知城下豪商才谷屋の分家郷士坂本家)		
	12代	大塩平八郎乱、天保の改革(水野忠邦政治改革)			第Ⅰ期→Σ18年	
46		阿部正弘老中となる	12	母幸病没、その後継母 伊予に育てられる。	成長期	
48			14	日根野道場で小栗流剣術を学ぶ。		
53	家定	黒船来航ペリー プチャーチン長崎来航	19	江戸剣術修行千葉道場、江戸湾防備・黒船来航		
	13代	幕府開国の是非諸侯に問う:攘夷と開国、幕藩体制崩壊		土佐河田小龍訪問、象山に入門		
54		日米和親条約／英・露・蘭との和親条約	20			
55		長崎海軍伝習所、蛮書取調所開設、堀田正睦老中	21	父八平死		
56		アメリカ総領事ハリス着任	22	再び江戸剣術修行	第Ⅱ期→Σ 9年	
57		軍艦教授所(講武所内)、将軍継嗣問題(慶喜/慶福)	23		修行期	
58	家茂	日米修好通商条約	24	北辰一刀流兵法目録受		
59	14代	開港:横浜,長崎,箱館:(生糸海産)商品経済: 安政大獄	25			
60		遣米使節、安藤正信公武合体論、和宮降嫁、桜田門外変	26			
61		開港:兵庫・新潟 60→68開港:幕藩体制崩壊	27	武市半平太 土佐勤王党血盟		
62		坂下門外変、島津久光江戸に(公武調停)、帰途生麦事件	28	土佐脱藩、勝海舟入門★幕府輸入許可武器軍艦		
		京都守護職(容保)、参勤3年1度に		松平春獄の知遇	不即不離	達観
63		薩英戦争、 家茂上洛攘夷祈願最高潮、	29	脱藩罪許さる。神戸海軍操練所創設資金→春獄	第Ⅲ期	→Σ5年
		攘夷断行(5月10日)、攘夷論者失脚、8/18政変七卿都落ち		長州の外国船発砲事件、土佐脱藩2	活動期	
64		神戸海軍操練所s、池田屋事件、蛤御門変、長州征伐①	30	神戸海軍操練所発足、塾頭、池田屋騒動, 禁門の変		
		下関砲撃、英パークス→(雄藩)、仏ロッシュ→(幕府支援)		第1次長州征伐, 西郷に会う、海舟帰還、操練所解散	空白の4ヶ月	
65		亀山社中設立	31	薩摩行、亀山社中設立、薩長和解策、武市切腹		人間が
66	慶喜	薩長同盟の密約成立, 長州征伐②	32	薩長同盟成立、寺田屋事件、		変わる
	15代			お龍と結婚、ワイルウェフ号沈没、第2次長州征伐	第Ⅲp期	3年
67			33	亀山社中代表→海援隊長、脱藩許さる	活動期	
				中岡(慎):陸援隊長、いろは丸沈没事件		
		薩土盟約		後藤(象)に船中八策、薩土密約、大政奉還建白		
		●大政奉還建白、大政奉還、 倒幕の密議		イカルス号事件処理、大政奉還達成		
		王政復古		「新政府綱領八策」起草 近江屋事件 龍馬暗殺		
1868		明治維新				

1.3 高知城下の龍馬の成長（第1期）

（1）郷士坂本家：家系図

龍馬は天保6年（1835）高知の郷士坂本家に生まれた。

豪商才谷屋3代直益のときに才谷屋から分家し、初代直躬（龍馬曽祖父）は郷士株を買って郷士になった。

身分は下士であったが、分家の際に多額の土地財産を相続、非常に裕福な家庭であった。 和歌の嗜みのある家

（2）家族：

両親：父直足（八平、養子）③、
母幸（二代目直澄の娘）、伊予（継母）

兄弟姉妹：5人、

兄は直足（八平）、姉が千鶴、栄、乙女に続いて直柔（龍馬）

・朗らかな、面白い家族

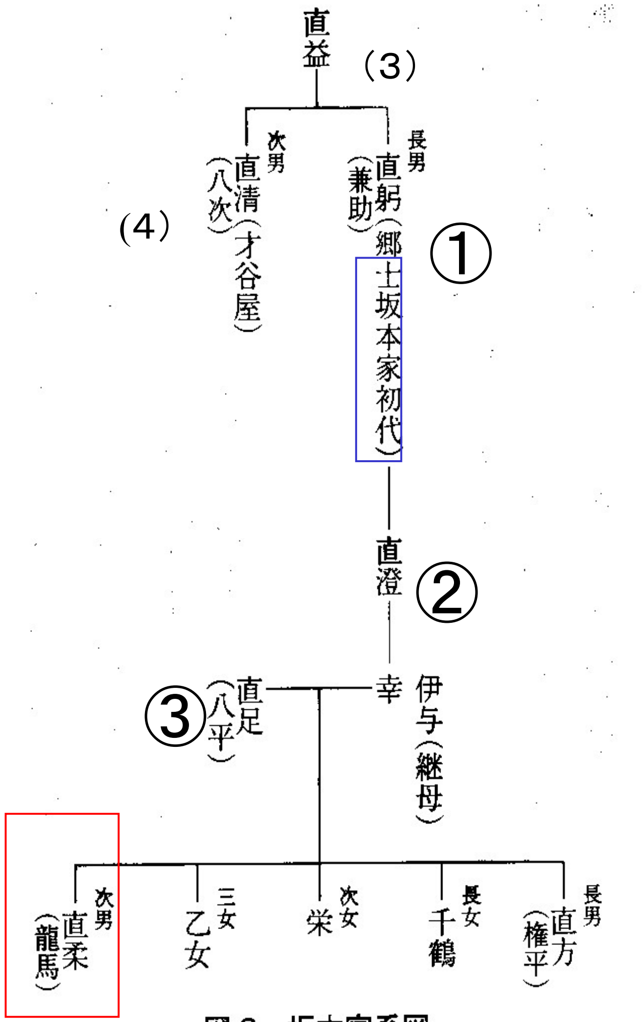


図2 坂本家系図

なおなり

図1 才谷屋の看板下絵（高知市民図書館蔵）

諱
字

●龍馬12歳の1846年、母の幸が49歳で病死した。父八平は50歳のとき後妻伊予(二人扶持切米七石の御用人北代家の娘)を迎えた。伊予は美人、聡明で勝気な反面、慈悲心が強く小柄だが薙刀の名手で、龍馬は12歳以降19歳の江戸修行まで育てられた。　※ 12歳ごろ楠山漢学塾退学

→　余は早くより学を廃し今は不幸にして無学者となれり。

◎乙女/龍馬は浦戸湾口・種崎まで和船で鏡川を下り伊予の実家川島家*を訪ねた。

*)御船蔵の商人(廻船業)下田屋猪三郎:西洋事情に精通、少年龍馬に万国地図、長崎風説書、漢風説書をみせながら日本、西欧、アメリカ、中国の話をして聞かせた。

(3)剣術修行:

14歳のとき日根野道場に通い始め、19歳(嘉永6年、1853年)で「小栗流和兵法事目録」を得た。

その後、さらに剣術修行を重ねるために江戸に出発した。 57歳の父は出発する龍馬に「修行中心得大意3ヶ条」(次頁)を書いて与えた。

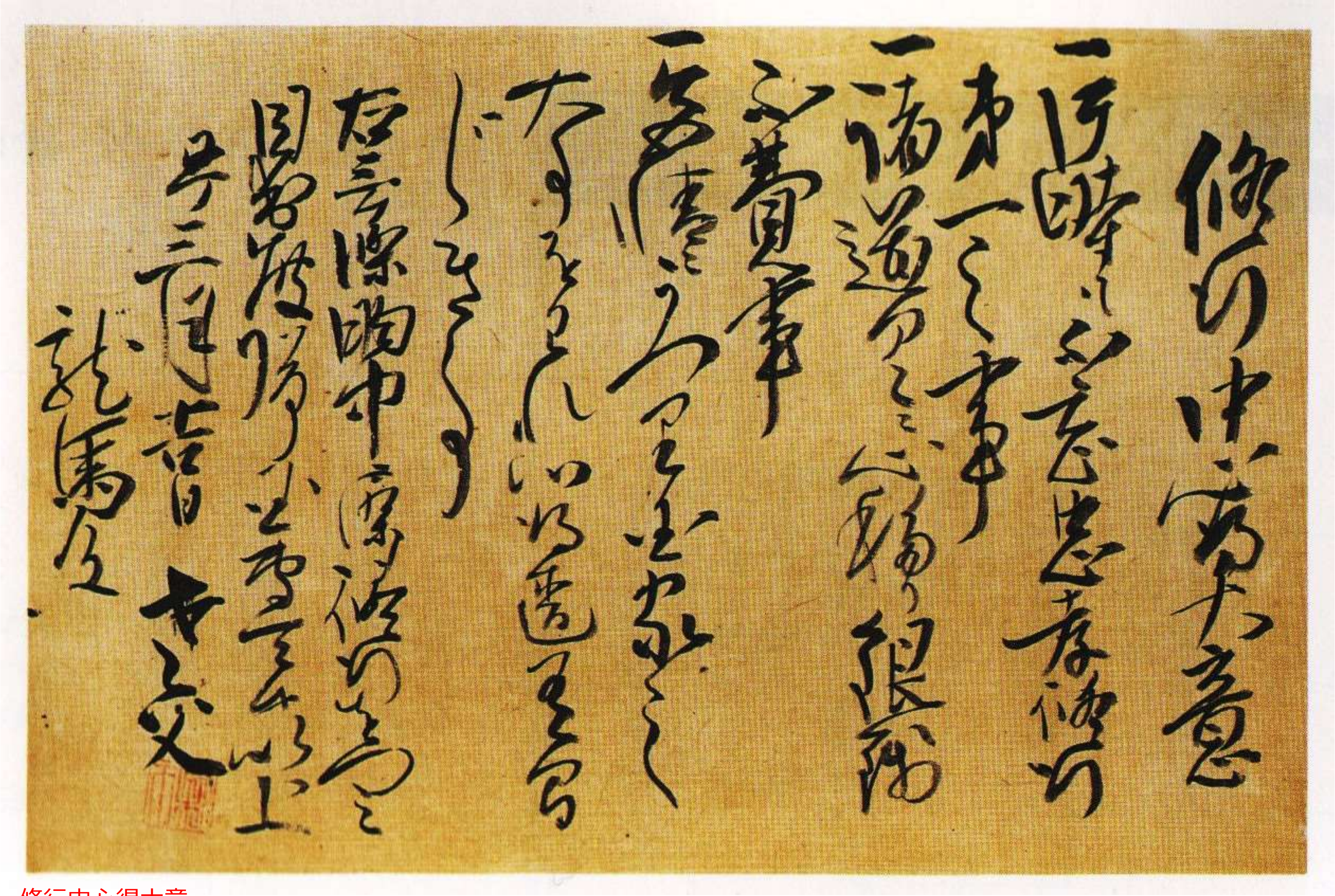
龍馬の生まれ育った高知

修業中心得大意

（父八平直足訓誡書）

嘉永六年1853年3月、龍馬の江戸修行のため土佐出立にあたり父八平は『修行中心得大意』と題する訓戒状を龍馬に与えているが、海援隊士関義臣（山本龍二）の遺談によると、龍馬はこの訓戒状に「守」と自書して終生大切にしていたという。

-坂本龍馬伝記考（coocan.jp）



修行中心得大意
一、片時も不忘忠孝、修行第一之事。
一、諸道具に心移り、銀銭不費事。
一、色情ニうつり、国家之大事を忘れ、心得違有間じき事。
右三ヶ条胸中ニ染メ修行をつミ、目出度帰国専一ニ候。以上。
丑ノ三月吉日　　　老父（印）
龍馬殿

京都国立博物館
https://syuweb.kyohaku.go.jp/ibmuseum_public/index.php?app=shiryo&mode=detail&data_id=475

▲少年時代の環境は第2の天性を育む。

▲人は環境により計り知れない影響を受ける。

12歳で実母幸を亡くした悲哀と寂寥の龍馬と姉の乙女

鏡川を和船を下り、継母伊予の実家のある土佐湾口の種崎まで遊びに行った。・・・白波の打ち寄せる桂浜に立っては延々と広がる青海原の太平洋を飽くことなく眺めたことだろう。

第2期　龍馬の修行期

53	嘉永6	家定	黒船来航ペリー　　プチャーチン長崎来航	19	江戸修行:千葉道場入門、防備･黒船来航
		13代	幕府開国の是非諸侯に問う:攘夷論と開港論、幕藩体制崩壊		佐久間象山の｢及門録｣に記載
54	安政1		ペリー再来航→日米和親条約／英･露との和親条約	20	土佐帰国、小栗流和兵法十二か条受、河田小龍知遇
55	安政2		長崎海軍伝習所、蛮書取調所開設、堀田正睦老中になる。	21	父八平死
56	安政3		アメリカ総領事ハリス着任	22	再び江戸剣術修行、武市半平太と交流
57	安政4		軍艦教授所(講武所内)、将軍継嗣問題(慶喜/慶福)起こる	23	山本琢磨犯罪処理
58	安政5	家茂	日米修好通商条約無勅許→孝明天皇激怒　公武X	24	北辰一刀流兵法目録受、土佐に帰国
59	安政6	14代	開港:横浜,長崎,箱館:(生糸、海産物:商品経済:安政大獄	25	西洋砲術家徳弘孝蔵に入門
60	万延1		遣米使節咸臨丸、安藤正信公武合体へ、和宮降嫁、桜田門外変	26	
61	文久1		開港:兵庫･新潟　60→68攘夷論開港幕藩体制崩壊へ	27	武市半平太土佐勤王党血盟、龍馬加盟
62	文久2		坂下門外変、島津久光上洛(公武調停、寺田屋粛清)、吉田東洋暗殺	28	土佐脱藩、勝海舟入門

テロの時代へ

1.4 江戸剣術修行

河田小龍

（1）江戸滞在 ①

・1853年（嘉永6年）北辰一刀流千葉定吉入門　←3月土佐を出発
・6月ペリー来航（第1次） 八平宛の手紙：龍馬も土佐藩警備要員
・1854年1月ペリー(第2次)再度来航 →日米和親条約締結

（2） 1854年6月土佐帰藩

●河田小龍（1824-98：日本画家、蘭学、軍事技術、西洋事情） 人材育成
中浜万次郎(1827-98)を取り調べ自宅で教育する。万次郎から米国事情を聴取、「漂巽(ひょうそん)紀略」を上梓し、土佐藩を経て幕府に献上される。
龍馬は小龍を訪ね日本の為すべき施策を尋ねると、
「外国の大船を買い、同志を乗せ、人と荷物を積んで海洋に乗り出し、貿易によって異国に追いつくことが日本のとる道・・・・」だと説いた。龍馬はポンと手を叩き“日本は井の中の蛙だ！先生は人材を育成してください。私は船の方を用意しますから・・・“ と約束して別れた。
私塾“墨雲洞”には、後の海援隊士近藤長次郎、長岡謙吉などや岩崎弥太郎、後藤象二郎がいた。
（藤蔭略話/坂本龍馬全集）

（3）再び江戸剣術修行 ②

・ 1856年9月到着。千葉定吉道場　・1858年1月「北辰一刀流長刀兵法目録」
▲ 1858年6月日米修好通商条約締結→無勅許がその後の国内の大問題となる。
・9月龍馬土佐に帰着
・9月安政の大獄起こる。
・9月砲術家徳弘弘蔵に入門　→幅広く興味をいだく龍馬
・1860年日米修好通商条約批准、　3月桜田門外の変
・1861年土佐勤王党盟約書（首唱：武市半平太）、龍馬は192人の9番目に血判
・1862年1月坂下門外の変（老中安藤信正殺傷）←公武合体論推進が原因
●3月　龍馬第1次脱藩

「漂巽(ひょうそん)紀略」 河田小龍著

https://www.kufs.ac.jp/toshokan/gallery/data08.htm

§2ペリー来航と黒船の威力

2.1ペリー来航

(1)黒船とは一体、どのようなものなのか。

何故、黒船なのか？　大きさは？　船型は？　ペリー来航の航路は？　戦略は？

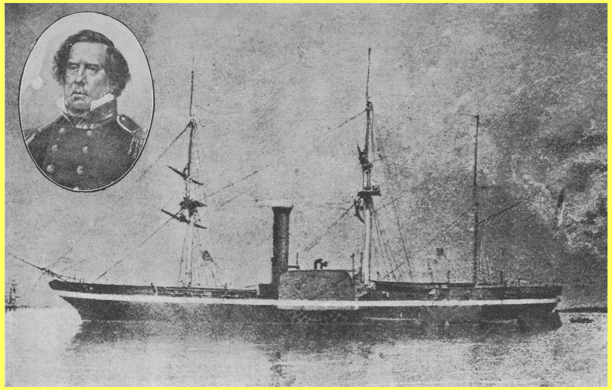


写真2-18　サスケハナとペリー提督
（社団法人日本船舶海洋工学会より転載許可）

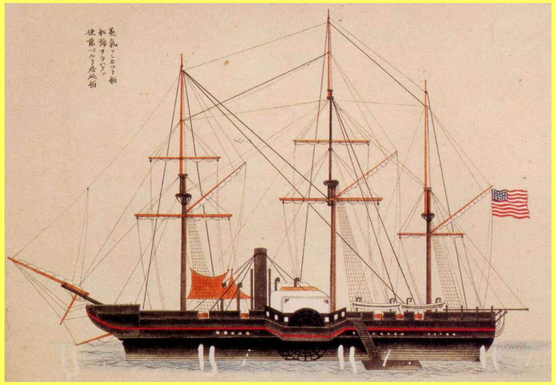


写真2-19　ポーハタン
（神奈川県立歴史博物館より転載許可）

1853年6月、アメリカ東インド艦隊司令官ペリーは外車蒸気船2隻「サスケハナ」（Susquehanna：旗艦）、「ミシシッピ」と帆船2隻「サラトガ」、「プリマス」計4隻の艦隊で浦賀に現われ、米国大統領の国書を示して開国を迫った。1633年の鎖国令から220年後に起こった「黒船来航」の難局に老中主席阿部正弘は幕政の転換を計って挙国的対応を始めた。その驚きが開国前夜の落首に表れている。

・泰平の眠りをさます上喜撰（蒸気船）たった四はい（四隻）で夜も眠れず

・陣羽織異国から来て洗いはり　ほどいてみれば裏が（浦賀）大変

黒船“サスケハナ”の特徴

船体要目：L×B×D×d×△=76.2×13.72×8.08×5.94m×3,824ton

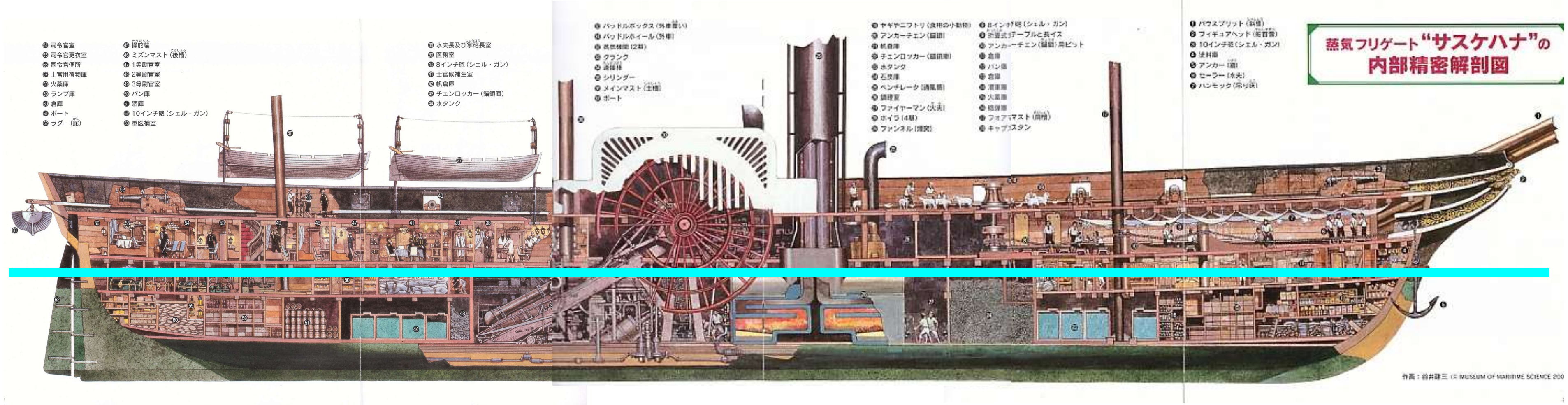
L/B×B/d×B/D　=5.55×1.70×2.32　馬力：795 IHP

（例えば、江戸ー大阪：700km/（9×1.852）=42h（1.8日））

蒸気機関：斜動型

推進装置：外車（Paddle wheel）　D=9.45m×左右×12rpm

（Screw Propellerではない。）　乗組員：300名

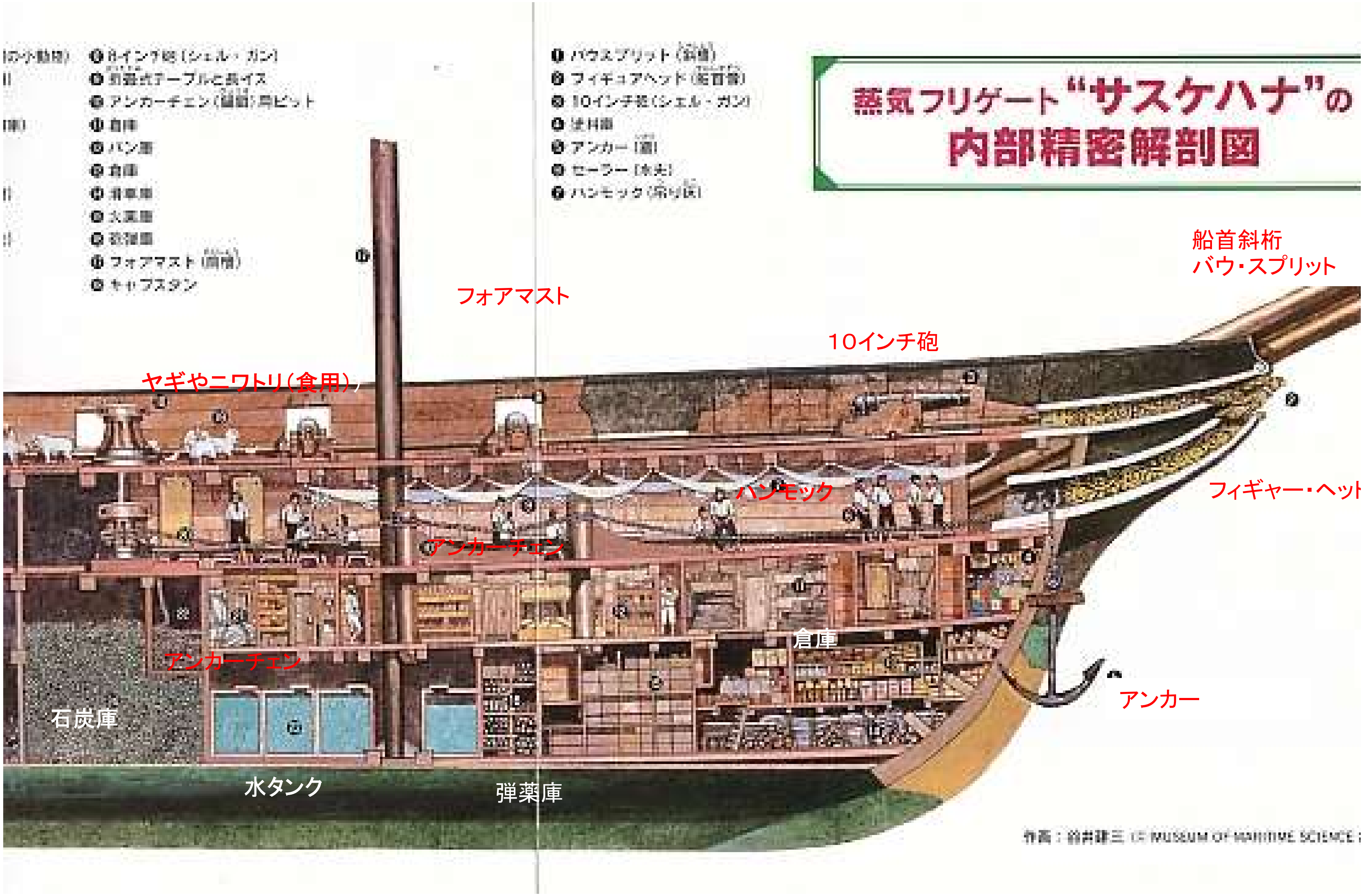


サスケハナ

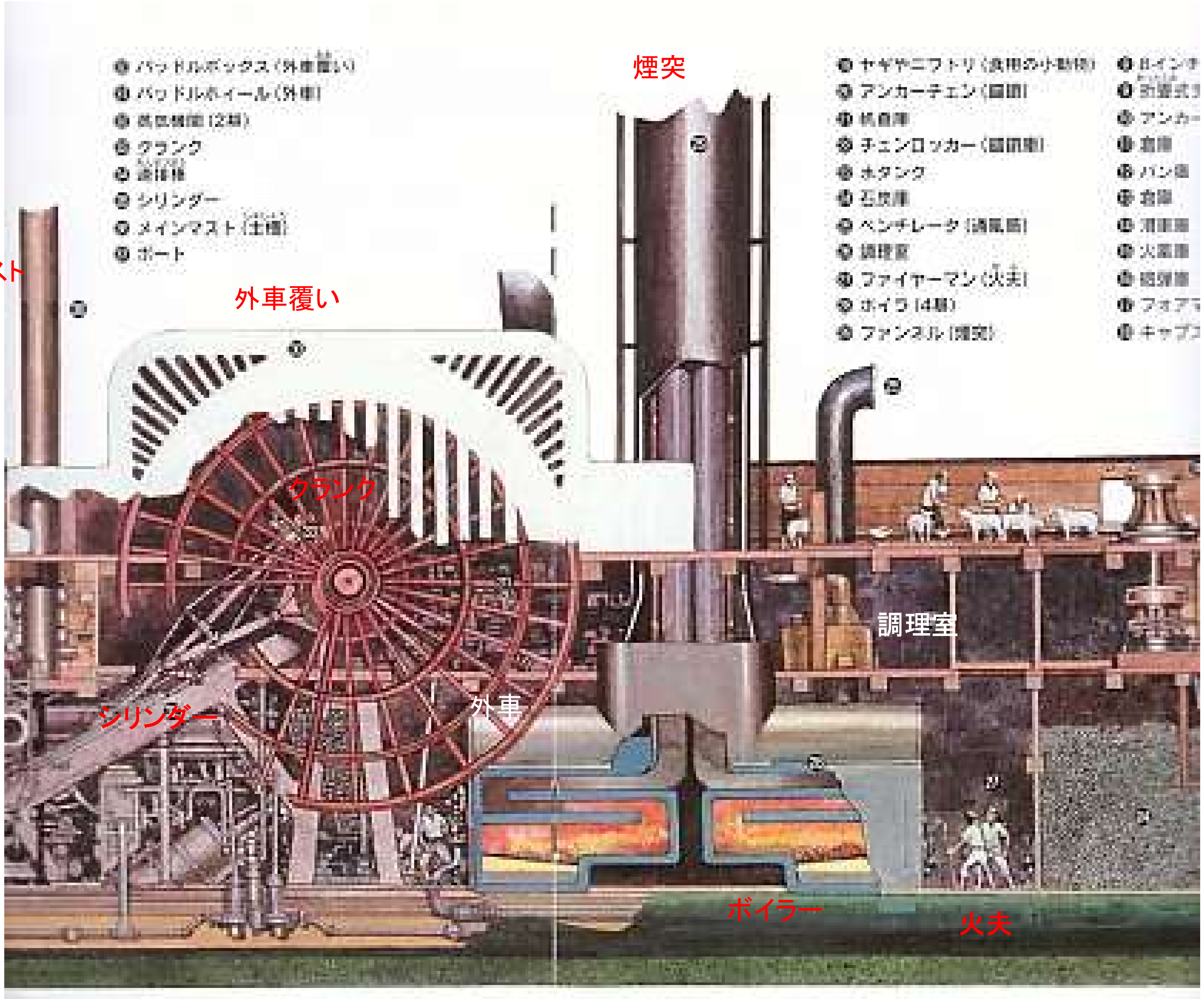
巻末参考：P93,94,95

出典：船の科学館資料ガイド4“黒船来航”（財）日本海事科学振興財団

内部を探検しよう



出典：船の科学館資料ガイド4"黒船来航"（財）日本海事科学振興財団

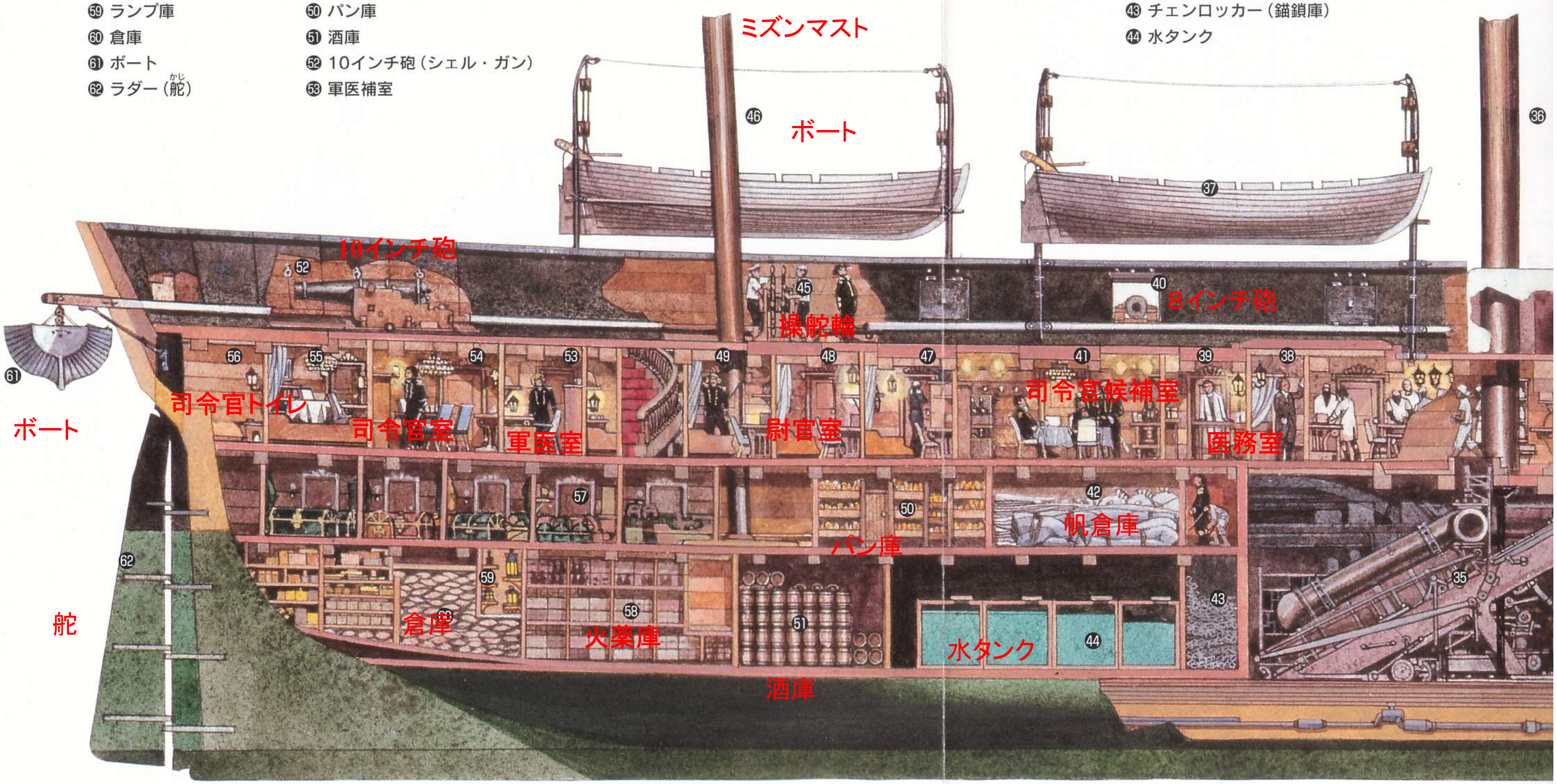


出典：船の科学館資料ガイド4“黒船来航”（財）日本海事科学振興財団

54 司令官室
55 司令官更衣室
56 司令官便所
57 士官用荷物庫
58 火薬庫
59 ランプ庫
60 倉庫
61 ボート
62 ラダー（舵）

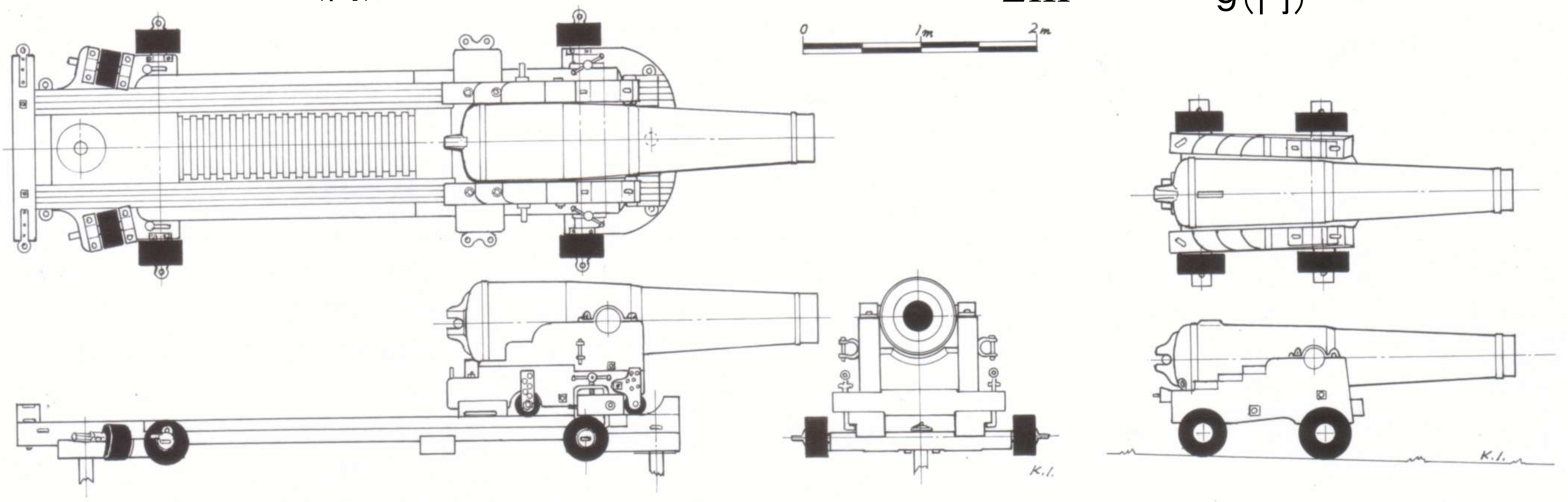
45 操舵輪
46 ミズンマスト（後檣）
47 1等尉官室
48 2等尉官室
49 3等尉官室
50 パン庫
51 酒庫
52 10インチ砲（シェル・ガン）
53 軍医補室

38 水夫長及び掌砲長室
39 医務室
40 8インチ砲（シェル・ガン）
41 士官候補生室
42 帆倉庫
43 チェンロッカー（錨鎖庫）
44 水タンク



出典：船の科学館資料ガイド4“黒船来航”（財）日本海事科学振興財団

３（門）　　　　　　　　　　　　　　　2m　　　　　　９（門）



10インチ砲（シェル・ガン）ピボット・キャリッジ（旋回架台）に搭載された状態を示す。炸裂弾（シェル）が発射可能な砲で、"サスケハナ"、"ミシシッピ" に搭載

8インチ砲（シェル・ガン）炸裂弾（シェル）が発射可能な砲で、各艦に共通した備砲

出典：船の科学館資料ガイド4"黒船来航"（財）日本海事科学振興財団

・パロット10インチ砲の弾丸＝25.4cmΦ、48kg

・炸裂弾(シェル)：弾丸の内部に火薬が封入(日本は球形の鋳鉄弾)

・前装砲で滑腔砲

・射程距離：3km以上

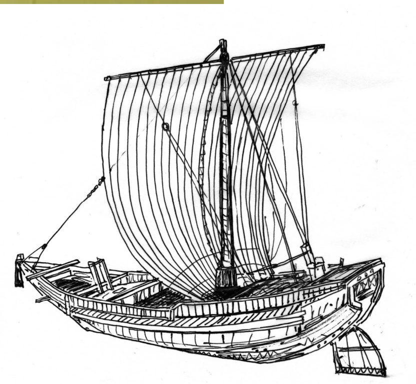
→江戸の町は小型砲艦2隻で壊滅できる。(ペリー)

ボート・ホイッスル搭載

"ミシシッピ" の航路図（第1次来航時）

出典：船の科学館資料ガイド4"黒船来航"（財）日本海事科学振興財団

黒船の威力



菱垣廻船、150ton，L＝30m

黒船と和船の比較

出典：船の科学館資料ガイド4“黒船来航”（財）日本海事科学振興財団

第２次来航：1854年神奈川沖（現横浜大桟橋沖）

出典：“ペリー来航と横浜”ハイネ画（横浜開港資料館）

①第1次来航

・1853年7月8日　蒸気船2隻（サスケハナ、ミシシッピ）と帆船2隻（プリマス、 サラトガ）の計4隻で
浦賀に来航

・7月14日久里浜にてフィルモア大統領国書の伝達式

・来春再び来航する旨を告げて艦に戻り、全船北上して小柴崎(現横浜市金沢区沖)に停泊。　この地点をアメリカ錨地（American Anchorage）と命名。

・来航直後から、測深ボートにて江戸湾内の測深を行う。

・江戸まで7マイルの所まで北上し、示威活動を行う。

・ 7月17日江戸湾を出航

【経路】

1852年11月24日ペリーは蒸気船“ミシシッピ”で米国東海岸ノーフォークを出発し、大西洋を東進してアフリカ・マデイラ、セントヘレナ島、ケープターン、モーリシャス島、シンガポールに寄港。1853年4月4日香港に入港。上海にて4隻が合流。5月26日艦隊は那覇に入港。7月2日サスケハナがサラトガを、ミシシッピがプリマスを曳航して那覇を出発、7月8日に浦賀着。

②第2次来航

・1854年2月1日：蒸気船ポウハタン、サスケハナ、ミシシッピは帆装艦ヴァンダリア、レキシントン、マセドニアンを曳航して浦賀水道を北上、小柴崎沖の通称アメリカ錨地（American Anchorage)に計9隻が投錨。日米和親条約調印場所：神奈川

・ 2月27日：艦隊を神奈川沖1海里に横一列に停泊。5海里の海岸を射程範囲に

・ 3月8日：ペリーが500人の儀杖兵に護衛されて上陸し、新設の条約館で日本側使節と条約締結交渉を始めた。（ペリー艦隊同行のハイネ“ペリー上陸図”参照）

・ 3月13日：将軍への贈り物陸揚げ（蒸気機関車模型、電信機、農機具、小銃等）

・3月27日：ペリーが日本側関係者約70名をポウハタンに招待し盛大な歓迎会

・ 3月31日：日米和親条約が調印された。

・4月18日：ペリーはポウハタン、ミシシッピを率いて神奈川港を出航、下田に立ち寄った後、沖縄経由で香港に向かった。

ペリーの日本遠征を伝える「絵入りロンドン・ニュース」紙　1853年5月7日

ペリーの日本遠征報道「絵入りロンドンニュース紙」　出典：ペリー来航と横浜”（横浜開港資料館）

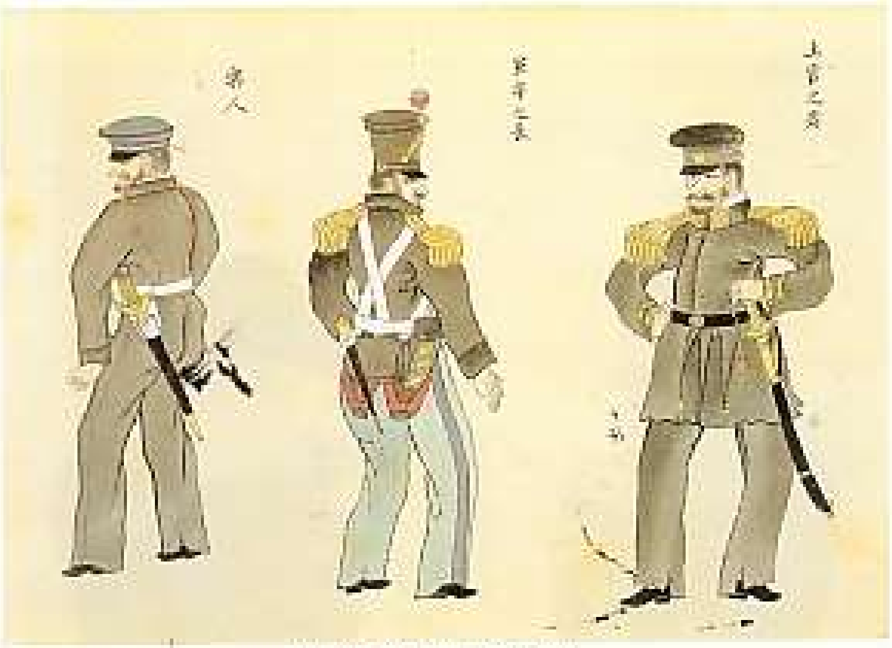
11　横浜に上陸するペリー一行と応接所（黒船来航画巻）
応接所の見取図には、幕府の役人の配置が詳しく描かれている。

1　神奈川宿台から横浜応接所を眺めた図（黒船来航画巻）
手前に描かれているのは東海道神奈川宿（神奈川区）。中央にペリー艦隊、右手前に横浜応接所がある。中央の奥には房総半島が見える。

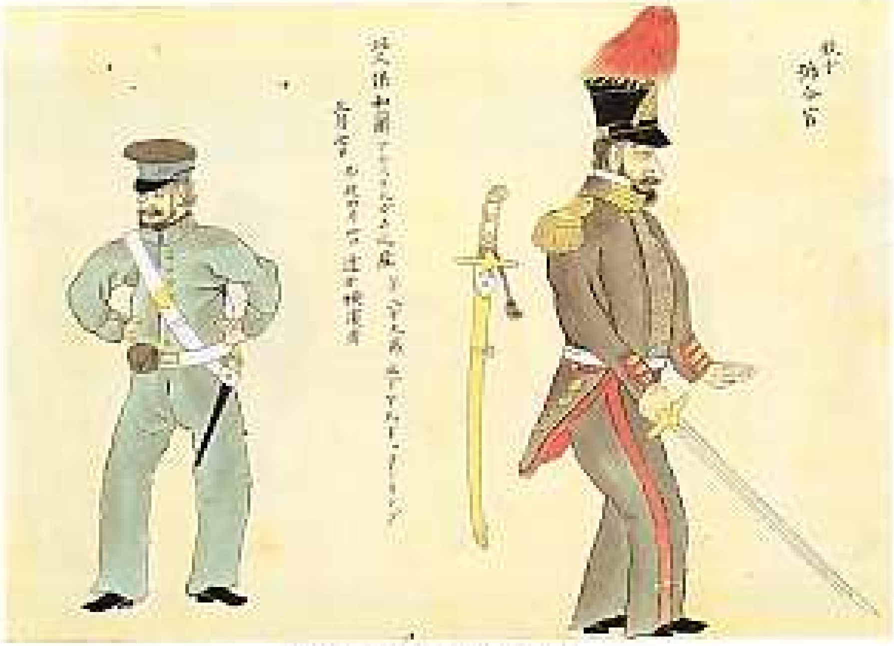
9　横浜応接所（黒船来航画巻）
中央に描かれた建物で幕府全権とペリーとの会談がおこなわれた。

横浜に上陸するペリー一行と応接所（左）と応接所遠望（右）

出典：ペリー来航と横浜”（横浜開港資料館）



14　ペリー艦隊乗組員（黒船来航画巻）



15　ペリー艦隊乗組員（黒船来航画巻）

ペリー艦隊乗組員

出典：ペリー来航と横浜”（横浜開港資料館）

神奈川宿沖からペリー艦隊と横浜応接所（右）を眺めた図　　出典：ペリー来航と横浜”（横浜開港資料館）

「日本という素晴らしい国が、東洋においてもっとも重要な国になると　問題なく予言できる」（ペリー談）

Commodore Perry , portrait by Japanese artist

Commodore Perry

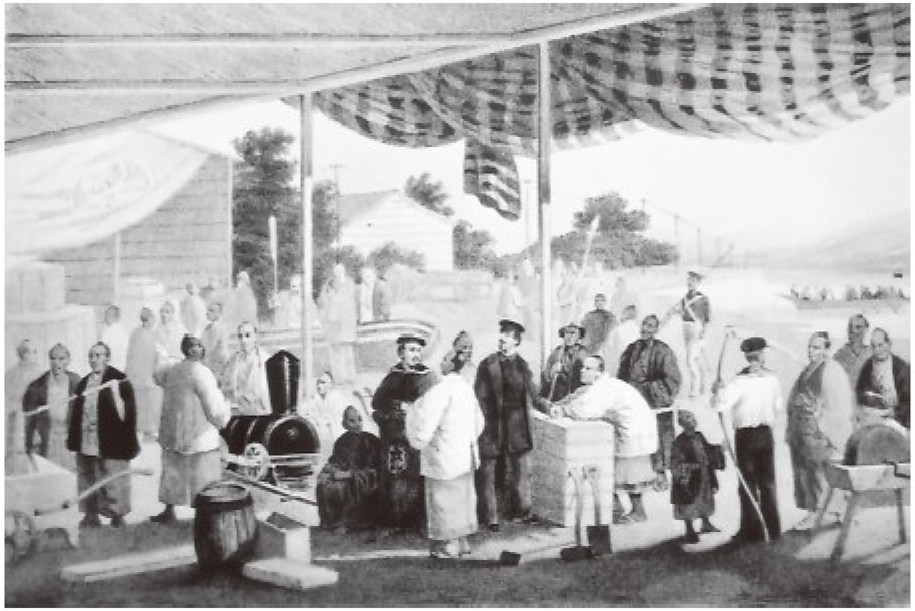
Williams , Commander Adams and Commodore Perry

ペリー提督と司令官の写真及び似顔絵

巻末参考:P96

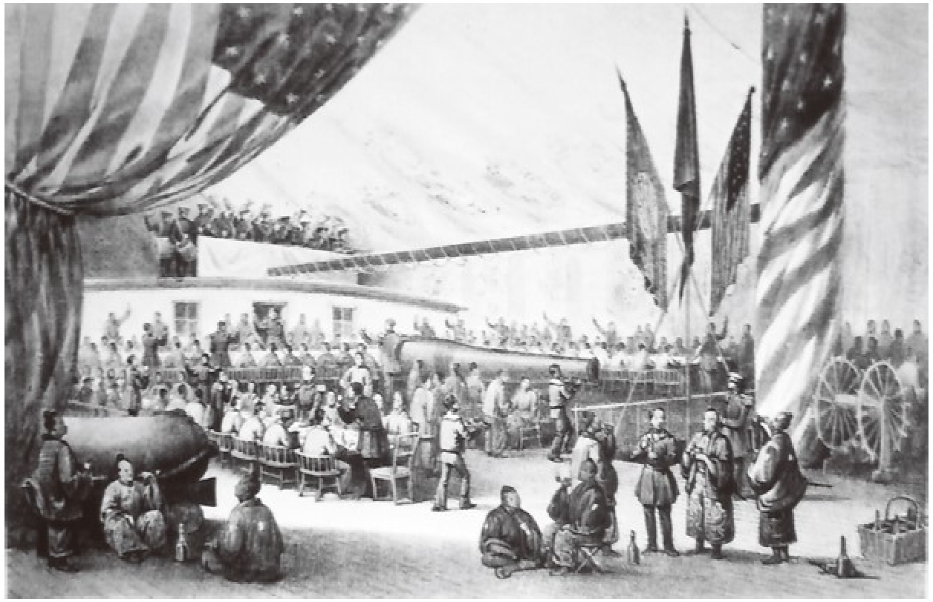
Matthew Calbraith Perry
(1794-1858)

出典:IIISeries:Japan that Commodore Perry observed by VADM(Rer.) Tsutomu Tamura

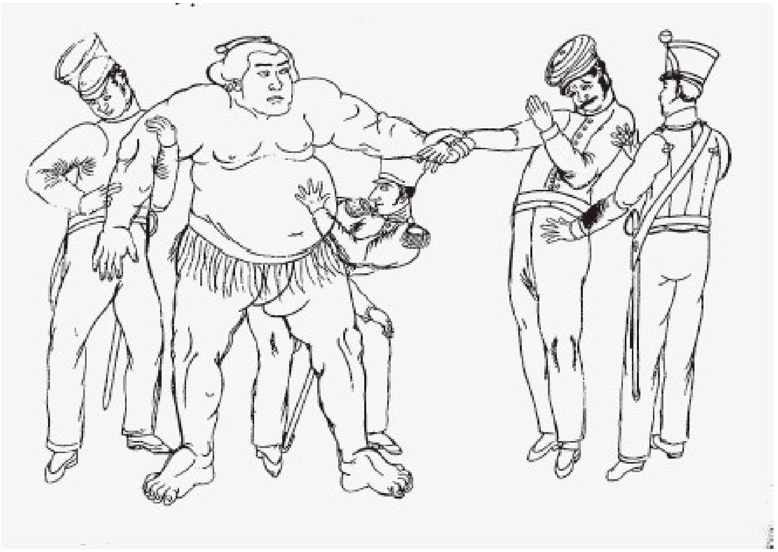


Delivery of American presents at Yokohama , 13 March 1854. Heine.

"Passing the Rubicon" , 11 July 1853
U.S. survey cutter confronts Japanese guard boats. Heine.



Dinner given to Japanese commissioners on board Powhatan , 27 March 1854.Heine.



Marines testing the flesh of Sumo wrestling champion , 24 March 1854

ペリー来航時土産、ディナー等行事写真、スケッチ

出典:IIISeries:Japan that Commodore Perry observed by VADM(Rer.) Tsutomu Tamura

(2)アメリカの総力をあげた遠征

・アメリカ海軍の最初の蒸気船導入は1815年フルトンが設計した「デモロゴス」だが、その後、蒸気船建造が久しく途絶えた。

・1837年蒸気フリゲートが建造されペリー大佐(当時ニューヨーク基地司令官)が艦長となる。以来、蒸気船導入を推進し、蒸気海軍の父と呼ばれた。1839年2隻の航用蒸気軍艦を新造、この1隻がミッシシッピである。

・1846年のアメリカ・メキシコ戦争で蒸気船の威力が実証され4隻の蒸気艦建造が承認された。故障船を除くと、ほとんどの主力艦船が日本に来航し、アメリカ総力上げての遠征であった。

1839	ミシシッピ	3,220t	外車式	
1846	4隻承認	アメリカ・メキシコ戦争		
	サスケハナ	3,824t	外車式	1850製造
	ポウハタン	3,865t	外車式	1852製造
	サラナック	2,200t	外車式	1850製造
	サン・ジャシント	2,200t	screw	1851製造

（3）黒船の威力-アメリカ列強の戦略・戦術-

1）ハードの誇示：四ヵ国連合艦隊の艦船の保有

外国艦船一覧表.xls

2）ソフト：情報戦略

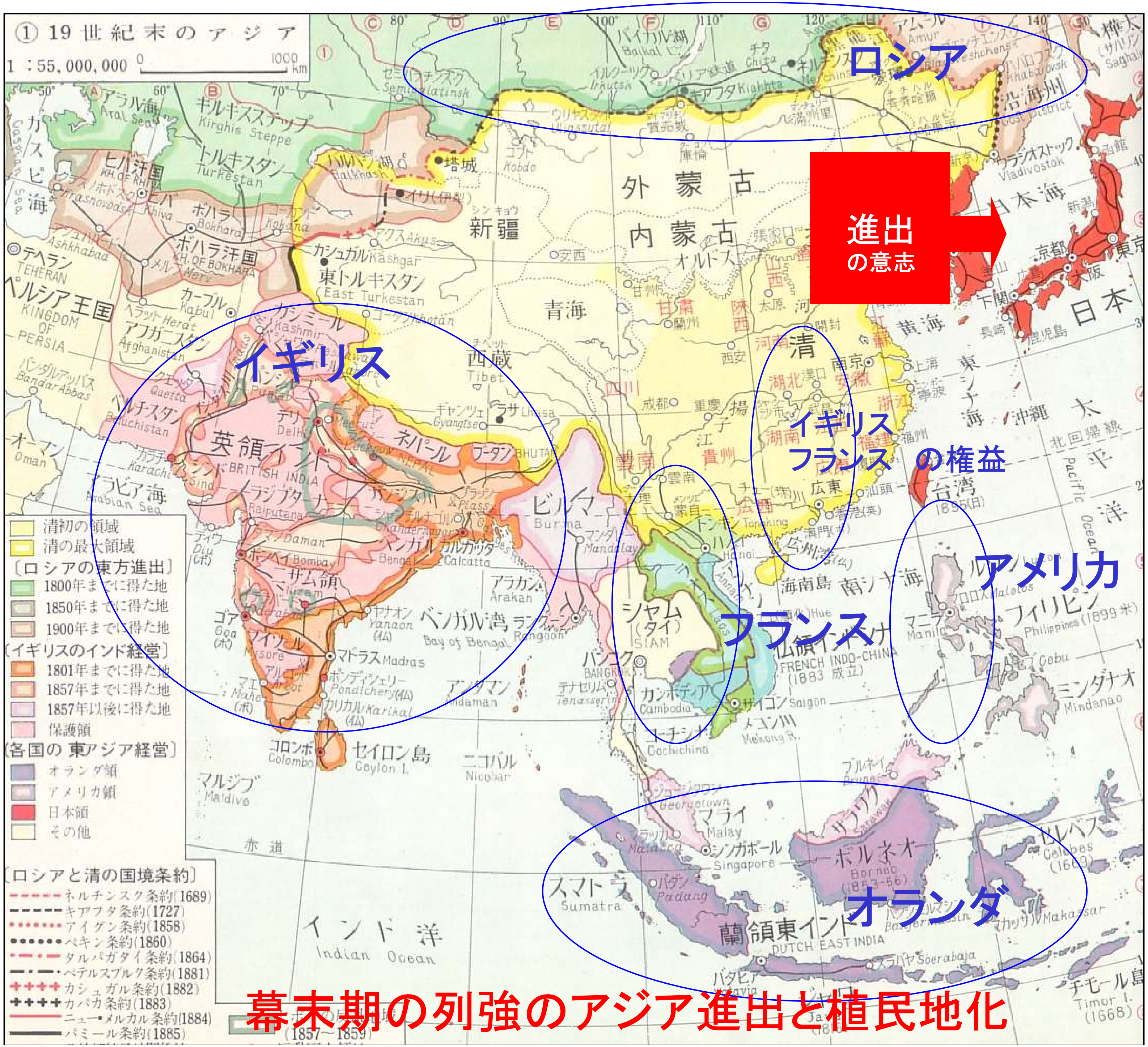
①100万都市江戸の壊滅法を研究し尽くす。中型砲艦2隻で可能

②近代国際法の適用：　・文明国、半文明国、未開国

（差別の構造）　・非人道の国として日本←モリソン号事件(1837)

③ハリスの2h大演説：日本に危機接近←イギリス、ロシア、フランス
日米通商条約早期締結を求めた。→　無勅許、安政の大獄

④四ヵ国の共同作戦工作



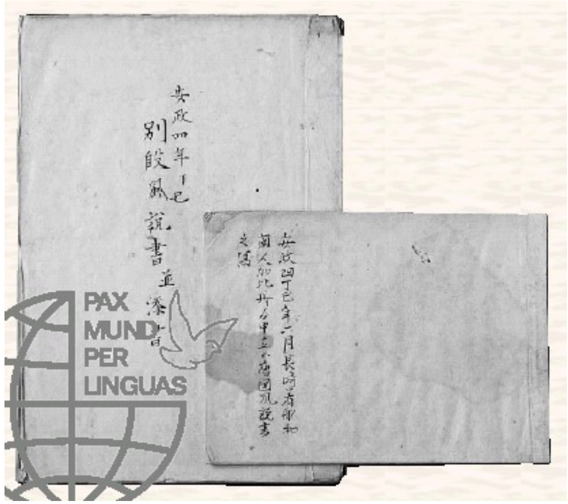
幕末期の列強のアジア進出と植民地化

2.2 幕府は来航を知っていたのか？　“オランダ別段風説書”

ペリーは浦賀奉行にアメリカ大統領親書を江戸湾において受け渡す旨を強硬に要求した。奉行は戦力劣勢を報じて受け取りやむなしと幕府に伝え、その日のうちに親書受け取りの命令を幕府から受けた。

幕閣の米国書受領を即断させた3理由：

1)オランダ国王の忠告
2)アヘン戦争による中国敗北の先例
3)四海海に囲まれた日本の軍事力不備



オランダ別段風説書（極秘文書）

・オランダは江戸時代初期（1666年）から「オランダ風説書」として毎年、簡単な海外情報を幕府に送っていた。

・アヘン戦争2年後の1842年から幕府の要求により さらに詳細な　「オランダ別段風説書」が送られてきていた。幕府は海外情報の　みならず、事前にペリー来航を知り、防御に手を尽くしていた。

表 1-1 1853(嘉永 6)年オランダ別段風説書の情報(抜粋)

条　数	
1	オランダ国王女，ストックホルムにて出産
2・3	オランダの暴風雨多発，大被害
7	イギリス・オランダ間の海底電線着工
10	スマトラ，パレンバンにて反オランダ運動の平定
11	アメリカ人，原住民と反オランダ活動で重罪に
12・13	モルッカ諸島の大地震，多数の死亡と大被害
14・15	ボルネオ島西岸，中国人の反オランダ蜂起と鎮圧
16	東インド領オランダ海軍の海賊再討伐と不首尾
17	中国，太平天国農民軍の南京占領，英軍後退
18・19	イギリス，自由貿易と保護貿易の論争
20	ウェリントン将軍の死去と大葬礼
21	イギリス，オーストラリアとカリフォルニア移民
22・23	ナポレオン三世帝位即位，スペイン王女と結婚
26	オーストリア国王，ハンガリー反乱側騎士が襲撃
27	モンテネグロとトルコ国，領土紛争
28	トルコ，オーストリア出兵，ロシア艦隊黒海派遣
29・30	フランス艦隊のダーダネルス海峡派遣，紛争休止
31	イタリア内オーストリア領ミラノ独立蜂起と敗北
34・35	モンテネグロ紛争，トルコの野心で一触即発に
36・37	ロシア，モンテネグロ侵出，ヨーロッパに戦雲
38・39	ニューヨーク万国博覧会の開催
40・41	パナマ運河計画決定．エリクソン蒸気機関改良
42	米，60 年間の人口推移，白人，先住民，黒人統計
43・44	カリフォルニアの大雪害，新金鉱の発見と好況
45	メキシコの反政府運動，再蜂起
46	南アフリカ，カッフル族とイギリスとの講和条約
47・48	オーストラリアの大金鉱発見と社会混乱
49	中国・東インドの英，仏，露，米，軍艦一覧
→ 50	ペリー艦隊，香港経由，琉球集結，日本出航
52	イギリス・ビルマ戦争とイギリス艦隊のビルマ派遣
53	オランダ海軍，ジャワの艦隊一覧
54	ペリー艦隊，オランダ通報，平和の趣意，艦隊全容
55	ロシア，プチャーチンの来日出航，軍艦二隻

第III期

18**			龍馬の生きた時代（第Ⅱ期、第Ⅲ期）	歳	龍馬関連
53	嘉永6	家定	黒船来航ペリー　プチャーチン長崎来航	19	江戸修行：千葉道場入門、江戸湾防備・黒船来航
		13代	幕府開国の是非諸侯に問う：攘夷論と開港論、幕藩体制崩壊		佐久間象山の「及門録」に記載
54	安政1		ペリー再来航→日米和親条約／英・露との和親条約	20	土佐帰国、小栗流和兵法十二か条受、河口小龍知遇
55	安政2		長崎海軍伝習所、蛮書調所開設、堀田正睦老中になる。	21	父八平死
56	安政3		アメリカ総領事ハリス着任	22	再び江戸剣術修行、武市半平太と交流
57	安政4		軍艦教授所(講武所内)、将軍継嗣問題(慶喜/慶福)起こる	23	山本琢磨犯罪処理
58	安政5	家茂	日米修好通商条約無勅許→孝明天皇激怒　公武X	24	北辰一刀流兵法目録受、土佐に帰国
59	安政6	14代	開港：横浜,長崎,箱館：(生糸、海産物：商品経済：安政大獄	25	西洋砲術家徳弘孝蔵に入門
60	万延1		遣米使節咸臨丸、安藤正信公武合体へ、和宮降嫁、桜田門外変	26	
61	文久1		開港：兵庫・新潟　60→68攘夷論開港幕藩体制崩壊へ	27	武市半平太土佐勤王党血盟、龍馬加盟
62	文久2		坂下門外変、島津久光上洛(公武調停、寺田屋粛清)(★幕府武器軍艦輸入許可)	28	土佐脱藩①、松平春嶽知遇
			①生麦事件、京都守護職(容保)参勤3年1度とする。朝議攘夷に決す。		勝海舟入門
63	文久3		②3月家茂上洛、神戸海軍伝習所建設承認	29	脱藩罪許さる。春獄訪問、神戸海軍操練所許可
			③攘夷断行(5月10日)長州外国船砲撃、④7月薩英戦争、⑤家茂上洛攘夷祈願、		春獄訪問(資金調達)、乙女にエヘンの手紙
			⑥8月18日の政変、七卿都落ち、攘夷論者失脚、天誅組変、生野銀山変		海軍塾塾頭、長州の外国船発砲事件、脱藩②
64	元治1		⑦1月家茂上洛、5月神戸海軍操練所発足、⑧6月池田屋事件、⑨7月蛤御門の変、	30	小楠訪問、神戸海軍操練所発足、池田屋騒動、禁門変
			⑩8月四国艦隊下関砲撃、⑪8月長州征伐(1)、11月長州謝罪、英国雄藩、仏幕府支援		第1次長州征伐, 西郷に会う。海舟江戸帰還
65	慶応1		⑫3月神戸海軍操練所廃止、4月長州再征令す、⑬5月亀山社中、武市切腹	31	海軍操練所閉鎖、薩摩行、亀山社中設立、
			●四カ国連合艦隊兵庫沖集結　//　攘夷不可能悟り倒幕へ		薩長和解画策(西郷、三条、土方)、龍馬妙案(ユニオン号)
66	慶応2	慶喜	⑭1月薩長同盟成立、寺田屋事件、⑮6月長州征伐(2)、7月家茂死亡長州征伐②解	32	薩長同盟成立、寺田屋事件、
		15代	薩長連合→武力倒幕　//		お龍と結婚、ワイルウェフ号沈没、第2次長州征伐
67	慶応3		⑯1月後藤・龍馬面会、⑰4月海援隊、6月船中八策提示)	33	後藤象二郎清風亭会談、亀山社中→海援隊長、脱藩許
			5月四侯会議、⑱6月薩土密約(9月薩摩破棄)、9月倒幕密勅薩長に、		中岡(慎)：陸援隊長、「いろは丸沈没」
			⑲10月大政奉還建白書(後藤と龍馬＞容堂→慶喜)、		後藤(象)に大政奉還、船中八策示す
			⑳10月大政奉還、王政復古		薩土密約、イカルス号事件処理、慶喜大政奉還建白受
			●四カ国連合艦隊兵庫沖集結←兵庫開港の示威		「新政府綱領八策」起草　近江屋事件龍馬、暗殺死
68	明治1	M1	明治元年		

巻末参考：P97,98

§3龍馬の成長と世界観:第Ⅲ期

3.1不即不離の思想体得

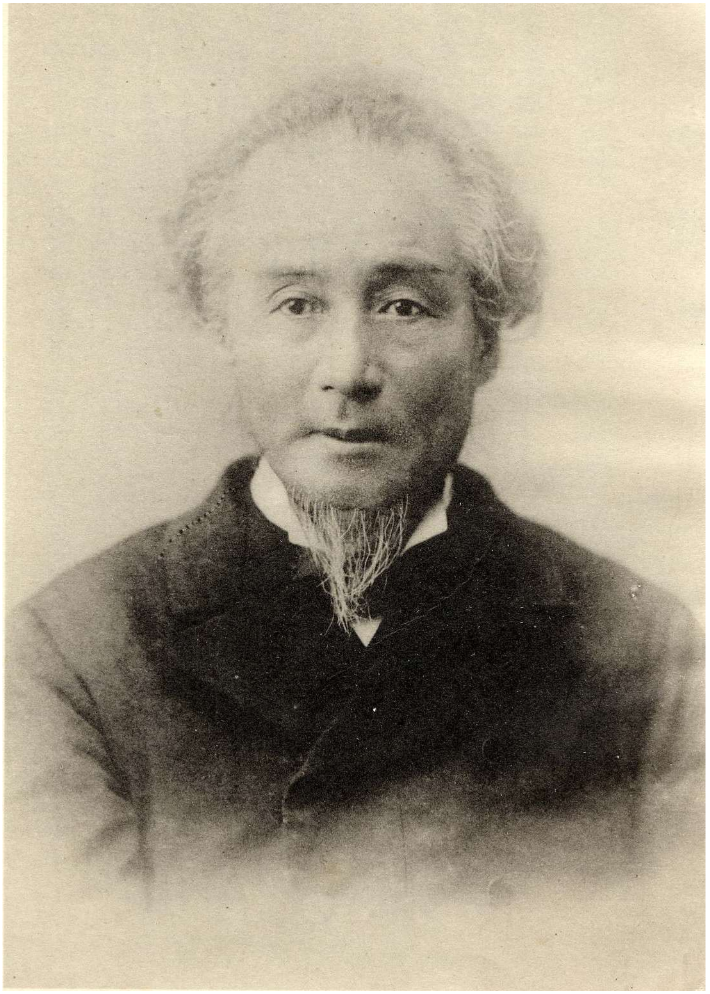
・"何かを求めてさまよっていた龍馬"は第3の道を見いだす。
・第1次脱藩(1862年3月)　武市半平太など尊皇攘夷激派から距離を置く。
・越前福井藩松平春嶽(幕府政治総裁職)訪問して意見を聞く。←言路洞開(過激者の意見でも政治当路の者はよく耳を傾ける当時のしくみ)

3.2　勝海舟との邂逅:"有言実行型"魅力的人間:軍艦奉行

●経歴:1823年江戸本所生まれ。従兄の男谷精一郎道場(島田虎之助の下)で直心陰流の免許皆伝を得た。禅、蘭学(永井青崖)、西洋兵学(佐久間象山)を習得
●幕府登用:ペリーの開国要求に、主席老中阿部正弘は幕府のみ決断で鎖国　を解くことをためらい、幕臣・諸大名から町人に至るまで海防意見を求めた。勝海舟の意見書が目に留まり、以降、幕府の注目を得る。

●長崎海軍伝習所:安政2年(1855年)設立の海軍士官養成機関。幕臣や藩士から伝習生を選抜、オランダ軍人(カッテンディーケら)を教師に蘭学、航海術、医学などを学ぶ。勝は教監を兼ね5年を伝習所で過ごした。

●咸臨丸太平洋を渡る:1860年(万延元年)日米修好通商条約批准のためポーハタン号に従い遣米使節団(正使新見正興)と共に咸臨丸で太平洋を渡った。



有言実行型政治家　勝海舟

(1823-1899)

出典：勝海舟Wikipedia

(1)神戸海軍操練所の計画:

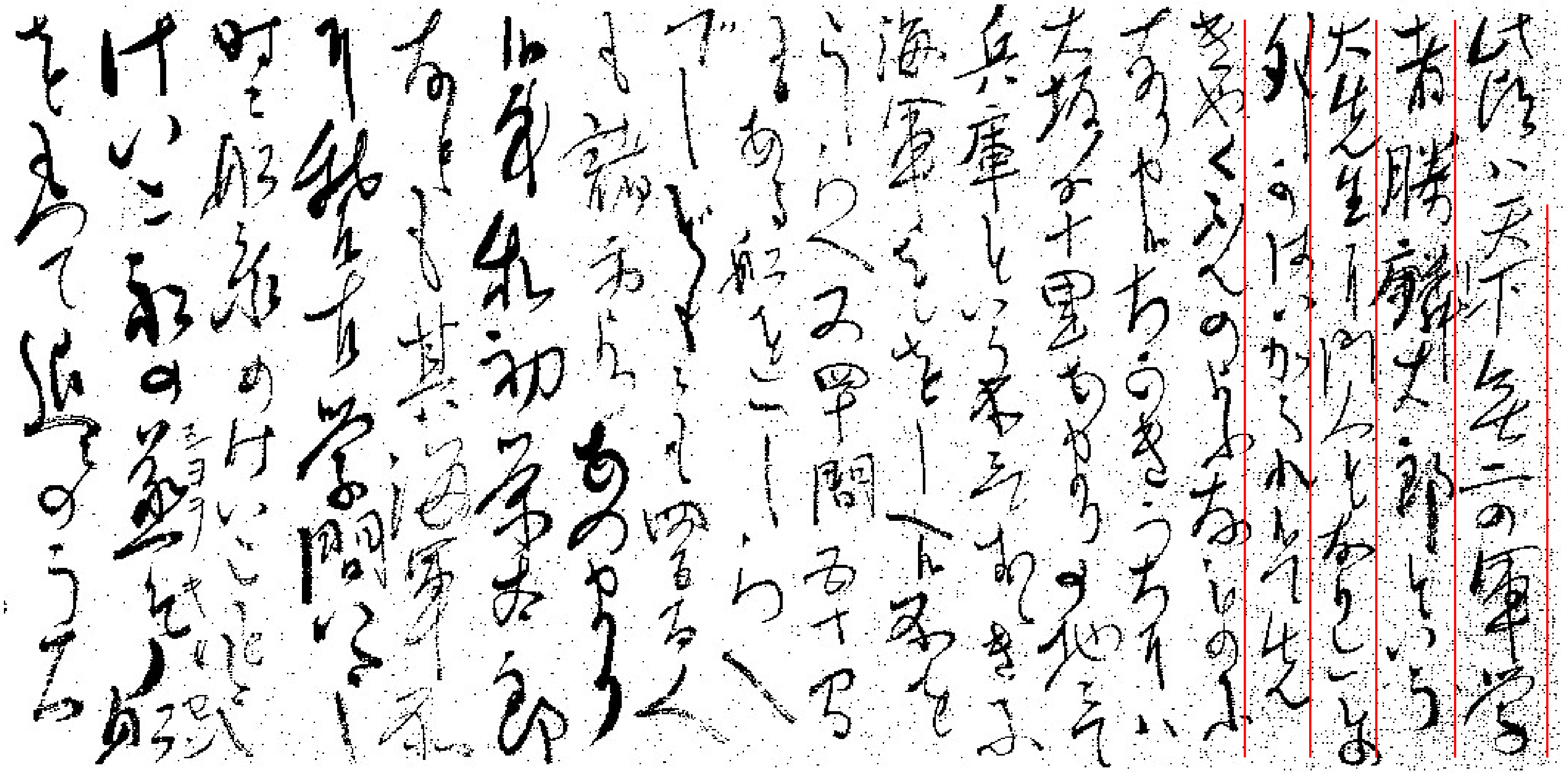
●海舟日記1863-2/12:「今天下危険きわまる。･･･天朝且幕府の御為に粉骨し、海軍を興起し、内銃台を設け、･･不測の変に応ぜんとす」 遣米帰国後、海舟は人が変わる。
●将軍家茂への直訴:1863年将軍徳川家茂が上洛し、大阪湾を幕府軍艦順動丸で視察したとき、随行した勝は海軍創設の必要性を説き、神戸海軍操練所、海軍塾の開設の許可を得た。 勝の裁量権限と予算3000両を得る。
●神戸選定の理由:地形学的に良港、かつ、既存の“船蓼場” が利用できた。
●勝の世界観:一大共有の海局、「卑賤草莽の志」が尊皇攘夷に一身を犠牲にしているが、その精神をくみ、その憤発エネルギーを日本の立て直しに転換すべく「一大共有の海局」を作る。

(2)勝の偉さ

●神戸海軍操練所:幕府直属の養成機関
●海軍塾(勝の私塾:後の塾頭龍馬) ←尊皇攘夷派、脱藩者の入門を可能とした。

(3)龍馬、勝海舟の客分となる。海舟との天命的出会い

●勝海舟を訪ねる(1862年) ＊開設資金5,000両の融資
1)松平春嶽*の紹介で勝を訪問:攘夷の無理、海外事情、日本の進むべき道など世界観を聞き、勝の大きさに驚嘆、即刻入門を願い、師弟の強い絆で結ばれた。
2)海軍操練所開設構想を聞いて傾倒し、自分の探していたベクトルを見出した。
龍馬が人生で一番感動した瞬間 →姉乙女へ出した“大先生を得たよろこび”の手紙



文久三年五月十七日

坂本乙女あて（一） 宮地訳

此頃ハ 天下無二の軍学
者勝麟太郎という
大先生に門人となり、ことの
外かはいがられ候て 先 まず
きゃくぶんのようなものに
なり申候 ちかきうちにハ
大坂より十里あまりの地ニて
兵庫という所ニて おおきに
海軍ををしへ候所を
こしらへ、又四十間 五十間
もある船をこしらへ、
でしども一も四五百人
も諸方よりあつまり
候事 高松太郎
などもその海軍所
稽古学問いたし、
時々船乗のけいこもいたし、
けいこ船の蒸気船
をもって近々のうち
土佐の方へも参り申候
そのせつ 御見にかかり可申候

……

文久3年5月17日

坂本乙女あて手紙

龍馬の手紙：宮地佐一郎

⑦5月神戸海軍操練所発足

巻末参考：P99,100

●発足：1864年（元治1年）5月　軍艦奉行の勝海舟の建言により幕府が神戸に設置した海軍士官養成機関、海軍工廠。 現在の神戸市中央区新港町周辺にあった。京橋筋南詰に神戸海軍操練所跡碑がある。幕府からの予算年約3000両。 ●内容：操練所生徒は有能な諸藩の志士を約200人受け入れていた。その中には勝海舟の私塾から約60名が含まれている。教育内容：航海術、機関学、語学、数学、武芸、実技、時事談義

●練習船：

①観光丸：1854年オランダ国王から幕府に贈られた「スンビン号」を改名. 外車式蒸気船

L×B×dispt×power×Vs=51.82m×9.12m×780t×150ps×5kt

②黒龍丸：1863年アメリカで建造、「コムシング号」を改名.

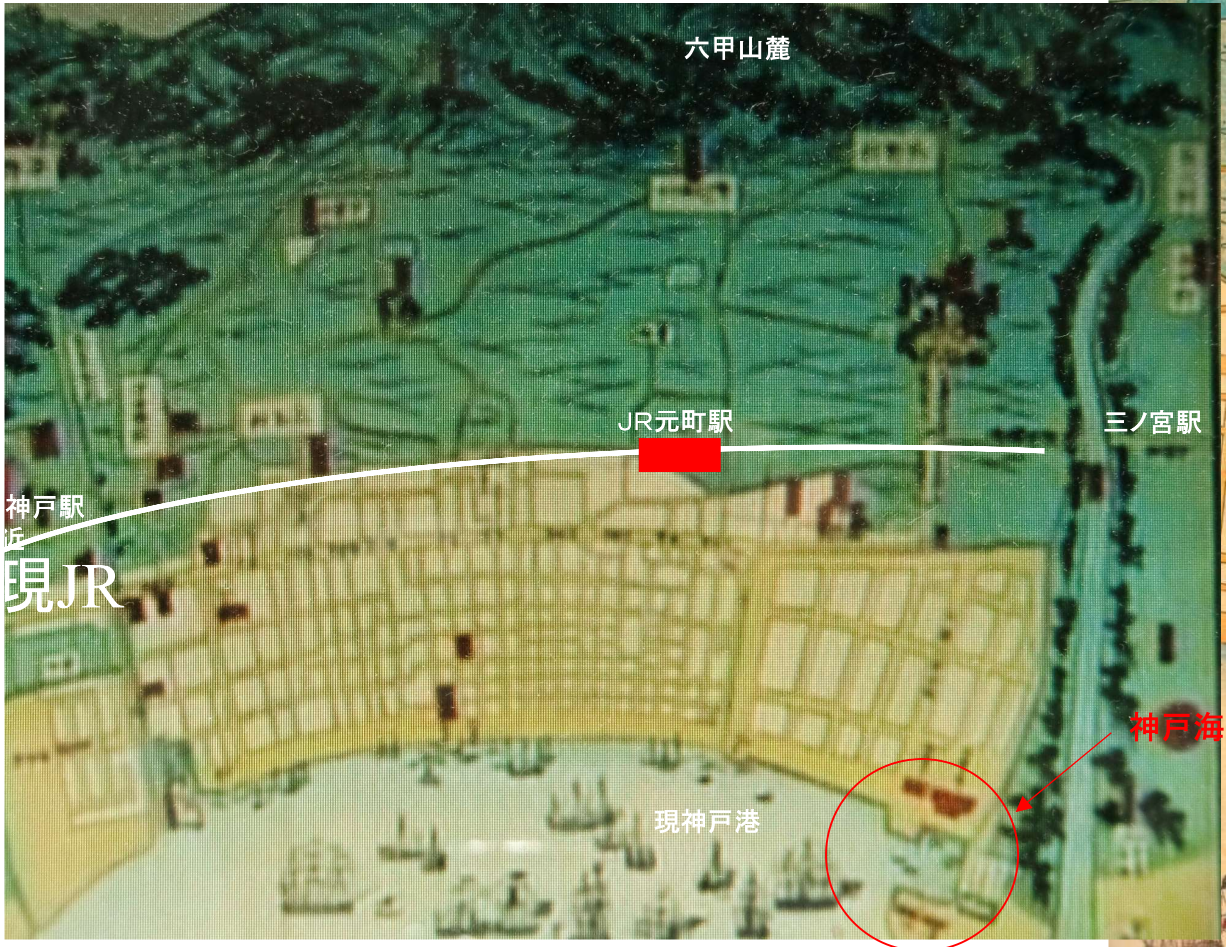
木製内輪式蒸気船。越前藩から購入。

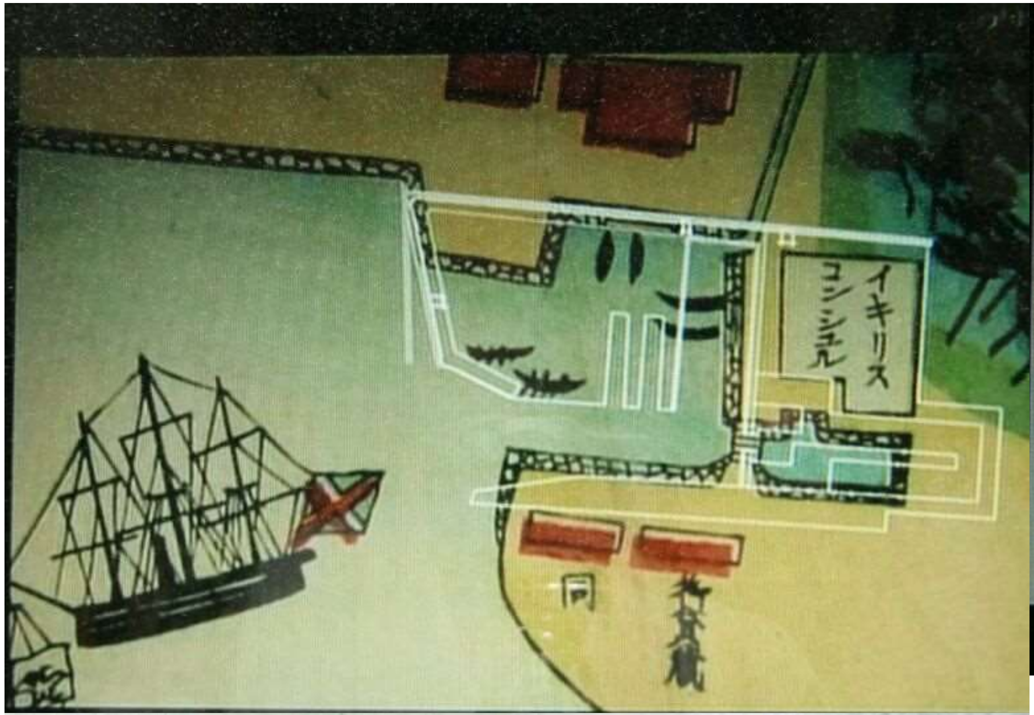
L×B×power×Vs=51.3m×7.8m×100ps

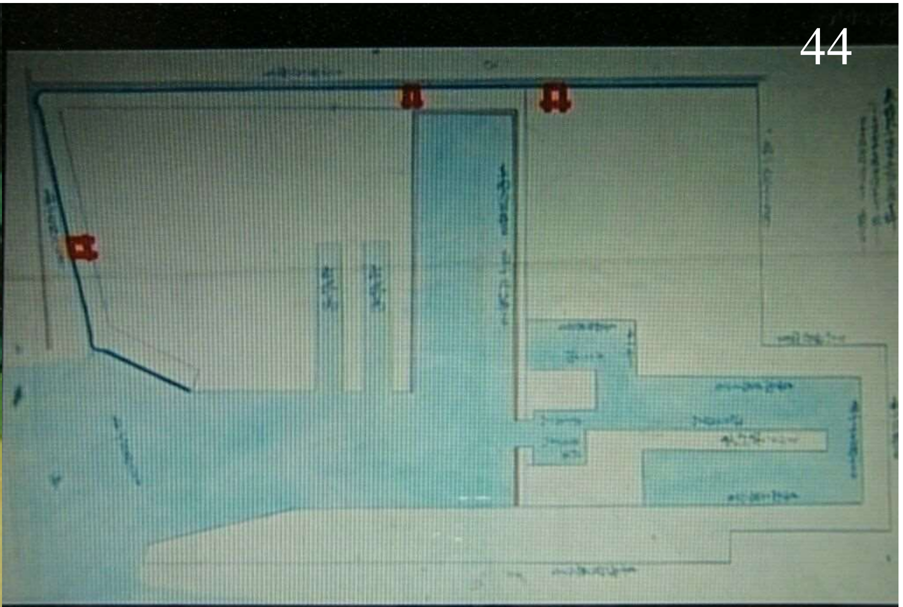
（参考）神戸海軍操練所開設150年　記念式典　on　2014-8-30 https://blog.goo.ne.jp/chiku39/e/b28e973056a8f66b2d3c720b835a46ba

神戸海軍操練所跡

兵庫県御免許開港神戸乃図（神戸市立博物館蔵）







神戸海軍操練所絵図写（神戸市立博物館蔵）

神戸海軍操練所跡（神戸三宮海岸通り）

3.4　龍馬と船と世界観

(1)　龍馬の世界観の醸成の要因　第3の道

●要因：環境と人脈
・姉の乙女と“和船”で通った川島家(種崎)で得た世界の知識”
・河田小龍との出会い
・黒船来航のインパクト
・勝海舟との出会い、幕府要人松平春嶽、大久保一翁、横井小楠
・神戸海軍操練所での勝の教え、操船術習得、同志談義、旅
・勝に同行して得た多数の人脈(藩主〜志士)、経験　➡　<u>脱藩</u>

●尊攘思想/開国思想を掲げた空虚な議論・殺し合いに疑問
・不即不離、自分で道を探す。
・世界観：国内の混乱は西欧列強の餌食となる
　勝との出会い→求めていたもの、信念明確化→　一大共有の海局(海軍)の創設
　➡　“第3の道”を悟る：
　本当の攘夷：強い海軍を作り、商船を作り貿易して国を富ませ、“新しい日本のしくみ”　をつくること。
　これが列強侵略の抑止力、即ち、攘夷

(2)幕末の日本の蒸気船･･･日本に蒸気船が何隻あったのか？

·1853年のペリー来航により日本の対外政策は180度方向転換

大船建造禁止令解禁、外国からの蒸気船･武器購入許可(1862)

【日本の保有隻数】

何隻？ ？ ？

(2)幕末の日本の蒸気船・・・日本に蒸気船が何隻あったのか？

·1853年のペリー来航により日本の対外政策は180度方向転換

大船建造禁止令解禁、外国からの蒸気船･武器購入許可(1862)

幕末蒸気船.xls

【保有隻数】

·日本(幕府と23藩)の購入蒸気船:計84隻(帆船含・・・113隻)

·幕府:蒸気船29隻(帆船含34隻)プロペラ装備18隻、外車9

幕府多用の順動丸:L×B=72×8.1m、360馬力、405トン

·購入先:英国:大部分、 アメリカ、オランダ、フランス:僅少

·特徴:①多くの中古艦船を短期間で購入。(買い漁る)
②購入したが、操船能力が追いつかない。

巻末参考:P99

(3)蒸気船の有効性と利用

1. 当時の人の交通手段

徒歩、籠、馬、和船(:廻船、菱垣廻船)

2. 当時の物資輸送手段

馬、和船→風待ち、漂流、難破

幕府の使用

1. 将軍、政治総裁/重役の移動
2. 海軍操練所関連交通、訓練

藩の使用

1. 藩主、重役の移動、兵士輸送
2. 物流(国内、上海)

蒸気船の特徴

1. 速い: 移動時間小、遅延少
2. 輸送量: 大
3. 安全性: 大
4. 多様な目的:交通、商船、軍艦
5. 時間の有効利用、体力消耗がない.
6. 高価、燃費、メンテ、操船技術・・・必要

龍馬の活動支援:勝によく同行

1. 高速移動が可能
   脱藩浪士龍馬が何故船を自由に利用できたのか?
2. 武器、産物、兵士等:大量輸送
3. 気象、災害:安全　人的:刺客
4. 船中八策等の構想/会談/休息
5. 多目的に使用

龍馬の航海: どのような船で、航路? 目的は?

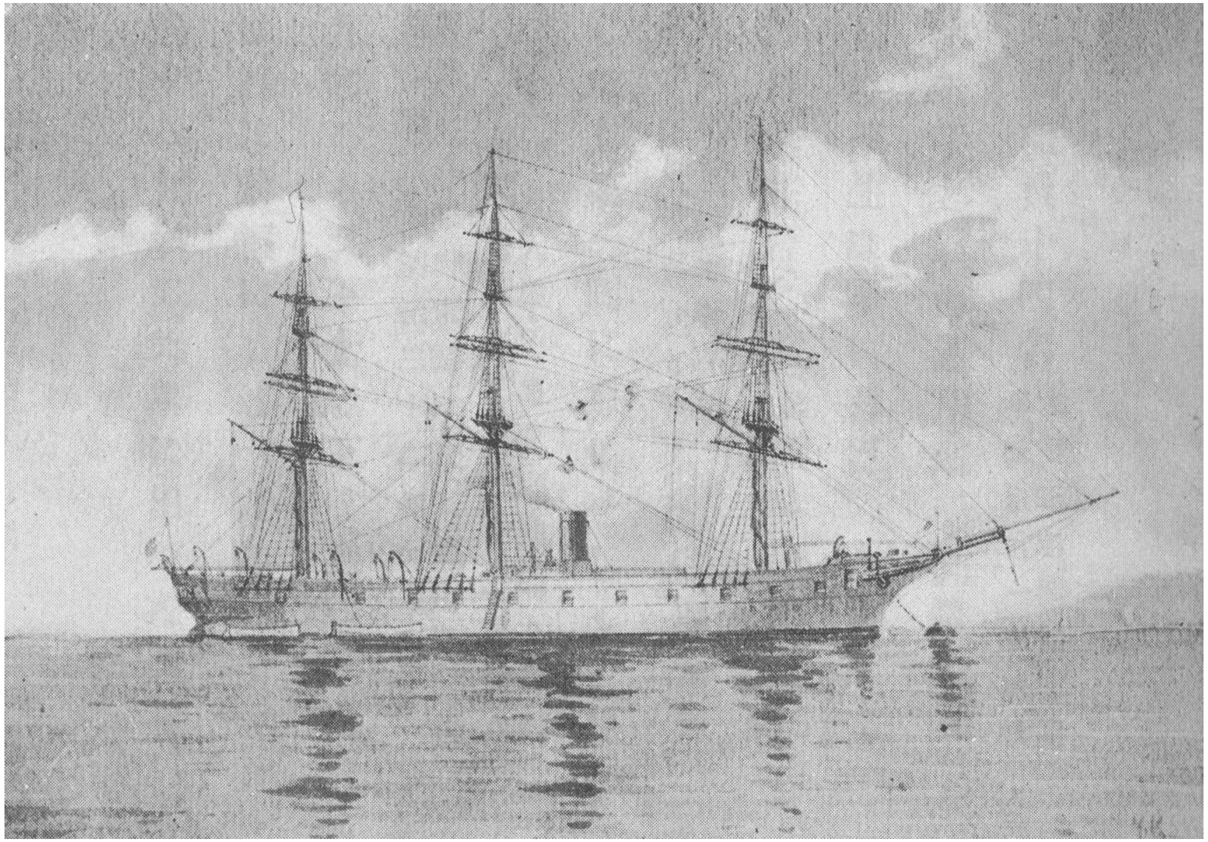
	龍馬が乗った蒸気船	スライドNo.7参照			
No.	船名	乗船年月	航路区間	目的	船長/トン/製造国
1	順動丸	1862-12	品川ー下田ー兵庫	最初の航海、勝海舟に同行したとされる。	L=72m,405t,UK製
2	順動丸	1863-01	品川ー兵庫/大阪	松平春嶽和田岬大明神,清盛塚、楠子墳墓を参詣	Do.
3	順動丸	1863-04	品川-大阪	大久保一翁から勝海舟と松平春獄への手紙託される	Do.
4	順動丸	1863-04	将軍家茂兵庫視察、大阪-品川	将軍家茂上洛:兵庫視察と帰府(往路は陸路)	Do.
5	翔鶴丸	1863-12	江戸ー品川ー浦賀ー下田ー大阪	将軍家茂の上洛に勝海舟とともに同行	L=60,350t,USA製
6	ー	1864-02	神戸ー佐賀関	四カ国連合艦隊による下関砲撃事件調停・長崎行き勝に同行	ー
7	胡蝶丸	1865-04	大坂ー鹿児島	西郷、小松帯刀などの案内で神戸海軍塾生と薩摩に	L=42.5m,46t,UK製
8	胡蝶丸	1865-09	兵庫ー青島ー上関	西郷と共に薩長和解工作のため	Do.
9	ー	1866-01	下関ー兵庫	薩長同盟締結のため三吉慎蔵らと京都に	
10	三邦丸	1866-03	大島ー下関ー長崎ー鹿児島	寺田屋事件の怪我療養のためにおりょうと鹿児島に	L=53m,410t,UK製
11	桜島丸	1866-06	鹿児島ー長崎ー中通島ー下関	桜島丸を長州に引渡(長崎でおりょう下船、W号死者供養碑建立)	L=45.5m,205t,UK製
12	いろは丸/明光丸	1867-04	長崎ー鞆	いろは丸が紀州藩船明光丸と衝突沈没、明光丸に乗り移る	L=54m,160t,UK製
13	ー	1867-05	下関ー長崎	いろは丸事件の紀州藩との再談判	ー
14	夕顔丸	1867-06	長崎ー兵庫	大政奉還実現のため後藤象二郎と共に京都。船中八策を練る。	L=65m,659t,UK製
15	三邦丸	1867-08	兵庫ー須崎	イカルス号事件の談判のため須崎へ	Do.
16	夕顔丸	1867-04	須崎ー下関ー長崎	イカルス号事件の再談判のため長崎へ	Do.
17	震天丸	1867-09	長崎ー下関ー浦戸	長崎でライフル銃1300挺購入	L=45m,181t,UK製
18	空蝉	1867-10	須崎ー大坂	龍馬最後の航海	詳細不明
19	黒龍丸	1862-		神戸海軍操練所練習船(1862年購入)	L=51.5m,146t,USA

注)W号:ワイルウェフ号

Wikipedia等により検索

龍馬最後の5年間:疾きこと風の如くに移動!!!!

日本の導入蒸気船はどのようなものだったのか？

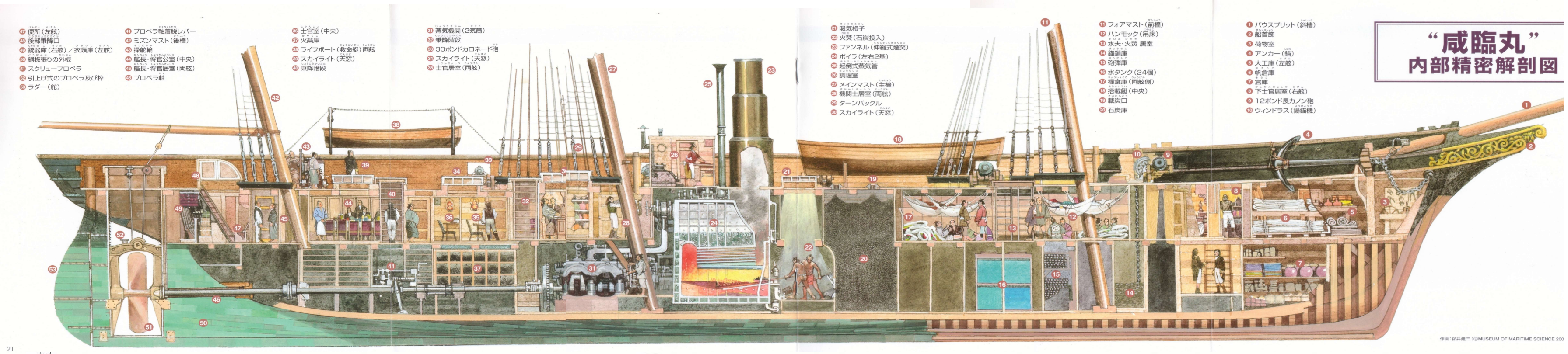


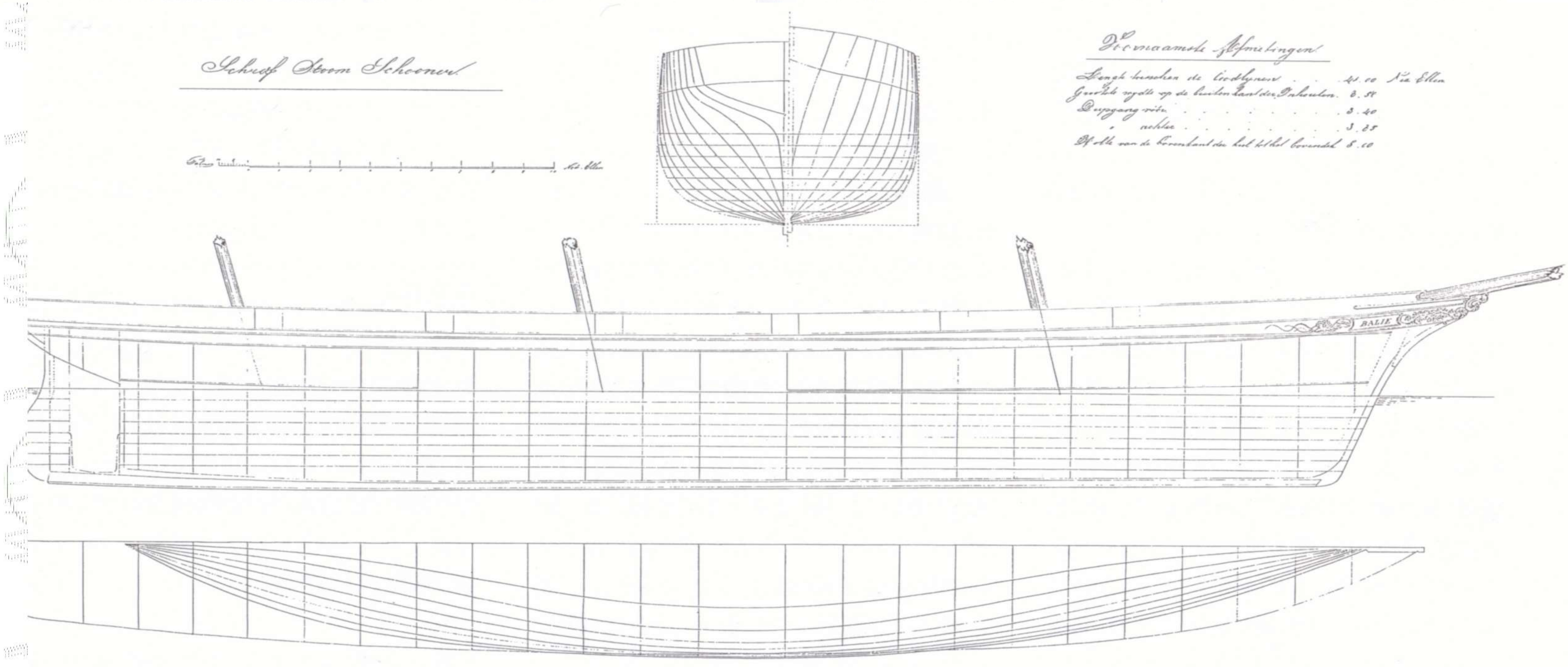
残念ながら、
日本の導入蒸気船の詳細図は、咸臨丸、観光丸などを除き、見いだすことが出来なかった。
1857年購入の咸臨丸を代表として観察する。

出典：船_この巨大で力強い輸送システム：野澤、阪大出版会

- 1857年オランダから購入
- 船型：木製スクリュープロペラ付き機帆船
- 長さ×幅　＝　49.68　×　8.53m　総トン数：380トン、排水量：約600トン
- 主機：蒸気機関(100馬力)

咸臨丸¥咸臨丸図.doc





〈図1〉"咸臨丸"と同型の"バリ"(Bali)の船体線図。

咸臨丸配置図と線図

出典:船の科学館　資料ガイド7　"幕末の蒸気軍艦　咸臨丸"　(財)日本海事科学振興財団

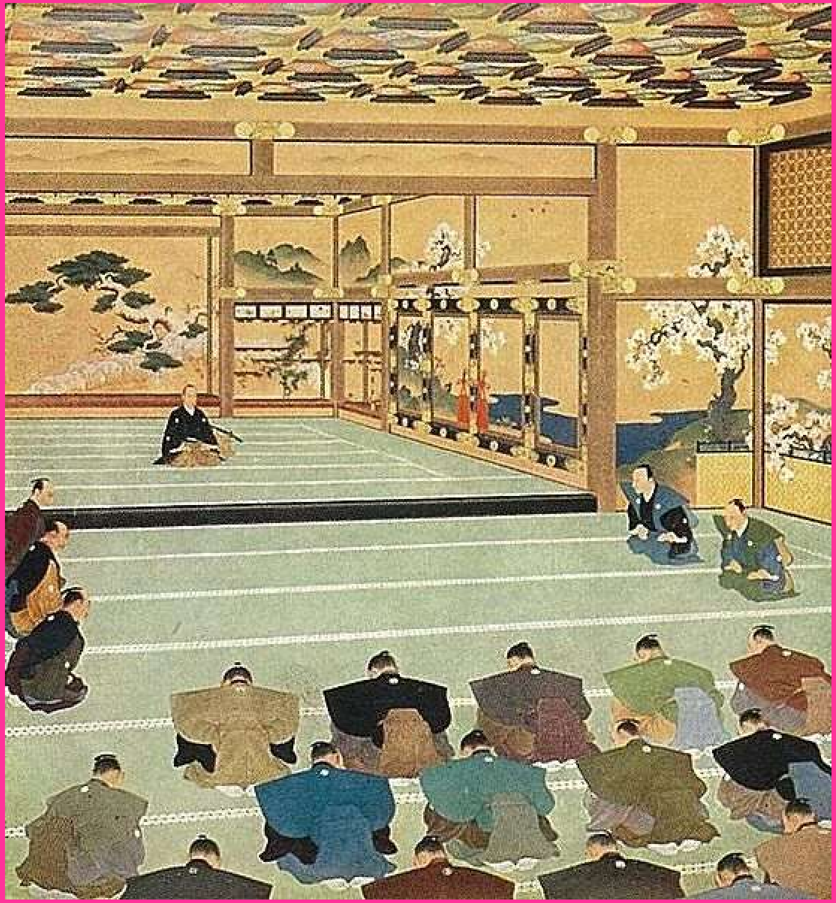
太平洋横断時に、士官として乗船した鈴藤勇次郎が、帰国後に"咸臨丸"の難航する姿を描き、敬愛する木村摂津守に送った絵画です。激しい波と風に翻弄され、ストームセイルでしのぐ"咸臨丸"の姿が実にリアルに描かれており、苦難の航海の様子を今日に伝えてくれています。残念ながら原画は失われてしまいました。
写真：横浜開港資料館

咸臨丸

§４　新しい日本へ:龍馬の最後の3年

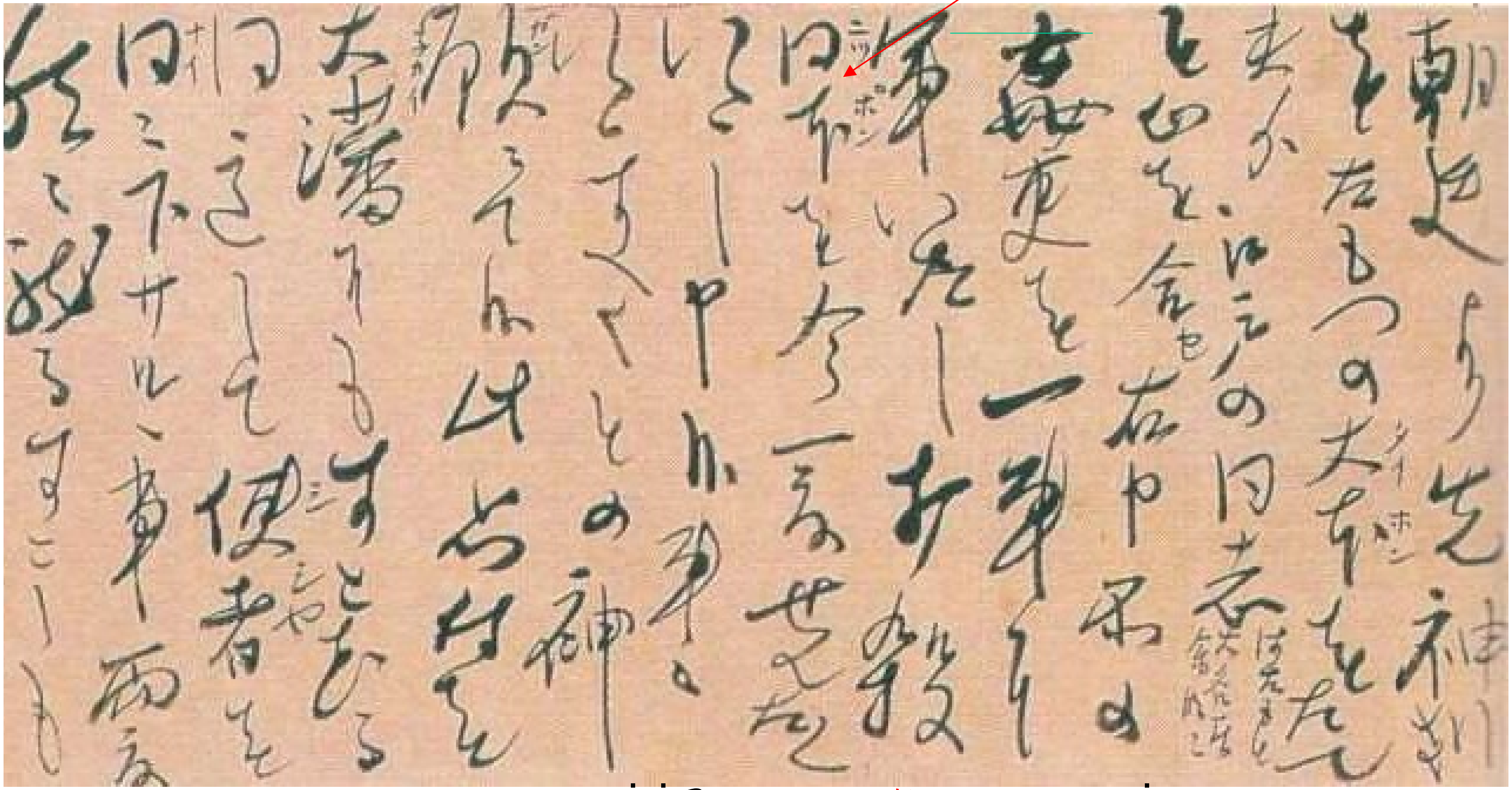
ー日本を今一度せんたくいたし申候ー

https://tabicoffret.com/article/2403/



「大政奉還」 二条城での慶喜、藩主への諮問の図
（明治神宮外苑聖徳記念館絵画館蔵）

日本を今一度せんたくいたし申候・・・



宮地佐一郎訳

朝廷より先ヅ神州
をたもつの大本をたて
夫より江戸の同志
と心を合セ　右申所の
姦吏を一事に
軍いたし打殺
日本を今一度せんたく
いたし申候事ニ
致すべくとの神
願ニて候　此思付を
大藩にもすこむる
同意して　使者を
内々下サル事両度
然ニ龍馬すこしも
つかえもとめず。実に

1863年(文久3年)6月29日

坂本乙女あて　龍馬の手紙
(宮地佐一郎著)

幕末の出来事と幕府、朝廷、3雄藩の関連

西暦	1853	1854	→58→	1860	1861	1862	1863	1864	1865	1866	1867	
外国	英米仏蘭							英パークス	仏ロッシュ			
勢力		国際法	植民地策					雄藩支援	幕府支援			
	ペリー来航								四カ国F示威			四カ国F示威
	黒船	日米英露						⑥	↓↓↓			↓↓↓
			58　開港			②	家茂上洛	家茂上洛		12慶喜		
幕府		和親T	JU修好T	遣米使節	開国派			4神戸海軍		↑	5四侯会談	
			59				⑦	操練所発足	3神戸海軍	7家茂薨去	⑳	10大政奉還
		将軍	安政大獄	桜田門変	公武	1坂下門変		⑫	操練所廃止	6長州征伐(2)		
		後継者			合体論					⑮		
		問題			①	8生麦事件						
			↑↑↑↑				⑪	8長州征伐(1)	4長州再征令			
朝廷	孝明天皇		無勅許を			2和宮降嫁					★	12王政復古
	攘夷派		孝明激怒									クーデター
	(×開国派)		攘夷要求									
長州藩			↑↑↑↑			③	5攘夷断行					
	尊皇派		尊攘激派			⑤	8/18政変			★	討幕密勅	
		攘夷派					⑧	6池田屋E				
							⑨	7蛤御門変	⑭	1薩長同盟		
							⑩	8四カ国艦隊		1寺田屋E		
								下関砲撃				
薩摩藩	公武合体		尊攘激派			幕政改革		⑬	5亀山社中			11龍馬暗殺
						↑　④	7薩英戦争			⑱	6薩土盟約	
						島津久光					9盟約破棄	
						上洛江戸						
土佐藩	公武合体		尊攘激派								⑲	10大政奉還
										⑰	6船中八策	建白書
											4海援隊	
										⑯	1後藤象二郎 －龍馬T	
						■	龍馬活躍 の5年間					没
						勝海舟へ入門			3年間			

⑫3月神戸海軍操練所閉鎖

（参考➡次頁）

●海軍操練所は、慶応元年(1865)3月に閉鎖された。
約10ヶ月の短い期間だった。（発足1864年5/14→勝罷免64年10/21→閉鎖1865年3月）
●勝の左遷：元治元年(1864)10月、勝は尊攘派志士を練習生として受け入れ不穏分子を育てているとの幕府の嫌疑を受けて江戸の召還。(訓練生には龍馬のように脱藩者、京都会津藩が追跡していた藩士も受け入れていた。また、池田屋事件（望月亀弥太）、禁門の変（土佐脱藩者安岡金馬）に加わった訓練生がいた。）
勝は進歩的でグローバルな知見を持ち、諸藩の藩士から「海舟先生」と慕われていた。 一方、
●幕府の中には反勝派が多数いた。
江戸に召還後、勝は軍艦奉行を罷免され減俸閑居謹慎となった。

➡ 勝は海軍操練所の閉鎖を予見し、江戸に出立の際、脱藩中の龍馬らの身を案じて薩摩藩家老小松帯刀に保護を依頼。 龍馬らはその後しばらく薩摩藩の保護下で働き、鹿児島に移動した。
やがて亀山社中の発足に至る。

⑬5月亀山社中(1865年7月)：薩摩藩株主の“株式会社”as like

●経緯：慶応元年(1865)4月25日神戸海軍操練所廃止に伴い、龍馬と同志は西郷、小松帯刀と京都をたち大阪から胡蝶丸に乗船、5月1日に鹿児島に着く。 当時の龍馬の構想：“江戸から蒸気船を借りて商売をする積りなのでそれまで身柄を預かって欲しい”→小松は“薩摩藩船の操船/輸送”のために申し出を承諾. 龍馬の蝦夷地開発計画：尊攘激派→蝦夷地一産物→横浜・長崎で商売

●龍馬らは小松帯刀の長崎出張に同行し、長崎亀山の小曽根乾堂の別邸を宿所とした。(豪商小曽根は勝の紹介で龍馬と旧知の支援者)
●亀山社中の発足：薩摩藩が後ろ盾になって航海ビジネスを行う。
薩摩藩はワイルウェフ号を貸し与え、給料を3両2分/(月・人)を支弁.
小曽根は亀山の事務所を斡旋し商品の一部を社中に提供した。
◎神戸海軍操練所の夢 → 亀山社中に引き継がれた。
(メンバー)土佐：坂本龍馬、近藤長次郎、沢村惣之丞、千屋寅之介、高松太郎、新宮馬之助、石田英吉、池内蔵太、山本洪堂、中島作太郎、/越前：渡辺剛八、小谷耕蔵、腰越次郎/ 越後：白峰駿馬、橋本久太夫/ 紀州：陸奥陽之助/ 讃岐：佐柳高次/鳥取：黒木小太郎

▲龍馬マルチ人間： 薩長同盟下工作に動く。(6/9：鹿児島→肥後横井小楠→大宰府三条実美経由→下関(土方久元、中岡晋太郎、木戸孝允らと西郷を待つが現れず.

薩長同盟の経緯

C:長州藩

尊皇攘夷思想

関ヶ原以降怨恨・討幕

S ：薩摩藩

意向

公武合体思想

将軍家婚姻 ・ 親幕

犬猿の中

討幕

徳川幕府 T

開国主義（井伊大老）

公武合体策、

将軍慶喜の政治手腕

＋ 仏軍事支援 脅威

・攘夷実行 5/15×

・8/18 日の政変×

・池田屋事件× 、蛤御門の変×

・下関事件（四カ国艦隊） ×

・長州征伐第１次×

・・・・・・長州藩の力が低下

・長州征伐第２次 ？

揺れる。倒幕派同志の争い。目的は討幕！

大政奉還、討幕への入口

1865年7/13(閏5/21)

C+S 下関会談×

龍馬の妙案

世論：

薩長が手を組んだら！

仲介

龍馬、中岡

C+S＋R 京都薩摩藩屋敷で成立

薩長同盟の密約

坂本龍馬自筆「薩長同盟裏書」
”…毛も相違これなく候…”と朱書した
引用：薩長同盟　wikipedia

●経緯：
・長州再征の勅許を得る（1865年9月）長州再征令
・薩長関係：「薩賊会奸」と呼び「犬猿の仲」
・薩摩藩思惑：長州藩の底力に関係の修復希望　←　海舟/西郷
・世論：薩摩藩＋長州藩→倒幕して朝廷頂点の新政府を作ったら･･！
しかし、妙案も行動に移す人間もいなかった。
●龍馬、中岡慎太郎の斡旋　絶好のチャンス到来
　薩摩・長州両藩の提携を画策(1865年5月)桂-西郷下関会談→不成功
●龍馬の妙案“as like クロス・カップリング”：（1865年8月）西郷説得成功
薩摩＝(亀山社中を介して)＝長州　交換：船/武器↔米　次頁参照

第4章付図付表等PPT材料¥鈴木カップリング.jpg

●薩長同盟(密約)締結と龍馬の裏書
　慶応2年 1月21日(1866年3月7日)京都の薩摩藩屋敷にて薩摩藩の西郷、小松、長州藩の桂は相互援助の薩長同盟を締結、倒幕の結束を固めた。　→薩摩の不戦し　第2次長伐　→失敗。　幕府↓失墜

発表に向けて¥薩長同盟木戸整理文.doc

胡蝶丸：1864年購入（英国）L×B×△×HP＝42.9×8.1 ×146トン×150HP：外車

1）龍馬の妙案！：クロス･カップリング

薩　長　同　盟　1866年1月23日締結

1865年5月龍馬ら
鹿児島着

1865年　龍馬の
妙案(西郷説得)
7月ごろ

1865年夏　結成

薩摩藩

米500俵

長州藩

亀山社中

ユニオン号

巻末参考：P101

1866年7～10月
グラバーから購入

ミニエー銃　4,000挺
ゲベール銃　3,000挺

Connection ⤴

グラバー

商売実績･発展

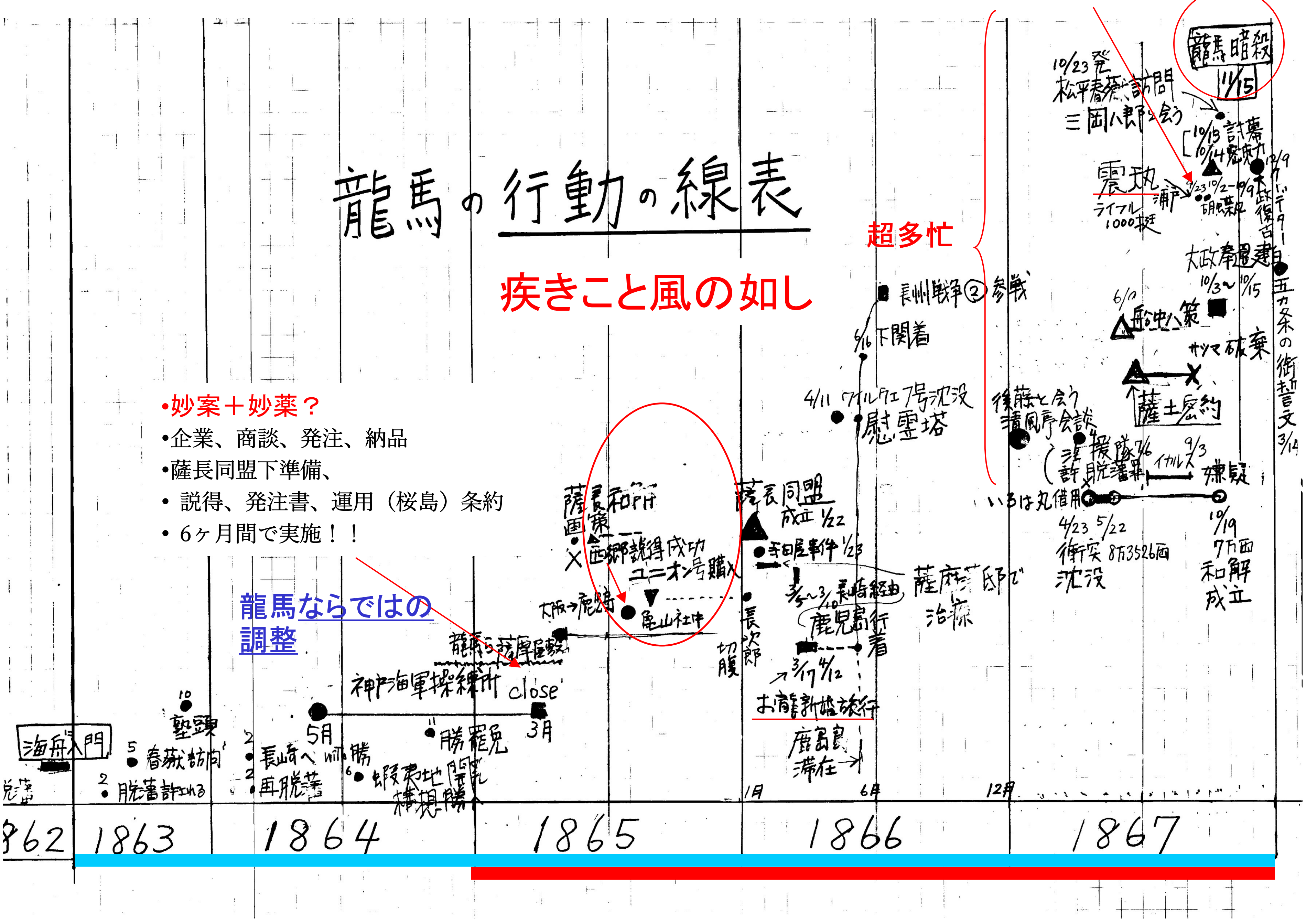
討幕一致団結へ

亀山社中古写真

注）ユニオン号：全長45メートル、排水量300トン、木造プロペラ蒸気船

商取引			if　5%マージン	実際に亀社入手金
ミニエー銃	4,300挺	7万7400両		
ゲベール銃	3,000挺	1万5000両		余談（長次郎約規違反切腹
ユニオン号	1隻	3万7700両		近藤長次郎へ贈呈受領）
計 約		13万100両 （約65億500万円）	6505両 （約3億2525万円）	推定100両 （約500万円）

注）上表数値：新･歴史群像シリーズ⑳　坂本龍馬と海援隊p126、歴史街道8坂本龍馬と亀山社中p36等より引用


龍馬の行動の線表
疾きこと風の如し
超多忙
•妙案＋妙薬？
•企業、商談、発注、納品
•薩長同盟下準備、
• 説得、発注書、運用（桜島）条約
• 6ヶ月間で実施！！
龍馬ならではの
調整
龍馬暗殺
11/15
海舟入門
神戸海軍操練所 close
亀山社中
ユニオン号購入
薩長同盟
成立 1/22
寺田屋事件 1/23
長州戦争②参戦
下関着
慰霊塔
いろは丸借用
薩土盟約
和解
成立
五ヵ条の御誓文
1863
1864
1865
1866
1867

寺田屋事件

●薩長同盟が締結された翌日の1866年１月23日、京都伏見の旅館寺田屋に投宿中の龍馬と三吉慎蔵は、深夜伏見奉行所が派遣した捕り方の急襲を受けた。
・2階にいた龍馬たちはお龍の知らせで察知し、龍馬はピストル、 三吉は槍で応戦した。龍馬は左手に傷を負いながら活路を開き 脱出、裏道に出て伏見の薩摩屋敷に入った。
・幕府大目付が伏見奉行所に申し付けた通達は
「坂本龍馬なるものはけして盗み語りはいたさぬものなれど、此の者がありては徳川家の御為にならぬと申して是非殺す様にとの事のよし、此故は幕府の敵たる長州・薩州の間を往来して居との事なり」
・薩長同盟を仲介成立させた龍馬はいよいよ幕府の要注意人物となった。

●お龍も薩摩藩邸に入り、龍馬の妻として遇される。
負傷した龍馬の薩摩藩邸滞在は一ヶ月に及ぶ。
●九州旅行：お龍を伴い小松、西郷に連れられて、蒸気船「三邦丸」 で鹿児島に行く。 大阪3/5→下関3/6→長崎3/8ユニオン号の件→3/10鹿児島着

●新婚旅行：3/17→4/12：霧島、日当山温泉、塩浸温泉11泊、霧島山逆鉾、霧島神社

三邦丸：1864年購入（英国）L×B×△×HP＝53.1×6.3m×410トン×110HP：プロペラ

長州征伐(第二次)

●発端:
長州藩では1865年松下村塾出身の高杉晋作らが奇兵隊を結成し俗論派(保守派:幕府に恭順を示していた)打倒のクーデターを起こして実権を握り、再び倒幕の動きを強めた。幕府(一会桑体制)はこれを警戒、将軍家茂は上洛し長州再征の勅許を得て再征令(1865年9月)を出した。朝廷・諸藩には再征反対の空気が強かった。
幕府軍は10万人の軍勢(長州側5千人)を動員して
1866年6月戦闘を開始。

●戦闘:
小倉口、大島口、芸州口、石州口の4箇所で行われ四境戦争と呼ばれた。幕府軍は薩摩藩等諸藩の出兵拒否にあい、苦戦した。
←薩長同盟

●1866年7月家茂の病死により、幕府軍は1866年8月に停戦した。
幕府の権威は完全に失墜した。

いよいよ倒幕、大政奉還の機運が高まる。

清風亭会談と薩土密約への道（土佐藩の藩論の方向転換）

薩土密約　1867 年 6/22

T :土佐藩　22 万石
徳川家の恩:土佐一国賜る
公武合体思想
他雄藩と同調できないジレンマ

S ：薩摩藩
公武合体・討幕
薩長同盟国

大政奉還後の構想無し

後藤象二郎・龍馬会談
（1867年 1,2 月）　龍馬の力を借りたい

こころは？

龍馬の心情
- 単独では理想実現不可
  妥協
- 土佐への思い

●幕府の失墜　見限る　薩長雄藩の仲間入り
●幕政改革→藩営貿易･蒸気船購入４２万両
●龍馬の力を利用する
- 薩長に追いつき 雄藩連合を主導←龍馬の人脈
- 流通経済で藩財政促進　　←亀山社中利用

薩摩藩（武力討伐派）の思惑？？？
- 何故、薩土密約を締結したのか？だが、後に
- 何故破棄したのか

船中八策 ← 脱藩罪許す　海援隊発足

薩土密約締結
6 月 22 日

- 9 月密約破棄
- 10/2 建白書提出 ox

大政奉還建白書を徳川幕府に 10/3

⑯-2 海援隊

●後藤象二郎は1867年1月、龍馬と会談、その後、脱藩の罪を許し、海援隊を作って隊長に任命した。

陸援隊(隊長:中岡慎太郎)と共に土佐藩の支援を受ける。 合わせて “翔天隊”と呼ぼうと語った。

●海援隊約規 格調高い

内容 ➡ 次頁参照

発表に向けて¥海援隊約規.doc

・隊員:総勢約50人(隊士22人、他は水夫)、内訳:隊士/土佐12人、他は越前、紀州出身

・船:いろは丸、ワイルウェフ号(帆船)、大極丸

・守備範囲:船社/商社(射利)、学問所:商船学校、学校(政治/語学)、研究(商法の愚案by陸奥宗光、西洋知識)、著作出版(和英通韻伊呂波便覧、藩論、閑愁録、万国公法未完等)

①土佐藩: 藩の外郭組織
②海援隊: 龍馬の運営
岩崎弥太郎:会計主任(土佐商会、海援隊)
→龍馬と始めて会う。

・海援隊は近代感覚に溢れた新しい集団:

しかし、発足直後で非常に貧しかった。

▸海難事故を起こした。→ 次次頁ページ

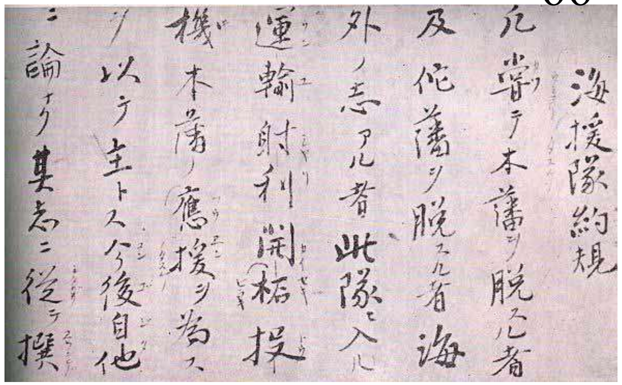
和英通韻伊呂波便覧(霊山歴史館所蔵)

ウミヨリタスケ・ヤツキ

海援隊約規（要約）

龍馬のロマンと隊員への気配り/やさしさが溢れた格調高い文章である。
海援隊は150年前のベンチャービジネスであるといえる。

注）ベンチャー・ビジネス：大企業や大学など研究機関からスピン・アウトした人たちが中核となり、高度の専門能力、創造的才能、企業者精神を生かして、大企業では着手しにくい特殊な新規需要部門に挑戦する独立型・研究開発型の小新規企業。



高知弘松家所蔵の「海 援 隊 約 規」

http://kaientaidesu.la.coocan.jp/html/ziken6.htm

入隊資格・隊の目的：土佐藩を脱藩したもの、他藩を脱藩したもの、海外に志しある者は入隊できる。隊の目的は、運送業、交易による、開拓、相場への投機とし、土佐藩の応援をする。自薦他薦を問わず、海援隊に入りたいと言う志がある者は入隊可能である。

隊長の権限：隊員およそ隊中のことのいっさいは隊長の処分にまかせる。隊長の指示方針などに違背してはならない。もし暴乱、違反行為、隊に対する迷惑行為などがあれば、隊長がその死活を制することを許す。

隊士の義務と約束：隊中にあっては、互いの困難を助けあい、守りあい、互いの気分が緩んでいるときには責めあい、道理や筋道の通らぬことは正しあい、独断で過激な行為に走るのを制しあうこと。仲間の邪魔をしたり、集団で他人の行為の邪魔をするなどの行為は、もっとも慎むべき所で決してこれを犯してはならない。

隊士の修業、分課：隊中の修業分課は、政法、火技、航海、汽機、語学等のごとき、その志に従ってこれを学ぶ。互いに勉励し、怠ってはならない。

隊中の諸費用、収益など：隊中の活動は独立採算。活動に要する経費などは、隊の活動で得た利益でまかなうこと。収益は互いに分配し、私腹を肥やしてはならない。万が一、資金が足りず、修業に支障がでるような場合には、隊長が建議し、出崎官役（後藤象二郎）の支給をまつこと。

海援隊が関係する3つの海難事故

1)いろは丸と明光丸の衝突沈没事件（ 1867年5月26日）

鞆の浦歴史民族資料館　園尾　裕(20101016)

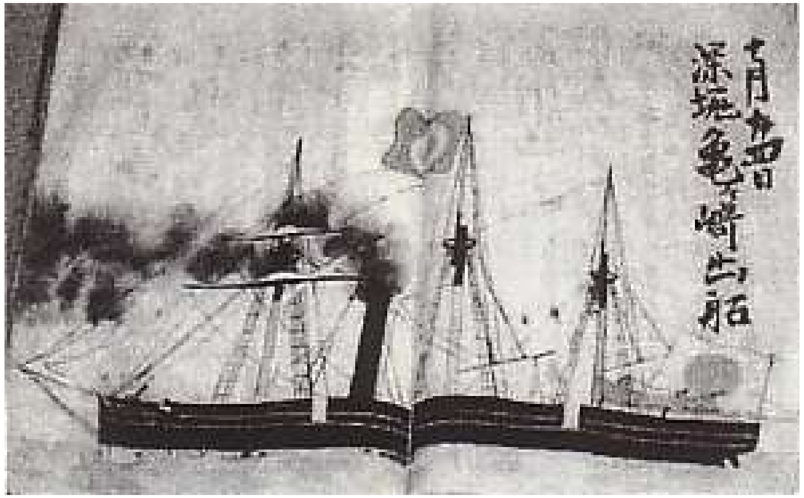
いろは丸（伊予大洲藩）　　　（　）従来説

- 建造年場所：1862年英国
- 購入年：1866年fromポルトガル領事
- 原名　：アヴィゾ　（サーラ）
- 長さ×幅＝ 47×5.2×3m（54×5.4m ）
- 排水量　＝ 209.16dwt　（160トン）
- 馬力　＝　－　（45HP）
- 推進器：スクリュープロペラ

・1863年薩摩藩がグラバーから購入。1865年ポルトガルデント商会に売却、1866年に五代才助の周旋で大洲藩が1万両(従来説4.25万両)で購入、「いろは丸」と命名。

・「いろは丸」は海援隊が海運業目的で、一航海15日につき500百両で大洲藩から借り受けた。

・1867年4月18日に長崎を出港
海援隊の初仕事で、龍馬と海援隊士等は諸藩に売りさばく 米、砂糖等商品（と鉄砲、弾薬：龍馬談）を満載し、紅白紅の二引の海援隊旗を翻して大阪方面を目指して航行していた。（一般便船人13人を含む計34人）

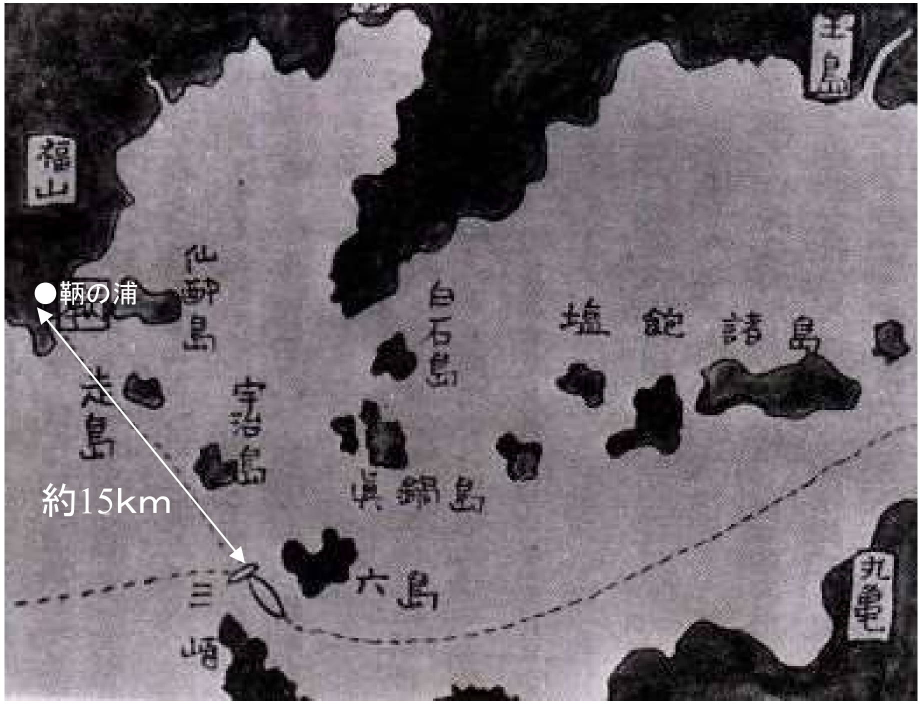


明光丸（紀州和歌山藩）

- 建造年場所： 1864年Stocton on Teas　英国
- 購入年：1864年 by Kishu-han via Glover from　英国
- 原名　：バハマ
- 長さ×幅＝75.6×10.8m　（いろは丸の1.6倍）
- 排水量　＝887トン　（いろは丸の約4.16倍）
- 馬力　＝ 150HP
- 推進器：スクリュープロペラ

衝突事故発生

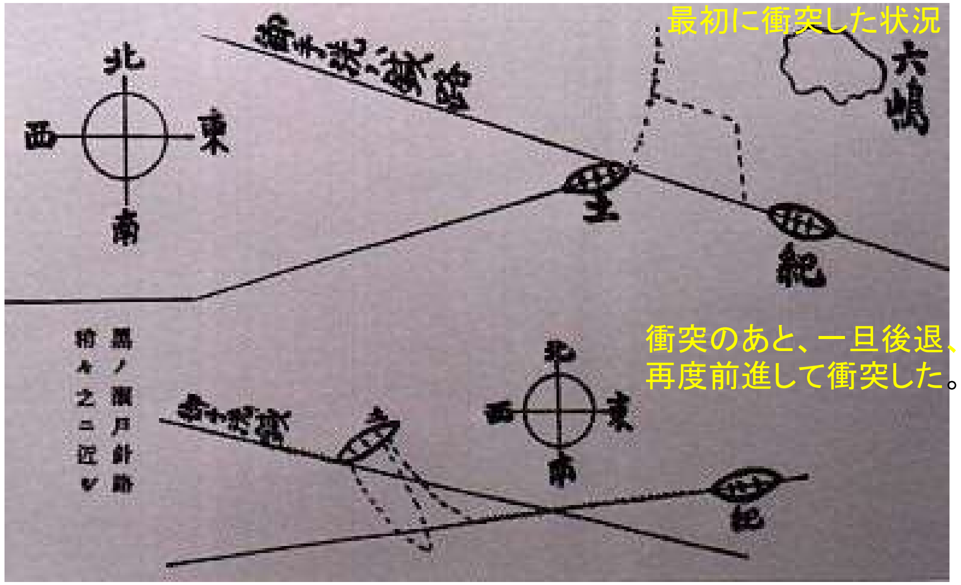
- 1867年4月23日23時頃、濃霧の中、いろは丸は現在の広島県福山市鞆の浦沖六島と箱の岬の間を航行中、紀州藩の明光丸と衝突した。
- いろは丸は大破し、自力航行不可能となって鞆の浦に曳航される途中に宇治島沖で沈没した。乗っていた龍馬と海援隊士等は鞆の浦に上陸し、相手船との交渉にあたった。



両船の衝突の状況（諸説あり）

- 御手洗航路を西進してきた明光丸を、右舷側に発見した“いろは丸”は、左に舵を取り、左に進路を変更した。一方、いろは丸を遅れて発見した明光丸は右に舵をとった後、左に戻し前進して、“いろは丸”の右舷に衝突した。
- 衝突後、“いろは丸”乗組員は明光丸に乗り移ったが（明光丸の）当直士官がいなかった。衝突後、明光丸は一旦後進して“いろは丸”から離脱、再度、前進していろは丸に衝突し沈没させた。いろは丸は舷灯無灯火だったとも云われている。

明光丸は乗組員全員を乗せ、“いろは丸”を鞆の浦港に曳航中、宇治島南方4km、水深27mの海底に積荷もろとも沈没した。



わが国最初の蒸気船同志の衝突事故・談判の行方

翌24日朝鞆の浦に上陸、明光丸船長高柳楠之助と坂本龍馬の談判にはいる。27日になっても決着がつかず舞台を長崎に移すことになり明光丸は長崎に向けて発つ。龍馬は別船で下関に立ち寄り、お龍の安全を三次に託した後、長崎に向かう。土佐の政治的駆け引きにより優位に進め、紆余曲折を経て、紀州藩に賠償額8万3526両198文を応じさせた。（ 証書内容:いろは丸船代:3万5630両と積荷物代価等:4万7896両198文でえあるが、最終的に1万3000両余減額して、7万両が海援隊側にわれた。）　最近の発掘調査では龍馬が主張したミニエー銃400丁など銃火器などは見つかっていない。

いろは丸海難事故で海援隊のなしたこと:

①徳川親藩紀州藩の政治的威圧、封建的手法に龍馬らが激怒（急用を理由に舞台を長崎へ）

②事実審理を重視:航海日誌や海路図による事実の確認

③判断の基準を公法に尋ねる。イギリス海軍提督、万国公法を盾に、④土佐藩参政後藤象二郎に応援

⑤航海日誌や談判記録の保全、⑥一戦を交える臨戦態勢

⑥世論操作:土佐→紀州、歌「船を沈めたその償いは金を取らずに国を取る」

龍馬のRisk Management: 臨戦態勢/世論操作・情報作戦/身内の安全/筋を通した交渉/重鎮の応援/交渉決着点

2010/8/22 AM

イージス艦「あたご」事故　あす初公判

直前の当直者責任 焦点

海上自衛隊のイージス艦「あたご」と衝突した漁船の2人が死亡した事故＝キーワード＝で、業務上過失致死などの罪に問われた2自衛官の初公判が23日、横浜地裁で開かれる。弁護側は無罪を主張する方針。一方、海難審判では「あたごの見張り不十分が原因」という裁決がすでに確定している。（太田泉生）

イージス艦「あたご」衝突事故　2008年2月19日早朝、千葉・房総半島沖で、米・ハワイから横須賀基地（神奈川県）に向かっていた海上自衛隊のイージス艦「あたご」と、漁船清徳丸（千葉県勝浦市）が衝突。清徳丸は沈没し、吉清（きちせい）治夫さん（当時58）、哲大（てつひろ）さん（同23）父子が行方不明になった。2人は発見されぬまま、同年5月に第3管区海上保安本部が死亡を認定した。

自衛官側 無罪主張へ

横浜地検は、操船責任者の「当直士官」を衝突時に務めていた元水雷長の長岩友久3等海佐(37)と、衝突の約12分前まで当直士官だった元航海長の後潟桂太郎3等海佐(38)＝いずれも休職＝を在宅起訴。海難審判では責任を問われなかった後潟3佐の刑事責任の有無が注目される。

検察側は、後潟3佐が接近する漁船群について「漁船は停止操業中」と誤った引き継ぎをしたと主張。清徳丸がさらに接近し、あたごに回避義務が生じたが、長岩3佐は引き継ぎに引きずられて気づくのが遅れたとし、2人のミスが重なって事故が起きたとしている。一方、弁護側は「引き継ぎと衝突に因果関係はない」と反論している。

2008年秋から横浜地方海難審判庁（現・横浜地方海難審判所）であった海難審判では「長岩3佐の見張り不十分」が事故の直接の原因だとする裁決が確定。防衛省の最終報告や処分も、ほぼ同じ認定に基づいて行われた。

海難審判は事故の原因究明と再発防止が主眼。裁決は当直士官と見張り担当者らの連携不足を問題視し、海自の組織的な問題点について改善勧告した。一方、刑事裁判は個人の刑事責任の追及が目的で、海難審判の結果には拘束されない。

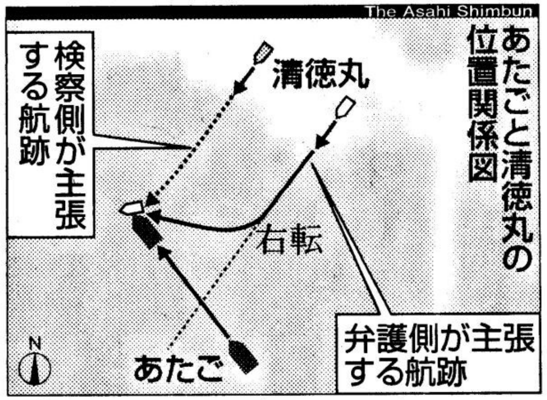
海難審判は原則として刑事裁判に先行して行う慣例があるという。検察と弁護側の主張が対立し、公判前整理手続きにも時間がかかった。

後潟3佐の刑事責任を問うことについて、横浜地検幹部は「海難審判とは視点が違う。2人が亡くなった以上、前任者のミスについても相応の責任を問うべきだ」。結果の重大性を踏まえて起訴に踏み切ったとみられる。

神戸大大学院の大塚裕史教授（刑法）は「船舶関係者の間では、当直が責任を持って判断すべきだとの考え方が非常に強く、海難審は『船乗りの常識』を重視した。刑事裁判では、より一般的な感覚で誰にどんな過失があったか検討するのだろう。複数の過失が事故に影響したと考えるのは、刑法の判例では一般的だ」と語る。

公判では両船の航跡も争点となりそうだ。裁決は否定したが、弁護側は海難審判と同じく「衝突の危険はなかったのに、清徳丸が突然右旋回した」と主張する見通しだ。

公判は来年1月31日の結審まで17回の日程が決まっている。判決は来年前半にも言い渡される見込みだ。



（参考）
最近の事例

2）帆船ワイルウェフ沈没事件(1866年4月）

●ワイルウェフ号：薩摩が英国から6300両で購入した帆船で亀山社中が運用

●長州のために、ユニオン号（乙丑丸）と銃を薩摩藩名義で購入引き渡した返礼として、1866年4月11日、米500俵をユニオン号に積んで下関を出港、一旦長崎に入り、ワイルウェフ号を曳航して鹿児島に向かった。

●船長は社中の黒木小太郎、士官は池内蔵太であった。ところが途中、暴風雨に遭遇し曳航したユニオン号は危険を感じて切り離した。ワイルウェフ号は五島沖まで漂流、座礁して沈没、社中の黒木小太郎と池内蔵太は死んだ。

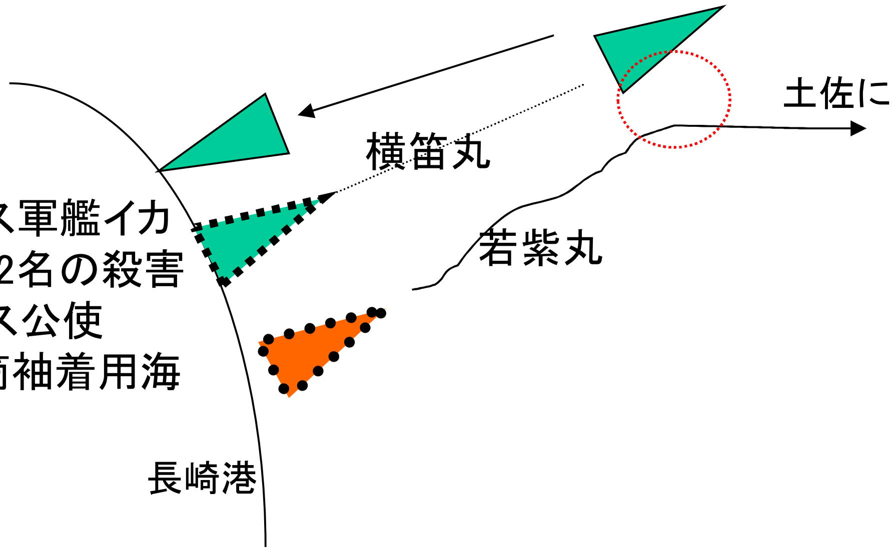
https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%AF%E3%82%A4%E3%83%AB%E3%83%BB%E3%82%A6%E3%82%A8%E3%83%95%E5%8F%B7

3）イカルス号事件：1867年7月－海援隊士への水夫殺害嫌疑－

●慶応3年（1867年）7月6日未明、長崎の花街丸山でイギリス軍艦イカルス号の乗組水夫ロ　バート・フォードとジョン・ホッチングスの2人が何者かにより殺害された。　長崎奉行による犯人捜索がおこなわれた。

●当時、長崎帰港中のイギリス公使ハリー・パークスが調査し、犯人らしき人物は土佐藩海　援隊士と同じ白袴筒袖を着ていたという市中の噂を得た。事件の翌朝、海援隊の横笛丸が長崎を出港、ついで土佐藩砲艦の若紫丸が出港、横笛丸は正午に帰港したが若紫丸はそのまま土佐に帰国していた。

●パークスは、横笛丸が犯人を乗せて港外に出て海上で若紫丸に移乗させ長崎へ戻ってきた　と推論



長崎　イギリス軍艦イカルス号　水夫2名の殺害事件：パークス公使
犯人は白袴筒袖着用海援隊に嫌疑

長崎奉行に海援隊士の取り調べを要請風説で根拠がないと。パークスが激怒、幕府に申告、直接土佐藩と交渉するとして慶応三年8月6日パークスは軍艦パジリス号で須崎港に入港。大型艦船の土佐への来航陸上では乾（板垣）退助の率いる部隊が戦闘態勢で待機。藩船「夕顔」の船上で行われた。英国と土佐藩の談判では、床を踏み鳴らして怒声を浴びせかけて高圧的なパークスに対し、後藤象二郎は堂々と土佐藩の主張を展開。土佐の談判では決着が付かず長崎に移された。

●9月３日に談判が再開。長崎裁判を経て犯人は筑前福岡藩士の金子才吉であることが判明したが、当人は犯行直後すでに自殺していた。　2ヶ月　大政奉還建白の実行が遅れた。

参考：現在地とこれから

	大政奉還･王政復古までの道
1867年	
1～2月	後藤象二郎･龍馬の長崎清風亭会談
6月9日	船中八策
6月22日	薩土密約締結
9月	薩土密約破棄,土佐藩の建白暫く保留の要望、後藤焦燥
10月2日	薩摩藩が大政奉還建白書提出にOK
10月3日	大政奉還建白書提出
10月12,13日	大政奉還建白書に対する慶喜の諸侯への諮問
10月14日	大政奉還上奏文　←→　倒幕の密勅
10月15日	大政奉還勅許
10月16日	新官制擬定書　龍馬書
１１月	新政府綱領八策（八義）　龍馬書
11月15日	★龍馬、中岡暗殺
12月9日	岩倉具視参議復帰、三条実美以下七卿簡易回復
	王政復古クーデター
	王政復古大号令　小御所会議　徳川家処分
1868･12－1869･5月	戊辰戦争
1868年	五箇条の御誓文

⑰船中八策

●1867年6月9日、後藤象二郎は龍馬と共に（海援隊書記長長岡謙吉を伴い）土佐藩蒸気船「夕顔丸」で長崎を出発し上京した。その船中で龍馬は後藤に大政奉還に向けた新しい国家の体制について具申したと言われている。

●後藤は、政局の新しい打開策※を全く掴めていなかった。直ちにこれを受け入れ藩論としてまとめた。（※土佐藩が公武合体派として武力解決を回避したその先の構想）

船中八策

一策　天下ノ政権ヲ朝廷ニ奉還セシメ、政令宜シク朝廷ヨリ出ヅベキ事

二策　上下議政局ヲ設ケ、議員ヲ置キテ万機ヲ参賛セシメ、万機宜シク公議ニ決スベキ事

三策　有材ノ公卿諸侯及天下ノ人材ヲ顧問ニ備ヘ、官爵ヲ賜ヒ、宜シク従来有名無実ノ官ヲ除クベキ事

四策　外国ノ交際広ク公議ヲ採リ、新ニ至当ノ規約ヲ立ツベキ事

五策　古来ノ律令ヲ折衷シ、新ニ無窮ノ大典ヲ撰定スベキ事

六策　海軍宜シク拡張スベキ事

七策　御親兵ヲ置キ、帝都ヲ守護セシムベキ事

八策　金銀物貨宜シク外国ト平均ノ法ヲ設クベキ事

出典：船中八策 Wikipedia

土佐藩蒸気船「夕顔丸」

- 購入年：1867年　from　英国
- 原名　：スーインリ
- 長さ×幅＝64.8×8.1m
- 排水量　＝659トン
- 馬力　　＝ 150HP
- 推進器：プロペラ

夕顔丸の絵馬

https://www.city.kochi.kochi.jp/soshiki/90/cas-city-3101500.html

夕顔丸の絵馬が1981年末に高知市仁井田の仁井田神社拝殿で偶然発見された。絵馬には「夕顔艦運用方」と墨書されている。仁井田周辺には土佐藩のお船倉（造船、運用、繋留、管理補修する諮行と関連施設）があり、航海の無事を祈願した絵馬が奉納されたのだろう。

薩土密約の約定書　1867年6月27日

1. 大政の全権は朝廷にあり、皇国の制度や法の一切は京都の議事堂から出るべきである。

2. 議事院は諸藩の費用供出で成り立つ。

3. 上院と下院を分け、議員は公卿から諸侯・陪臣・庶民に至るまで正義の者を選挙し、諸侯も職掌によって上院に充てる。

4. 将軍職は執政の最高官ではないので、徳川慶喜は職を辞して諸侯の列に戻り、政権を朝廷に帰するべきである。

5. 諸外国との条約は兵庫港（神戸）で新たに外務大臣が交渉し、新条約を制定して通商を行う。

6. 律令以来弊害のある朝廷の制度を刷新し、地球上に恥じない国体を建てる。

7. 皇国復興の議事に当たる者は公平無私を貫き、人心一和して議論を行うべきである。

出典：薩土盟約 Wikipedia

薩土密約破棄→討幕密勅画策→慶喜大政奉還上奏

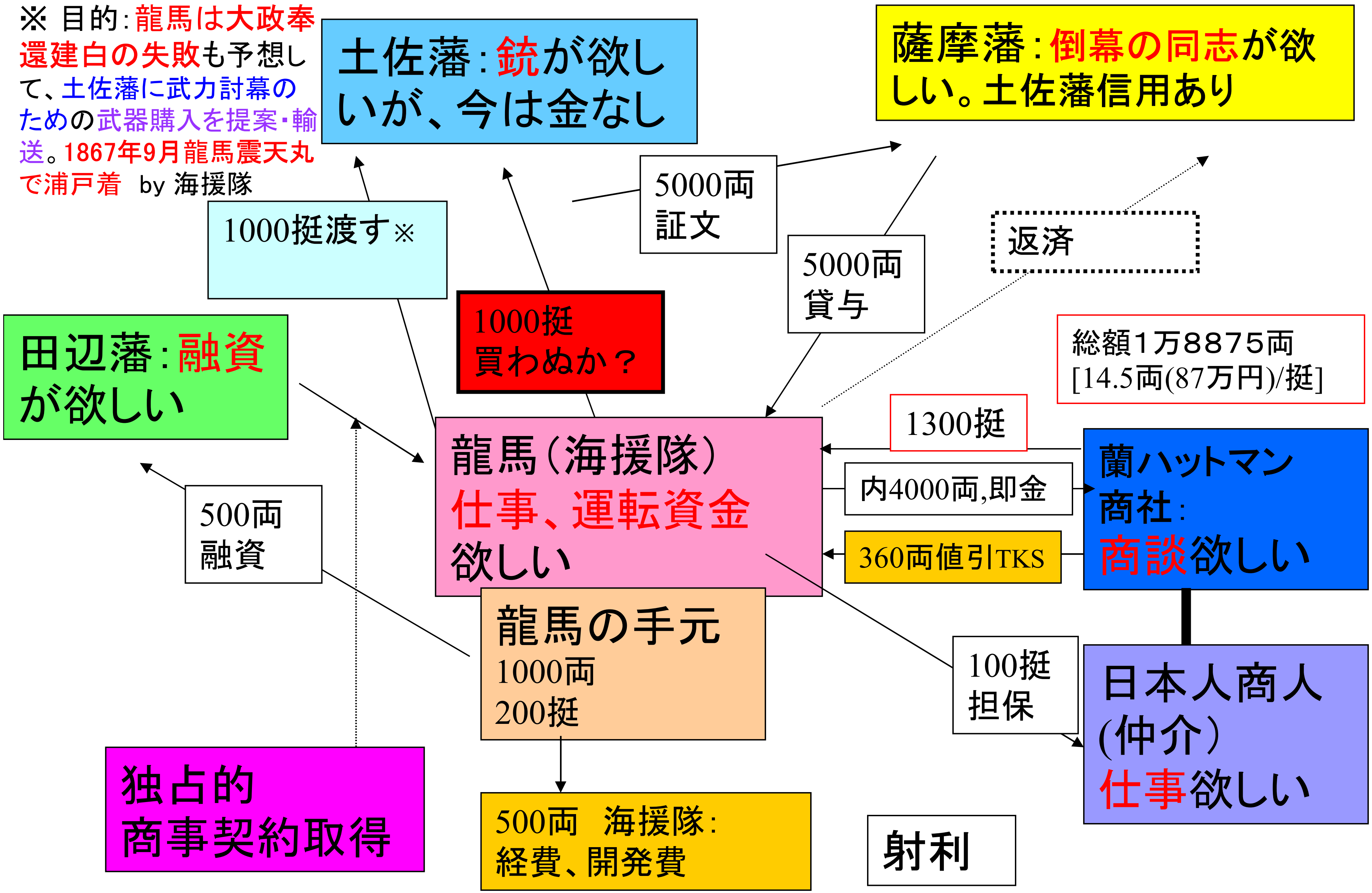
●後藤が藩論を纏めて大政奉還建白を進めていたころ、薩土盟約を破棄した薩摩藩は早急の討幕のために薩長芸3藩の討幕挙兵協定を成立させた。これを知った後藤は容堂を通して将軍慶喜に大政奉還建白書提出を急いだ。

●一方、薩摩藩は岩倉具視と結び「討幕の密勅(偽勅)」を薩摩、長州に下すよう画策したが、討幕の密勅が下った日に慶喜は大政奉還を上奏したので、薩長芸は討幕の大義名分を失い出鼻をくじかれた。

●討幕の紛争が起こる前に、大政奉還の既成事実を作り、徳川慶喜が大政奉還後も実質的に政治主導権を握ろうと画策したのであろう。

▲龍馬のリスク・マネージメントと商才： 大政奉還建白書提出から朝廷への上奏・受理迄は12日間という短期間で行われた。この間、将軍慶喜の行動方針は予想できず、武力奪回が起こるのか否か、討幕派内の土佐藩も薩摩藩もジリジリしながら見守っていたことであろう。こんな中、龍馬は大政奉還建白の失敗も予想し、武力路線が実行に移されたときに土佐藩が速やかに加わることができるようにオランダ商人ハットマンからライフル銃1,300丁を代価18,875両で購入し、9月18日に芸州蒸気船震天丸に銃を積んで下関経由で24日高知浦戸に入港した。土佐藩仕置役渡辺弥久間に京都の実情と銃器搬入の件を書いた手紙を届けさせた。直ちに藩重役本山只一郎が龍馬を出迎え銃器はすべて藩が購入することを合意した。一介の脱藩志士の行為が討幕に向けて土佐藩と共鳴した。同時に、代価18,875両もの大金の融通、商社との駆け引き、他藩への融資など無から有を生じる龍馬の商才は見事である。(次頁)なお、この時(同月29日)、龍馬は脱藩以来、約6年ぶりに友人戸田雅楽を伴って実家に帰り、兄権平はじめ乙女、姪春猪と対面し家族と訣別の盃を交わした。 龍馬の手紙 宮地佐一郎著(p474～p475)

無から有を生じる龍馬の商才：震天丸で土佐藩へ納入ミニエー銃1,000挺　1867年9月



堺屋太一：「夢と熱血の男」の行動学,PRESIDENT　MOOK、（プレジデント社）中の文章から図示

龍馬が震天丸で土佐藩に運んだミニエー銃1,000挺とは

所有機関	安芸広島藩						
船名	原名	推進器・船	備砲・船質	馬力	L/B	トン数	輸入先
震天丸	ﾘﾖﾝ	蒸気内車	鉄	80	長45.0 幅6.3	181	英国

ゲベール銃に照尺を取り付け、
ライフリングを刻んだ。

http://www.geocities.jp/satopyon0413/kaisetsu10b.htm

1867年10月3日　大政奉還建白書（容堂→慶喜）

①天下の大政を議定する全権は朝廷にある。すなわち、我が皇国の制度法則の一切にわたる全ての政務は、必ず京師の議政所より出すべきである。
②議政所は上下に分け、議事官は上は公卿より下は陪臣庶民に至るまで、正明純良の士を撰挙すべきである。

③学校を都会の地に設け、長幼の順序に分け学術技芸を教導せねばならない。
④一切の外国との規約は、兵庫港に於いて新たに朝廷の大臣と諸外国と議論し、道理明確の新条約を結び、誠実の商法を行い、外国との信義を失わないこと。

⑤海陸の軍備は一大至要である。軍局を京摂の間に築造し、朝廷守護の親兵とし、世界に比類なき兵隊とする事を要する。
⑥中世以来、政刑は武門から出た。西洋の軍艦来航以後、天下が乱れ、国家は多難になり、ここで政権が動いた。これは自然の勢いである。今日に至り、古来の旧弊を改新し、枝葉に関わらず、小条理に止まらず、大根基を建てる事が主要。

⑦朝廷の制度や法則には、今の時勢では不適当なものもあろう。宜しくその弊風を一新し、改革して、地球上に独立する国の基本を建つべきである。
⑧議事に関わる士太夫は私心を去り、公平に基づき策を弄さず、正直を旨とし、古きを改め新しく始め、今後の事を見極める必要がある。言論のみ多く実効が少ないという通弊を繰り返してはならない。

10月14日慶喜大政奉還上奏文 → 10月15日に勅許

臣慶喜謹て皇国時運の沿革を考候に、昔し王綱紐を解き相家権を執り、保平の乱政権武門に移りてより、祖宗に至り更に寵眷を蒙り、二百余年子孫相受、臣其職奉ずと雖も、政刑当を失ふこと少なからず。今日の形勢に至り候も、畢竟薄徳の致す処、慚懼に堪へず候。況や当今、外国の交際日に盛なるにより、愈朝権一途に出申さず候ては、綱紀立ち難く候間、従来の旧習を改め、政権を朝廷に帰し奉り、広く天下の公議を尽し、聖断を仰ぎ、同心協力、共に皇国を保護仕候得ば、必ず海外万国と並立つべく候。臣慶喜国家に尽す所、是に過ぎずと存じ奉り候。去り乍ら猶見込の儀も之有り候得ば、申聞くべき旨、諸侯え相達置候。之に依て此段謹て奏聞仕候。　以上　　慶喜

【訳】謹んでわが国の時勢の変遷を考えてみますと、昔、天皇の政治が乱れ、藤原氏が摂関となって権力を握り、保元･平治の乱を契機に政権は武家に移り、それ以来、我が祖先徳川家康にいたり、朝廷の寵愛を受けて200余年将軍職を受け継いできました。私は将軍職を受け継いでいますが、政事刑罰の運用で適当でないことが少なくありません。今日の時勢に至ったのは私の不徳のいたすところで恥じ入るばかりです。最近は外国との交際が盛んになり、政権がひとつにならないと秩序が保てなくなりました。政権を朝廷に返しますので、広く天下の議論をつくして天皇の決断をあおぎ、協力しあってゆけば、海外の国々と肩を並べられるようになるでしょう。なお、どうすべきかの意見があったならば申し出るように諸大名に命じてあります。こういうことですから、 以上のことを謹んで申し上げます。　以上　慶喜

出典:大政奉還　Wikipediaなど

大政奉還建白書提出後、幕府はすばやく受理・決意/朝廷受理決定

→10月3日将軍慶喜大政奉還建白書を受け幕閣に意見を求めて大政奉還を決意
→10月12日・13日老中以下在京諸藩重臣が二条城に招集され慶喜の諮問を受く。
→10月14日朝廷に上奏、10月15日朝廷は受理を決定した。
➡一方、龍馬は船中八策の次なる実際化のために自ら筆をとり、
→10月16日:新官制擬定書:船中八策を運営する人材案を執筆
→11月上旬:新政府綱領八策:日本政府政体案を執筆(龍馬直筆2通) 104頁参照

大政奉還建白書前後の龍馬の行動

●慶喜受理前:下工作に走る

・幕府若年寄永井尚志(なおゆき)に会い、土佐藩の建白書採用を訴えた。 永井は龍馬を「後藤よりも一層高大にして、説くところも面白し」と評価
・建白書の「第1条:将軍職の廃止」の議論が最重要。こじれれば、
・江戸の銀座を京に移して貨幣金融の権限を幕府から奪い、将軍職を有名無実とする。

●龍馬の大決断(建白書提出直前後藤に対し):龍馬の手紙:後藤象二郎宛(慶応3年10月13日)

・大政奉還の建白が失敗した場合、私も必死の覚悟であり、後藤先生下城なき時は、海援隊が将軍の通り道で待ち伏せし国家を建て直すために襲撃する。結果はどうなろうとも、先生とは地下で面会するつもりである。
・もし、先生が失敗し大切な機会を逸するならばその罪は許されない。私も薩長からの批判を免れず生きていられない。

●慶喜受諾後:龍馬の手紙p485,486記述

・龍馬ら海援隊同志、土佐藩志は近江屋で待ち、後藤の「大樹公政権を朝廷に帰すの号令を示せり」の報告を得た。大政奉還の知らせに、龍馬は「将軍家、今日の御心中さこそと察し奉る。よくも断じたまへるものかな。世は誓ってこの公のために一命を捨てんとて覚えず大息した。」と、慶喜の決断に深く感動し涙を流した。

龍馬暗殺（1867年11月15日）

●明治維新まであと一月半を残した1867年11月15日深夜、四条河原町の近江屋の２階の奥座敷にて、盟友中岡慎太郎と会談中、刺客に襲われて龍馬は即死した。33歳であった。中岡は重傷を負い2日後の死んだ。29歳であった。

●当時、大政奉還実現の大立役者であった巨人龍馬は、誰に狙われても不思議ではない危険と隣り合わせの状態にあった。
●しかし、何故か、土佐藩は龍馬を安全が確保されている土佐藩邸に入れなかった。薩摩藩士の吉井幸輔は龍馬の身を案じ、11月5日に二本松の薩摩藩邸に入るように勧めている。
●龍馬の複雑な心情が次の手紙に表れているような気がする。
「御国表の不都合（龍馬の脱藩）の上、又、小弟さへ屋敷ニハ入ルあたハず。又、二本松邸ニ　身をひそめ候ハ、実ニいやミで候得ば、万一の時も在此候時ハ、主従共ニ此所に一戦の上、屋敷に引取申べしと、決心仕居申候。（10月18日土佐藩士　望月清平宛書状、宮地佐一郎「龍馬の手紙」p491～p498）

●龍馬暗殺を聞いた西郷は後藤象二郎を捕らえて形相怒髪天を衝く勢いで「ヤイ、後藤、土佐は薄情だからこんな事になったのだ。・・・・」と怒鳴りつけたという話が伝わっている。（宮地佐一郎「龍馬の手紙」P.498、お龍から安岡秀峰の聞書「反魂香」）

坂本龍馬暗殺事件概要

龍馬が京都に入ったのは、10月9日のことである。はじめ材木商の酢屋嘉兵衛方に投宿し、大政奉還に奔走していたが、浪士の巨魁である彼の動静には、幕吏の目が光っていた。 そこで龍馬は、身辺に危険が迫っていることから、河原町の土佐藩邸に入ることを希望した。ところが、土佐藩側はこれを拒んだ。龍馬はこの年の4月に脱藩罪を許されたとはいえ、かつては国法を犯した者である。これに藩内の保守派が反発し、彼を受け入れる雰囲気はなかった。こうした事情から、土佐藩御用達の醤油屋で藩邸に近い近江屋を宿としていた。

『寺村左膳道成日記』

https://ryomadna.net/assassination-4/

[現代語・意訳]による

同年11月15日朝4時頃から寺田ほか5人ばかり召し連れて四条の芝居見物に参る。自分は芝居見物がはじめてである。（中略）随分面白く夜8時に終わり、近喜まで帰ったところ家来よりあわてた様子で注進があり、子細は才谷梅太郎（坂本龍馬）ならびに石川清之助（中岡慎太郎）が、今夜8時頃四条河原町の下宿にいたところ、3、4の者が訪れ、才谷に面会を申し入れて名札を差し出したので、下男の者（藤吉）が受け取り2階へあがると、その3人が後からついて2階へ上がり、突然抜刀して才谷と石川に斬りかかった。不意のことゆえ両人は刀を抜き合う間もなく、そのまま倒れた。下男もともに斬られた。賊は散々に逃げ去った。才谷は即死。石川は少々息があったので療養に取りかかったという。たぶん新選組の仕業であろうとの報告である。御目付役によりそれぞれ手分けして探索させているという。しかるにこの両人とも近頃の時勢につき、寛大な意をもって黙認されていたが、元お国を脱藩した者であり、未だお国の命令で復籍となっていないので、2人の遭難は表向きは藩と無関係である。//

【松明は引き継がれた】 龍馬は薩長同盟や薩土密約から船中八策を経て大政奉還の実現まで陰の立役者であった龍馬は正しく誰に狙われても不思議でない存在であった。大政奉還が全く意外なほど安々と平和裡に実現したために保幕派のみならず武力討幕派の種々の組織からフィクサーとしての龍馬は狙われていた。（構図次頁） 暗殺の下手人は諸説あるが京都所司代見廻り組の数名だと言われている。下手人が誰であれ最も残念に思うのは暗殺の危険にあった功労者龍馬を何故、誰も警護しなかったのかという事である。特に、龍馬の力を最大限利用した土佐藩、中でも後藤象二郎ほか重役福岡孝悌、谷村左膳などの責任が問われるだろう。一例だが、上記の寺村左膳日記の赤字部“…時勢柄脱藩罪を黙認しただけで‥2人の遭難は…藩とは無関係である。…”という冷淡な記述に表れているように土佐藩の龍馬に対する非情で無慈悲な感情を否めない。龍馬は志をたてて以来、多数の師を得て不即不離の思想を体得して行動を続け大政奉還に貢献した。さらに死を予期してか、暗殺の約10日前に新しい世の実行案である新政府綱領八策（104頁）を書いて残した。“死して残した龍馬の想い”はその後、戊辰戦争を経て五箇条の御誓文へと繋がる。

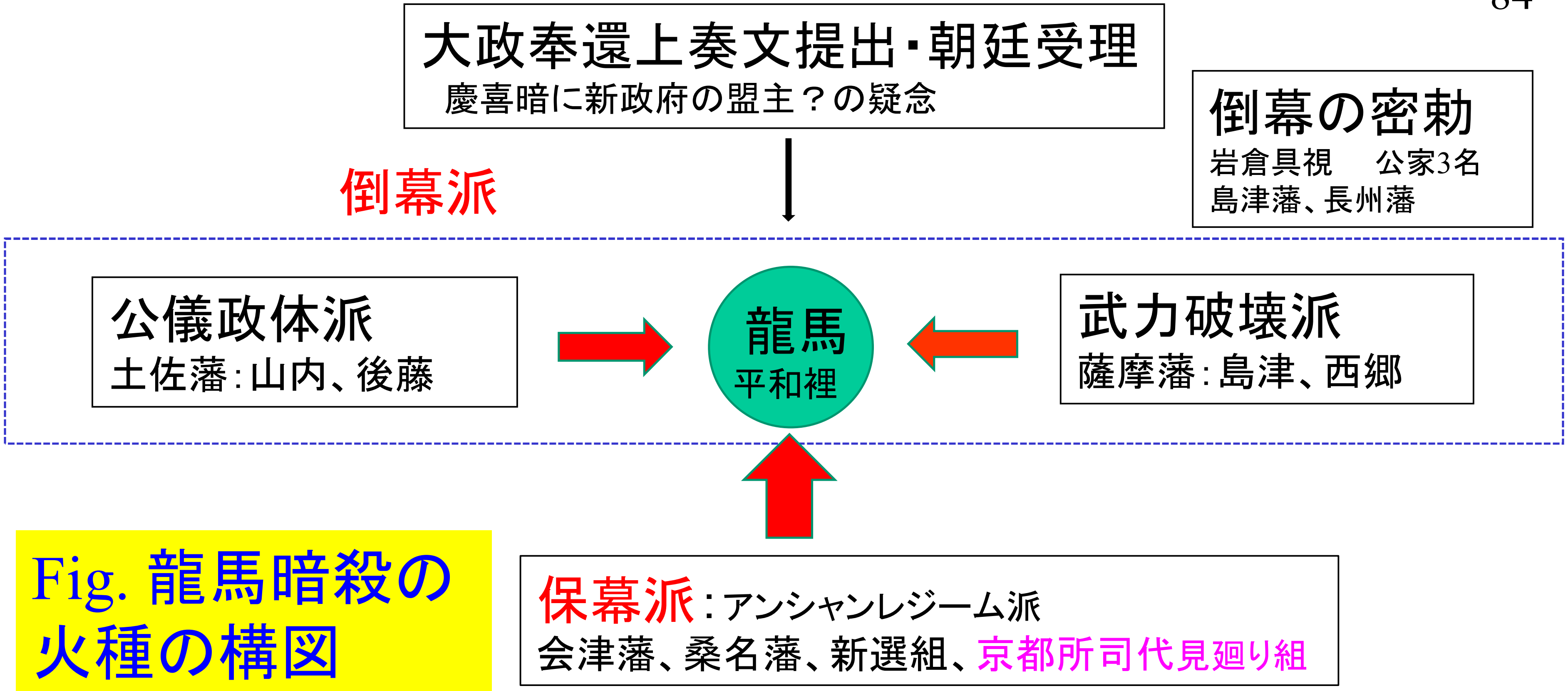


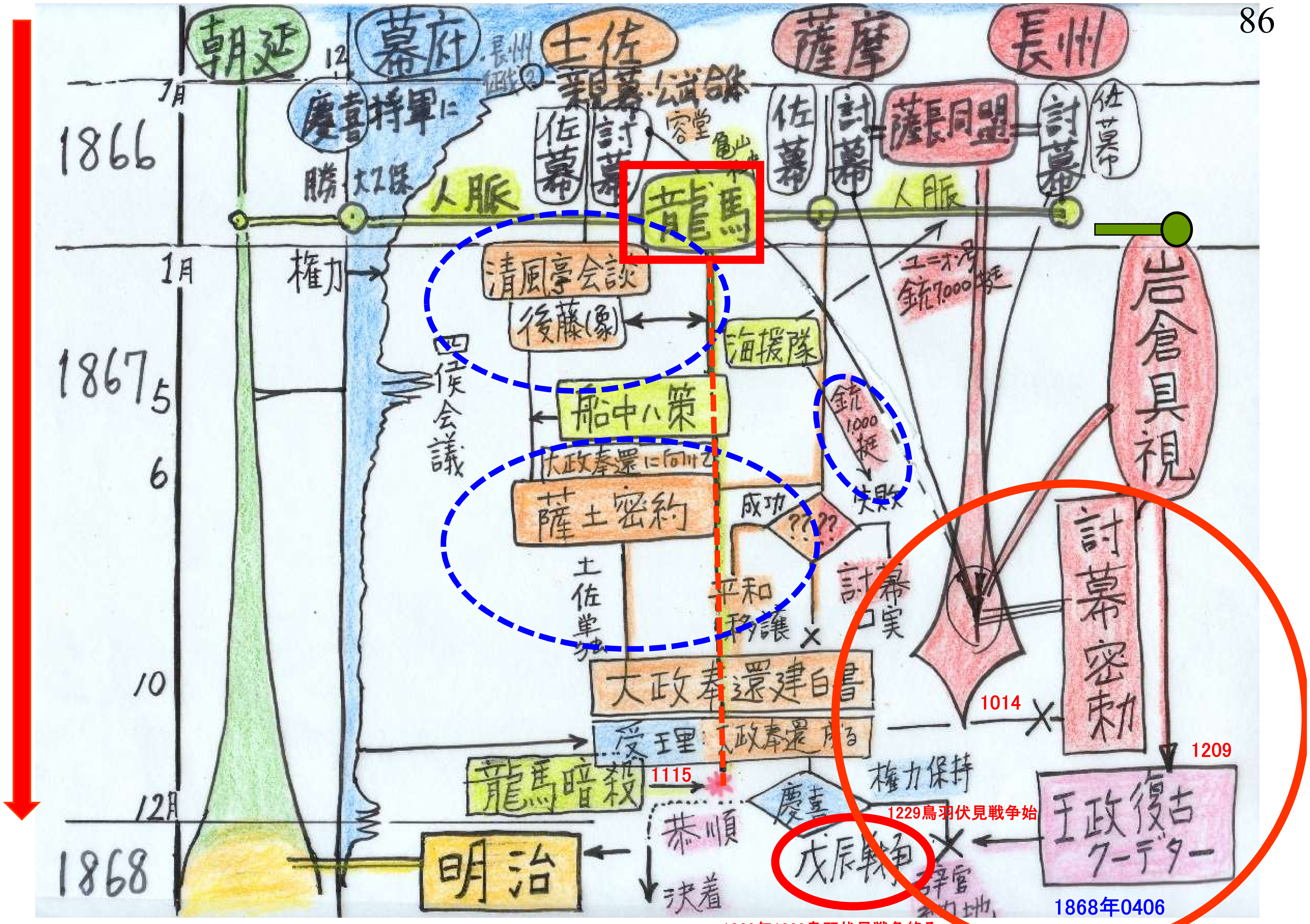
Fig. 龍馬暗殺の火種の構図

五箇条の御誓文発布までの道程（次頁年表）：

龍馬暗殺の慶応3年11月15日を挟んで歴史は大きく動き出した。12月9日岩倉具視は王政復古クーデターを画策断行し岩倉は参議に復帰、西郷の指揮で御所の門を閉鎖して天皇が王政復古大号令を発した。江戸幕府を廃止し慶喜の「辞官・納地」が決定した。そして天皇の下に三職（総裁・議定・参与）を置く新政権が樹立された。これを境にして討幕派と捕幕派（旧幕府軍）の間に長く熾烈な“戊辰戦争”が開始された。1867年12月29日鳥羽伏見の戦いに始まり約一年半の戦いの後、1869年5月18日の函館戦争の終結をもって新政府軍が勝利した。（戊辰戦争 - Wikipedia）

年号	月日	出来事	注
1867	1013	大政奉還案：老中板倉勝静に提案	
慶応3		慶喜大政奉還諸藩家臣に賛否問う ＜＞ 同時期に岩倉幕府倒幕の密勅画策	
	1014	大政奉還上奏文朝廷に提出・受理 ＜＞ 幕府倒幕の密勅下る ★龍馬暗殺11月15日	大政奉還～
	1209	岩倉派：王政復古クーデター！ → 討幕派は会津桑名両藩を御所から追い出す	
		天皇より王政復古大号令	王政復古
		小御所会議にて 徳川家の処分、辞官納地決定 ＜＞ 徳川慶喜反発優位性画策	大号令
	1229	鳥羽伏見の戦い始まる	
1868	103	薩摩藩/長州藩←激戦→旧幕府軍会津桑名両藩、新選組、見廻り組	
慶応4	104	新政府軍"錦の御旗"を掲げる→旧幕府軍"賊軍に" 総崩れ！！！	戊辰戦争
	106	徳川慶喜/松平容保、松平定敬、板倉勝静 江戸に敗走 敗北	
	107	新政府軍が旧幕府軍追討令発する	
	212	徳川慶喜：上野寛永寺で謹慎	
	306	江戸総攻撃3/15と決定通告	
明治元年	314-15	勝海舟と西郷：江戸会談、 314明治天皇が御箇条の御誓文発布	
	411	江戸城無血開城：徳川家存続、 421太政官制度（議政官、行政官、刑法官）	
	515	江戸上野戦争（彰義隊223-515） 以降、旧幕府軍は新政府軍に抵抗を続ける	
		会津戦争白虎隊自決（5月-922）、函館戦争（819-）	
	717	東京遷都	明治政府
	908	慶応→明治、江戸→東京、江戸に皇居、一世一元制度、明治天皇即位	新政治体制
1869 明治2年	518	函館戦争終結	

年表：大政奉還 ー 五箇条御誓文発布 明治元年 （次頁参照）



五箇条御誓文

時系列：龍馬の最後の3年における行動と関連事件

五箇条の御誓文: 明治元年3月14日(1868年4月6日)

推敲・決定の経緯

「五箇条の御誓文」は福井藩由利公正の草稿に、福岡孝弟が加筆修正し、さらに木戸孝允が修正を加えて作成、1868年慶応４年3月14日に天皇が神に誓う形で公布された。

http://mblog.excite.co.jp/user/tomorrows/entry/detail/?id=2091364

一 広ク会議ヲ興シ万機公論ニ決スヘシ

一 上下心ヲ一ニシテ盛ニ経綸ヲ行フヘシ

一 官武一途庶民ニ至ル迄各其志ヲ遂ケ人心ヲシテ倦マサラシメン事ヲ要ス

一 旧来ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基クヘシ

一 智識ヲ世界ニ求メ大ニ皇基ヲ振起スヘシ

勅語：（現代表記）我が国未曾有の変革を為んとし、朕、躬を以て衆に先んじ天地神明に誓い、大にこの国是を定め、万民保全の道を立んとす。衆またこの旨趣に基き協心努力せよ。　　　　年号月日　御諱

奉答書：（現代表記）勅意宏遠、誠に以て感銘に堪えず。今日の急務、永世の基礎、この他に出べからず。臣等謹んで叡旨を奉戴し死を誓い、黽勉従事、冀くは以て宸襟を安じ奉らん。　　　慶応四年戊辰三月　総裁名印　公卿諸侯各名印

引用：御箇条の御誓文　Wikipediaほか

五箇条の御誓文と意訳

一 広ク会議ヲ興シ万機公論ニ決スヘシ

広く会議をおこしてあらゆる重要事項について公開の場で議論すべし

一 上下心ヲ一ニシテ盛ニ経綸ヲ行フヘシ

上の者も下の者も心を一つにして盛んに国家の政策や経済について議論せよ

一 官武一途庶民ニ至ル迄各其志ヲ遂ケ人心ヲシテ倦マサラシメン事ヲ要ス

政府諸侯から一般庶民に至るまでその志を遂げられるようにして人心をあきさせないようにすること

一 旧来ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基クヘシ

今までの封建制や閉鎖性などの悪いしきたりを捨てて世界に共通する道理に基盤とすべし

一 智識ヲ世界ニ求メ大ニ皇基ヲ振起スヘシ

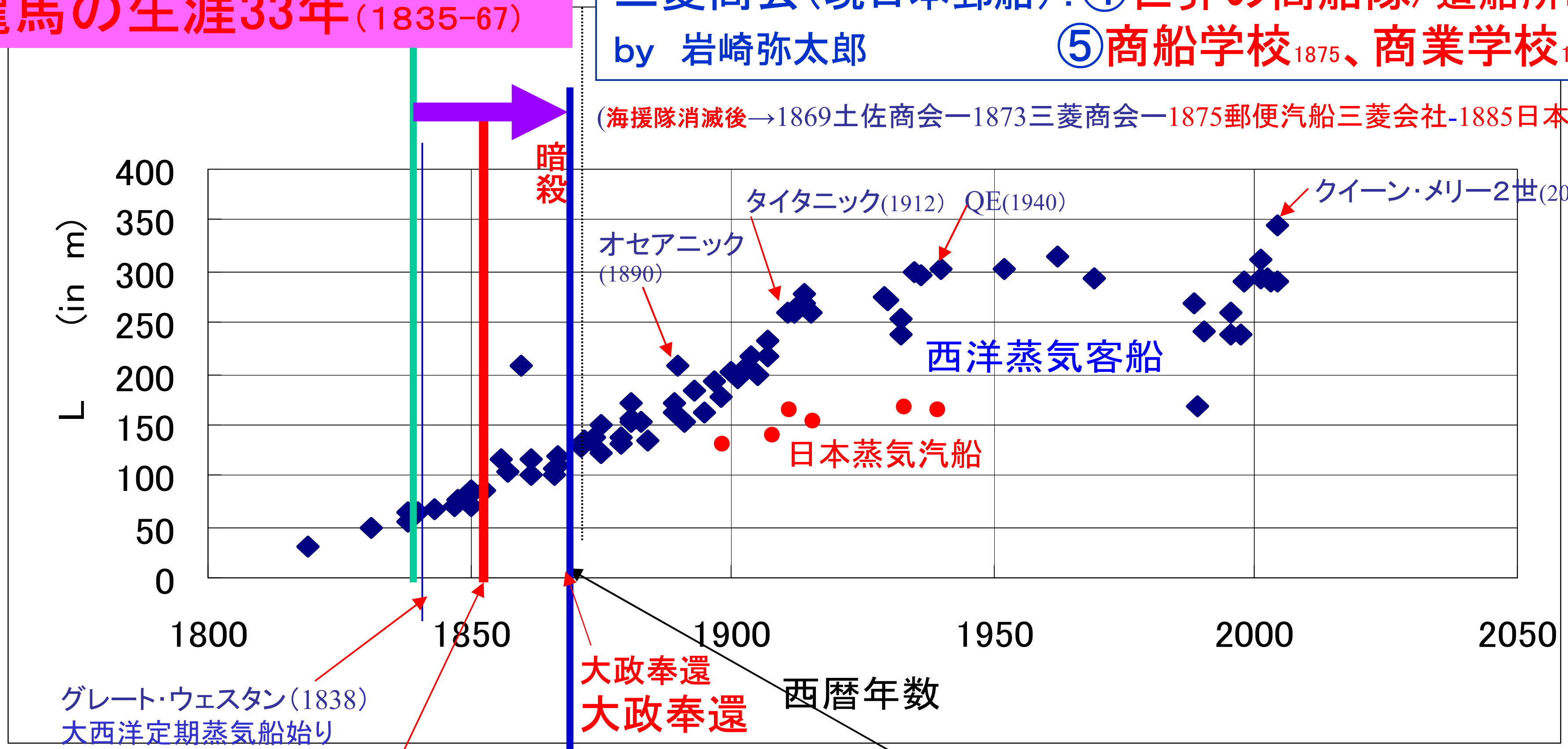
知識を世界に求め天皇が治めるこの国の基礎をおおいに発展させるべし

さて、龍馬の大いなるロマンは達成されたのでしょうか?

龍馬の生涯33年(1835-67)

三菱商会(現日本郵船):④世界の商船隊/造船所1884
by 岩崎弥太郎 ⑤商船学校1875、商業学校1878

(海援隊消滅後→1869土佐商会ー1873三菱商会ー1875郵便汽船三菱会社-1885日本郵船



①明治維新(1868):新しい日本
②五箇条の御誓文:新しい規範
③海軍 :首脳人材

幕末内憂外患の時代 明治時代

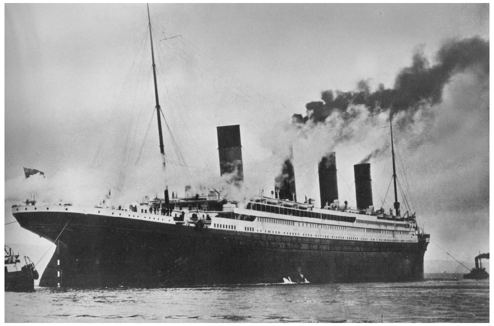
M=Y-1867

出典:野澤和男:船_この巨大で力強い輸送システム に追記

世界の海援隊でも
やりますかいのう。

(1)龍馬の偉業は
今も連綿として連なって
いる。

(2)龍馬の生き様は
現在、最も必要とされて
いる。　　と、私は思う。



Titanic (1912)

Q.Elizabeth (1940)

FINE

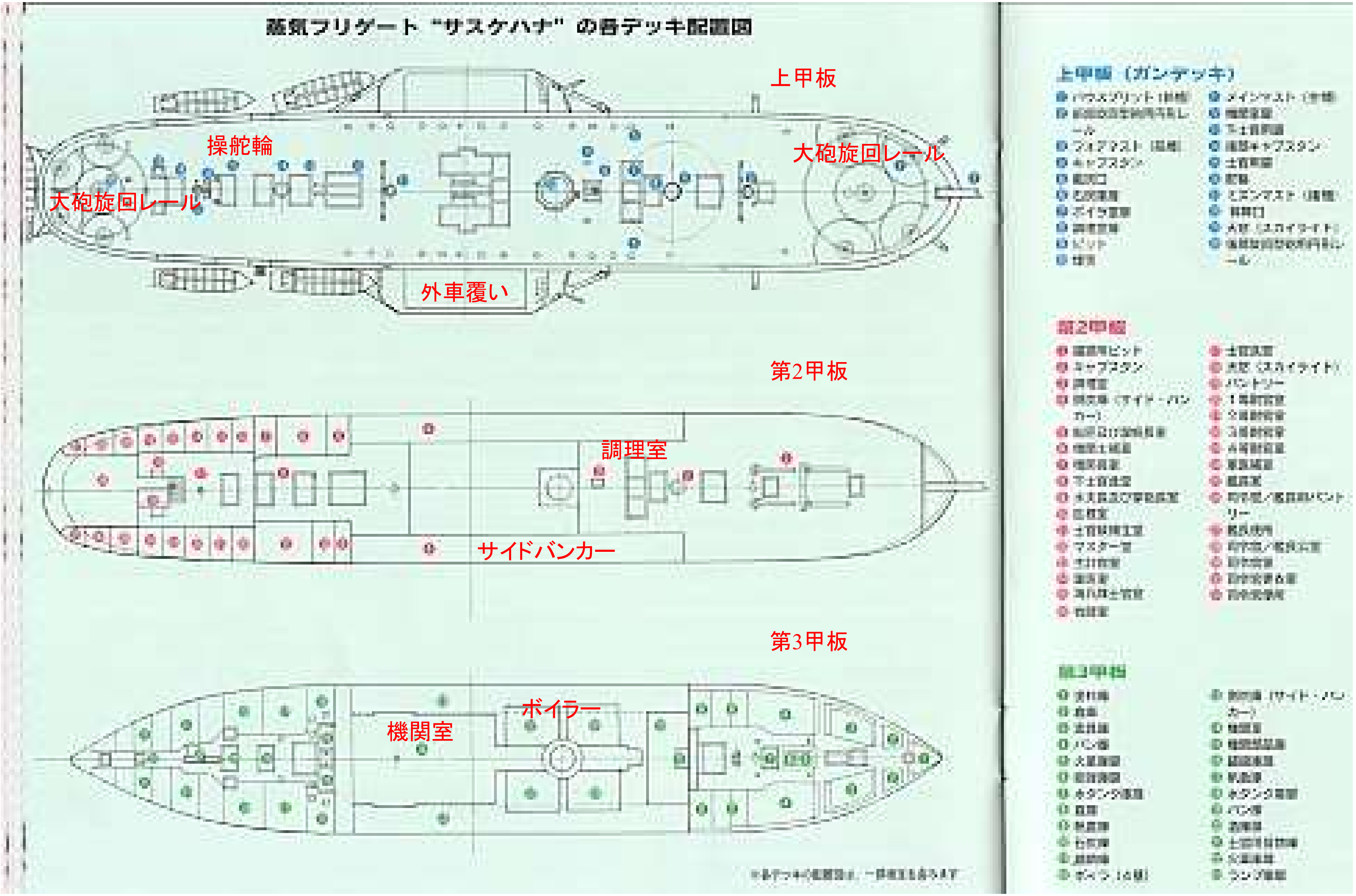
参考文献

No.	名称	著者、発行所
1	ペリー来航と横浜	横浜開港資料館
2	坂本龍馬といろは丸事件	日本財団助成事業
3	図解幕末・維新	成美堂出版
4	坂本龍馬と海援隊　新・歴史群像シリーズ⑳	学研
5	月刊　歴史街道8　坂本龍馬と亀山社中	PHP研究所
6	龍馬暗殺の謎：歴史スペシャル　12月号	世界文化社
7	坂本龍馬◎青春の航海地図	太陽の地図帳、平凡社
8	賢者は歴史に学ぶシリーズ❶龍馬になりたい！	プレジデント社
9	一個人別冊　歴史人坂本龍馬の真実	KKベストセラーズ
10	趣NHK直伝和の極意　古地図で巡る龍馬の旅	NHK
11	図解　幕末・明治維新　龍馬が見た日本の夜明けだ！	西東社
12	イラスト図解　幕末・明治維新　監修大石学	日東書院
13	歴史再発見　龍馬とその時代	大石学著　NHKカルチャーラジオ
14	幕末の蒸気船物語	元綱数道著　成山堂書店
15	黒船来航　船の科学館資料ガイド4	（財）日本海事科学振興財団船の科学館
16	咸臨丸　　船の科学館資料ガイド7	（財）日本海事科学振興財団船の科学館
17	菱垣廻船/樽廻船　船の科学館資料ガイド10	（財）日本海事科学振興財団船の科学館
18	龍馬の手紙	宮地佐一郎著　講談社学術文庫
19	英文幕末購入外国汽船便覧	T.M.Milne
20	オランダ風説書	松方冬子著　中公新書
21	Japan that Commmodore Perry observed	VADM(Ret.) Tsutomu Tamura
22	ペリー提督が見た日本	田村　力著
23	空蝉のことなど　近大土佐の群像（3）	渋谷雅之著
24	坂本龍馬	松浦　玲著　岩波新書
25	坂本龍馬	池田敬正著　中公新書
26	坂本龍馬と海援隊　ーベンチャー・ビジネスの視点から	平池久義著　下関市立大学論集
27	幕末幕府・諸藩輸入船舶及びスペック並びにトピック	http://www.d4.dion.ne.jp/~ponskp/bakumatsu/kansen.htm
28	竜馬がゆく	司馬遼太郎　文春文庫（全8巻）
29	龍馬	津本陽　集英社文庫（全5巻）
30	船_この巨大で力強い輸送システム	野澤和男著　大阪大学出版会

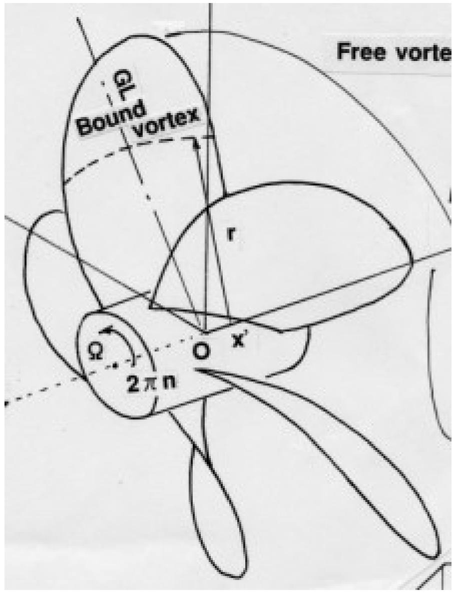
完

以下、参考

	蒸気船	帆船
船名	サスケハナ　シシッミピ	プリマス　サラトガ
英名	Susquehanna	Plymouth
建造年	1850	1844
造船所	フィラデルフィア海軍工廠	ボストン海軍工廠
船種	木造外車フリゲート	木造帆走スループ
長さ×幅×深さ×喫水	76.2×13.72×8.08×5.94m	44.96×11.61×5.23m×－
満載排水量	3824t	－
帆装	3本マストバーク型	3本マストシップ型
蒸気機関	斜動型×2	
出力	795IHP	
推進器　形式×数	外車×2	
直径（m）	9.45	
毎分回転数	12	
石炭搭載量（トン）	900	
航海速力（ノット）	8　(14.8km/h)	
備砲	10インチ･シェルガン　3(門)	8インチ･シェルガン　4(門)
	8インチ･シェルガン　6(門)	32ポンド砲　18(門)
	合計　9(門)	合計　22(門)
乗組員	300	210



出典：船の科学館資料ガイド4"黒船来航"(財)日本海事科学振興財団



Screw Propeller

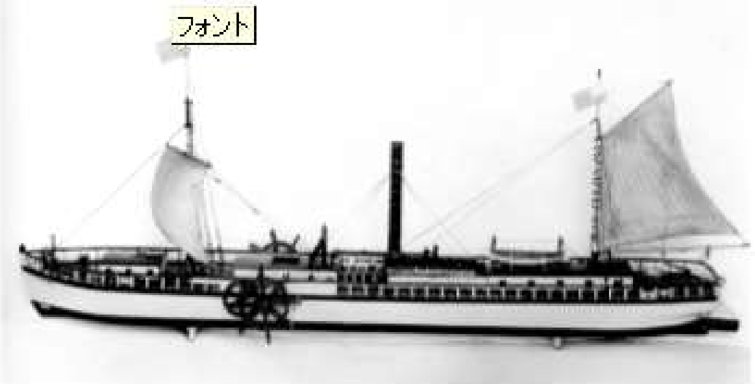


図 2-51 客船クラーモント号（フルトン：1807） Paddle wheel

Paddleの迎角制御

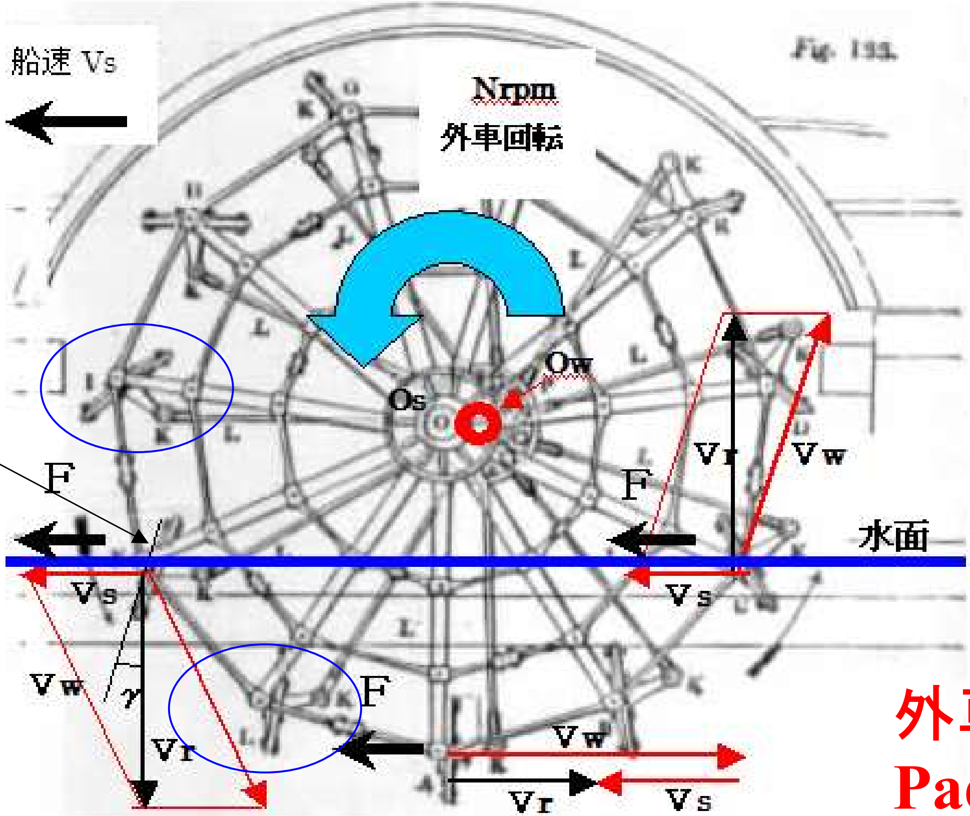


図 2-52 Galloway 考案の羽打翼外車(原図に追記)
(1827)

外車
Paddle wheel

出典：船_この巨大で力強い輸送システム：野澤、阪大出版会

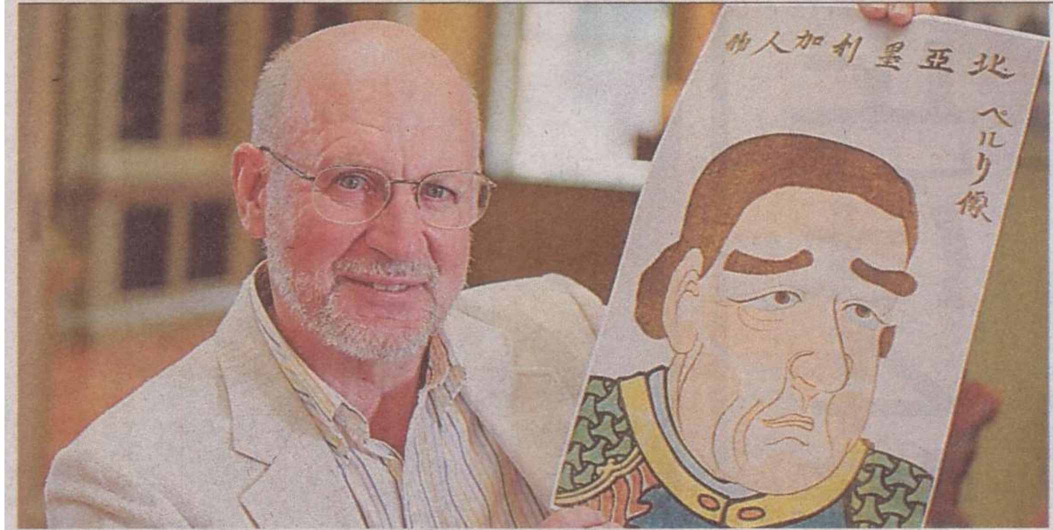
2010年(平成22年)10月31日　日曜日　14版　2

朝日新聞より切り抜き

ひと

「黒船」マシュー・ペリー提督の子孫

マシュー・カルブレイス・ペリーさん(69)
Matthew Calbraith Perry



有名人の子孫はつくづく損だ、先祖が名もない庶民だったらよかったのに、と思って生きてきた。

原体験は小学校の授業。「マシュー君、ご先祖の功績を皆に話してみて」と先生に指示され、知る限りのことを話した。「サムライ支配の日本を開国させた艦隊長です」。その日、級友たちにからかわれた。「先祖を自慢しちゃって」

心境が微妙に変わったのは昨夏。日米交流団体の一員として宮城県を訪れた。約400人の聴衆を前に「私はペリー提督の甥(おい)の息子の孫です」。驚くほど会場が沸いた。

滞日中に聞いたのは「武力を使わずに鎖国を解いた名将」という評価と、「列強の象徴そのものの尊大な人物」という反発。人物像に幅はあるが、だれもが詳しかった。

米国の学校では黒船の史実はあまり教えられていない。日本の幕末は米国でも動乱期にあたり、歴史の教師は南北戦争や奴隷解放を教えるのに忙しい。「おかげで提督の知名度は中の下どまり。日本での有名ぶりとは比較になりません」

本業は米地質調査所の生物学者。海鳥の生態調査が専門で、考案したカモ捕獲装置は今夏、メキシコ湾の原油流出現場で盛んに使われた。

日本人からよく「教科書で見た提督に似ていますね」と言われるが、自分では似ていないと思う。ただ直系傍系あわせて相当な人数にのぼる子孫の中で、同姓同名同ミドルネームは他にはいないそうだ。

文・山中季広　写真・坂本真理氏

2.3　攘夷の発端：尊皇攘夷と開国派/朝廷と幕府

→　異国船来航実績.xls

1)攘夷の発端−異国船接近：

●異国船補給：1770年頃からロシアやイギリスの船が日本に接近しはじめる。ロシアはカムチャッカを根拠地としてアザラシやラッコを捕獲して毛皮産業に、イギリスは東インド会社を拠点に中国等アジア貿易に力を注いで進出したため、燃料、水等の補給に日本は不可欠な国となった。このため幕府では海防問題論議が盛んとなった。

●漂流民：沿岸航行の樽廻船や漁船が概要に漂流して異国船に救助され、漂流民を伴って来航して開国をもとめるケースも多発する。ロシア公使アダム・ラックスマンは大黒屋光太夫を、ロシア大使レザノフは1804年来航し通称を要求して拒絶され、これが発端となって、彼の部下のロシア士官が蝦夷地寇掠を起こしゴロウニン事件に発展した。

●幕府対応：度重なる来航に悩んだ末に幕府は、1825年「異国船打ち払い令」を発令した。1837年アメリカ船モリソン号が日本人漂流民を伴い浦賀に来航したが打ち払われた。

●ペリー来航7年前：1846年米ビッドルが浦賀に来航し通商を要求したが幕府はこれを拒絶した。

→　異国船来航実績.xls

2)尊皇攘夷派、公武合体派、開国派の抗争

・1858年日米修好通商条約締結を幕府が朝廷の勅許を得ずに締結。幕府は圧倒的な西欧軍事力の前に開国以外はないと考えた。

・孝明天皇激怒(孝明天皇：開港，開市・・固く許容これなきよう。愚身においては承知いたしがたくそうろう。)

・長州、薩摩などの外様雄藩が怒り、天皇を擁立して武力で外国勢力を日本から追い出す尊皇攘夷派が増加した。

・また、外国貿易による富国強兵を望む武士らは開国派となった。朝廷を巻き込んだ幕府・雄藩・尊攘派・開国派の争いに激化。

1859年：安政の大獄
1860年：桜田門外の変で井伊大老が暗殺される。
老中安藤正信は幕府権力の失墜を認め、朝廷と連携で公武合体路線を進める方針を決め、皇女和宮降嫁を願い出た。
1862年：これがまた大きな火種と成り、坂下門外の変を起こした。
かくして、“テロの時代”に入った。

幕末蒸気船勝等西図写真trim.doc

幕府海軍輸入艦船の歴史

1854	オランダ商館長								
	クルチウス								
	スンピン号艦長	①コルベット2隻注文	1854						
	ファヴィウス中佐	②長崎海軍伝習所発足	1855		L×B(m)	disp(t)	Power	Vs(kts)	propulsion
	幕府海軍創設	スンピン号蘭寄贈	1854	観光丸	51.82×9.12	780	150	5	paddle
	意見書の提出	新造船	1857	咸臨丸	49.68×8.53	630	100	6	screw
			1858	長陽丸	ditto（sister s.)				screw
		英国女王寄贈	1858	蟠龍丸	41.15×6.7	370	128	7.5	screw
			1861	開陽丸	72.08×13.04	2590	1200	10	screw
			1862	富士山丸	63.09×10.364	1000	360ihp	8	screw
		中古船購入	1863b	順動丸	72×8.1	450	350		paddle
			1862b	昌光丸					screw
			1863b	太平丸					paddle
			1863b	翔鶴丸	60.4×7.3	350	350		paddle
			1864b	大江丸	48.6×7.8		120		screw
			1867	千代田型	29.67×4.88	138	60	5	screw
		40万$	1869	甲鉄	60×10	1358	1200ihp	10.8	screw
				黒龍丸	51.3×7.8		100		

雄藩龍馬ゆかりの船

薩摩藩		胡蝶丸	42.9×7.8	146	150		paddle
		三邦丸	53.1×6.3	410	110		screw
土佐藩		夕顔	64.8×8.1	659	150		screw
大洲藩		いろは丸	54×5.4	160	45		paddle
		明光丸	75.6×10.8	887	150		screw

幕末蒸気船

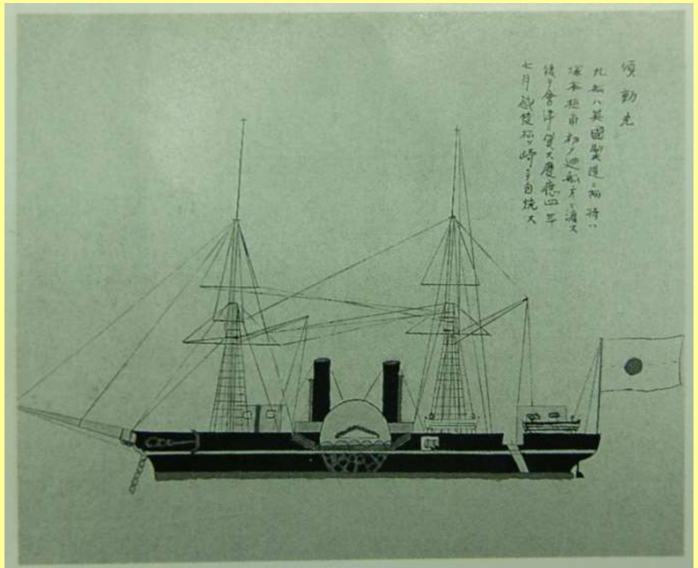
② 1863年3月家茂上洛、神戸海軍操練所建設承認

●朝廷は1862年幕府に攘夷の約束を迫ったので幕府は早々の上京を計画する。勝は海軍創設のプレゼンテーションのために船による上洛を考えていたので順動丸を15万＄で購入し、まずは幕府高官である小笠原図書守、山内容堂、松平春獄の上洛を船で行った。

●4人目は将軍家茂の乗船のはずであったが、大奥の大反対で（往きは）陸路となり、勝の期待が裏切られた。（ 3000人大行列、100万両）

ｉ)上洛後、将軍家茂を順動丸に乗せて神戸方面を海から案内した際に、天然の良港である神戸に海軍操練所を開設したい旨を直談判して承認を得た。幕府の正規の機関である神戸海軍操練所の発端である。同時に広い人材育成のために海軍塾（勝の私塾）の開設も許可を得た。

ⅱ)将軍家茂は順動丸で江戸に帰還した。



「順動丸」の図

- 購入年：1863年　from　英国、原名　：ジンキー
- 長さ×幅＝72×8.1m、排水量　＝450トン
- 馬力　　＝350HP、推進器：外車

勝海舟「海軍歴史」に書かれた 神戸海軍操練所構想と坂本龍馬への評価

卑賤草莽之徒は身を以って犠牲とし、其衡に当り、高潔を以って、自ら期す。人心の向ふ処如此。我、是等に関せず。是を殺すの拙なるを以って、唯其方向を一転せしめんと大に鼓舞して、他日の用に期するに有り。故に先づ、神戸の地に海軍局を設け、此輩を集合し、船舶の実地運動に従事せしめ、遠く上海・天津・朝鮮地方に航し、其地理を目撃し、人情を洞察せしめんとす。幸いに土州之人、坂本龍馬氏、我が塾に入り、大いに此挙を可とし、激徒を鼓舞す。

薩長同盟のための下工作：龍馬の妙案（亀山社中の仲介）

●ユニオン号：幕府から艦船の輸入が禁じられている長州藩がイギリスで建造され中国の上海に係留されていた船を1865年8月、グラバー商会経由で薩摩藩の名義として、亀山社中の近藤長次郎の斡旋で購入した船。（全長45メートル、排水量300トン、木製蒸気船）

桜島丸条約：船舶名義は薩摩藩、雇用は長州藩、操船・運用は亀山社中（薩摩旗を掲げて薩長両藩のため運航）という条件で購入。
薩摩藩は「桜島丸」と名付けた。
最終的には運用権は長州海軍局所属。（船名を乙丑丸）

●ミニエー銃4300挺、ゲベール銃3000挺＋　軍艦ユニオン号
計：13万100両（65億500万円）=7.74＋1.5+3.77　（万両）

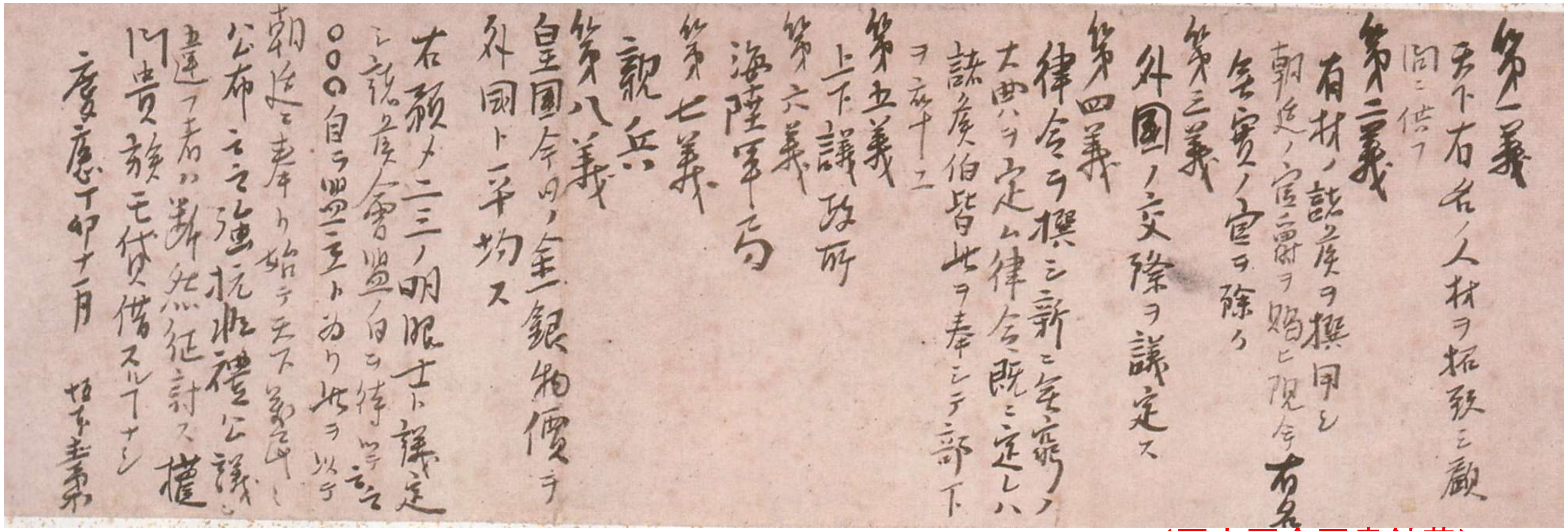
亀山社中古写真

福山市
笠岡市
鞆の浦
約15km
沈船の発掘調査位置
北緯　34度16分46秒
東経133度28分40秒
丸亀市
坂出市
玉野市
塩飽諸島
仲多度郡
善通寺市
観音寺市

いろは丸事故発掘調査

新政府綱領八策（八義）（坂本龍馬直筆：1967年11月）

第一義
天下有名ノ人材ヲ招致シ顧
問ニ供フ
第二義
有材ノ諸侯ヲ撰用シ
朝廷ノ官爵ヲ賜ヒ　現今有名
無実ノ官ヲ除ク
第三義
外国ノ交際ヲ議定ス
第四義
律令ヲ撰シ　新ニ無窮ノ
大典ヲ定ム　律令既ニ定レバ
諸侯伯皆此ヲ奉ジテ部下
ヲ率ス
第五義
上下議政所
第六義
海陸運局
第七義
親兵
第八義
皇国今日ノ金銀物価ヲ
外国ト平均ス
右預（あらかじ）メ二三ノ明眼士ト議定
シ　諸侯会盟ノ日ヲ待ツテ云々
〇〇〇自ラ盟主ト為リ　此ヲ以テ
朝廷ニ奉リ　始テ天下万民ニ
公布云々　強抗非礼公議ニ
違フ者ハ　断然征討ス　権
門貴族モ貸借スルコトナシ
慶応丁卯十一月　坂本直柔



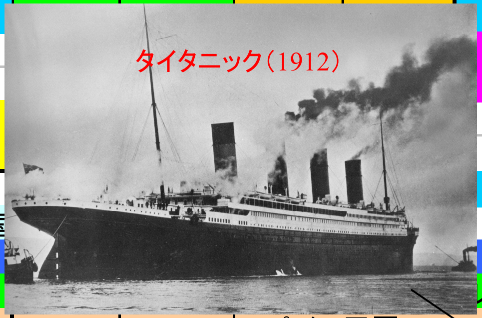
（国立国会図書館蔵）

300– 400– 500– 600– 700– 800– 900– 1000– 1100– 1200– 1300– 1400– 1500– 1600– 1700– 1800– 1900– 2000–

日本 大化改新 奈良 平安 藤原全盛 平氏 鎌倉 建武中興 室町 戦国 徳川幕府 黒船(53)明治大正昭和平成

高句麗 新羅 高麗 朝鮮（李朝） 大韓民国

北魏 隋 唐 北宋 南宋 清 中華民国 中国



ササン朝ペルシャ サラセン帝国 シャ

ローマ 東ローマ帝国 最盛時代

395

帝国 西ローマ帝国 国

>475

ジェノア共和国 ツ共和国

オーストリア

フランク王国 共和国

スペイン王国(ハプスブル 共和国

ポルトガル ポルトガル共和国

インカ帝国 スペイン領・ポルトガル領 メキシコ・アルゼンチン・チリ・ペルー

ネーデルランド 独立(1581) オランダ王国

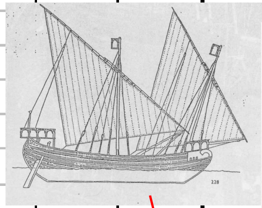
アルフレッド大王 (プランタジネット朝) イギリス 海上権 イギリス王朝

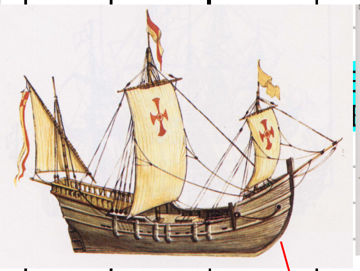
↑バイキング侵攻 (ランカスター)（チューダー）(スチュワート) ビクトリア

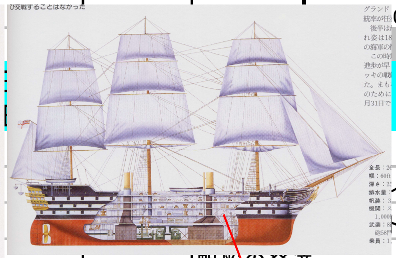
メイフラワー アメリカ合衆国

0)

ロシア帝国(ロマノフ朝) ソビエト・ロシア連邦







産業革命 航空機発展

イギリス 大西洋 世界大戦

ド会社 定期客船 ●14●41

帆船の発達 帆走商船 蒸気客船

ルネサンス盛期 マンモス客船→クルーズ客船

日本開国太平洋航路

海運造船 日本商船造船技術

300– 400– 500– 600– 700– 800– 900– 1000– 1100– 1200– 1300– 1400– 1500– 1600– 1700– 1800– 1900– 2000–

→ 大型帆船の時代

日本洋式船舶の初め

大西洋横断蒸気船の始まり
ブリタニア(1840)、L=63m,423HP

④スカンディナビアの海を行く船

⑤地中海の船と海運都市

大航海時代

ペリー来航(1853-54)

ッパー

龍馬の時代

⑧産業革

⑨大西洋航路の定期客船

船の歴史の中の龍馬の時代

船_この巨大で力強い輸送システム(野澤和男著、大阪大学出版会)に加筆